

科目名	宗教学		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
担当教員	福島 寅太郎			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。</p> <p>本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。</p> <p>本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。</p>			
達成目標	<p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
教科書	なし			
参考書	特になし			
学生への要望	ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時(12時～12時40分)。担当教員の研究室（創学館No. 5）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし。 1.5
2	生活と宗教（1）一禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしながら、生活における禅の役割を考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
3	生活と宗教（2）一生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
4	生活と宗教（3）一「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
5	生活と宗教（4）一だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがある。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
6	生活と宗教（5）一般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
7	生活と宗教（6）一こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にするものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
8	生活と宗教（7）一禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
9	生活と宗教（8）一宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
10	生活と宗教（9）一アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
11	生活と宗教（10）一アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5

科目名	デッサンⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	I		
授業概要	「デッサンは芸術の実体そのものである。輪郭をなぞるだけではデッサンにはならない。デッサンというものはただ線だけを問題にしてはいけないのだ。デッサンもまた独自の表現であり内的なフォルムであり計画であり肉付けなのである。ーアングル（画家）」このようにデッサンには最小限の材料や色彩によって表現されたシンプルな美しさと厳しさがああります。本授業では造形活動の基礎となるよう「見る・描く」を繰り返すことで物の本質に迫り、描写力と表現力を養います。		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけのデッサン空間を創りあげていくことを目標とします。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	例ーアングル・ダヴィンチ・ラファエロ・ロダンなどのデッサン集・その他、授業に関連する画集等は適宜指示をする。		
学生への要望	すべての造形活動の基礎であるデッサンの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイム	授業に関する質問は、火曜日Ⅳ・Ⅴ、水曜日Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ、木曜日Ⅰ・ⅤにNo.1地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション及びクロッキーー1	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。
2	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
3	クロッキーー2	人物クロッキー ・クロッキー（Croquis）とは速写、略画など短時間で行なう写生のこと。 ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。
4	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
5	鉛筆デッサン	人物を描く ・鉛筆デッサンは形や調子を正確にとったり造形的な線の成り立ちを理解したり的確で微細な描写に優れた特性を持っている。 ・学生同士、お互いにモデルになりながら描く。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。
6	同上	人物を描く ・モデル学生の特徴や雰囲気等を深く観察する。モデル学生に肉薄し、完成に近づけていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
7	クロッキーー3	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、暮ペンとインクなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。
8	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、暮ペンとインクなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
9	クロッキーー4	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。
10	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
11	木炭デッサンー1	石膏像デッサン ・木炭デッサンは柔らかな材質感と描きやすさ、パン等の消し具を使い、消したり描いたり自由簡単に出来るという特性を持っている。 ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。	【事前学習】授業に関連する木炭デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	同上	石膏像デッサン ・引き続き、全体の形を整えながら徐々に細部の描写に入っていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
13	木炭デッサン-2	石膏像デッサン ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。 ・デッサンも2週目に入り全体の形を整えながら細部を仕上げていく。	【事前学習】授業に関連する木炭デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。 30
14	同上	石膏像デッサン ・デッサン最終コマ。細部を描写しつつ全体の形を整えながら仕上げていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
15	フロッタージュ	フロッタージュ ・フロッタージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き、紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮かあがらせるという技法。 ・開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッタージュをする。(木炭・鉛筆・チョーク等使用)	【事前学習】授業に関連する描画材や参考作品集などを事前に関覧、研究しておく。 30
16	同上	フロッタージュ ・引き続き、開成山公園で木の枝、葉、石等をフロッタージュをする。(木炭・鉛筆・チョーク等使用)	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
17	鉛筆デッサン	静物デッサン ・油彩画のモチーフ(描画対象)を鉛筆デッサンする。 ・的確で微細な描写のできる鉛筆デッサンをすることによってデッサン力と油彩画の描き込みのヒントになるという両方の効果が望める。	【事前学習】授業に関連する鉛筆デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。 30
18	同上	静物デッサン ・引き続きデッサン。細部を描写しつつ全体の形も整えながら仕上げていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
19	映像メディア表現-1	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・各自カメラを持ち開成山公園で自由に取材をする。それを次週までにプリントしておく。	【事前学習】授業に関連するコラージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。 30
20	同上	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・他人とは違う自分だけの視点、切り口により様々なアングルで興味ある場所を撮影する。撮影したものは次週までにプリントアウトしておく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
21	映像メディア表現-2	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・前回取材しプリントアウトした写真を並べ簡単な意見交換会 ・その写真を自由に拡大・縮小コピーして台紙に貼り、更に彩色をして作品にする。	【事前学習】授業に関連するコラージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。 30
22	同上	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・制作最終コマ。全体感を損なわないように彩色をして完成に向かう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
23	段ボール壁画制作-1	壁画共同制作 ・いくつかのグループに分かれて、更紙などにそれぞれメンバーのアイデアや構想を描いてみる。	【事前学習】授業に関連する壁画資料集などを事前に関覧、研究しておく。 30
24	同上	壁画共同制作 ・エスキース(下絵)の中からメンバーで話し合い、少しずつ作品のイメージを作っていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
25	段ボール壁画制作-2	壁画共同制作 ・前回同様、メンバーでディスカッション後、更なる壁画作品のイメージを詰めていく。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。 30
26	同上	壁画共同制作 ・ある程度、構想がまとまったら大型ダンボールに制作を始める。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
27	段ボール壁画制作-3	壁画共同制作 ・大型段ボールに制作をする。 画材、色材、コラージュするものを準備しておく。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
28	同上	壁画共同制作 ・あまり細かくならないように大きな視点で制作していく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	段ボール壁画制作-4	壁画共同制作 ・大型段ボールに制作をする。最初の直感やインパクトを忘れずに仕上げに入る。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
30	同上	壁画共同制作 ・大型段ボールに制作をする。最終仕上げに入る。 講評会 ・段ボール壁画の講評会、意見交換及びデッサンIの総評。	【事後学習】実技授業実施内容（講評会）を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

科目名	デッサンⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅱ		
授業概要	デッサンは線的な手段を用いて対象の輪郭、構造、量感、質感などを探り出す技術の総称です。また絵画表現の基礎的な物の見方の訓練としても大切なものであります。ここではデッサンⅠの授業内容を引き継ぎ更に一步踏み込んで学生各自の個性に合わせ、徐々に表現内容、素材の幅を広げていきます。		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえでより確かな描写力と表現力を養うことを目標とします。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題 目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	授業に関連する画集等は適宜指示する。 例―画家のスーラ・ゴッホ・セザンヌ・ピカソなどのデッサン集		
学生への要望	デッサンすることの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。 【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要な場合はポートフォリオなどを製作する。（1時間）		
オフィスタイム	授業に関する質問は火曜日Ⅳ・Ⅴ、水曜日Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ、木曜日Ⅰ・ⅤにNo.1生芸研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション及びフロッターージュ	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 ・フロッターージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮かあがらせるといった技法。 ・学内や開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッターージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用） ・放射線量に細心の注意を払い、長時間の屋外滞在は避け効率よく実施する。	【事前学習】授業に関連するフロッターージュ作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
2	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
3	人物クロッキーー1	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用）	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に閲覧、研究しておく。
4	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
5	人物クロッキーー2	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用） ・二人ポーズや1分クロッキー	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に閲覧、研究しておく。
6	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
7	石膏像デッサンー1	石膏像デッサン ・石膏像デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素を正確に把握し客観的に造形化する基礎的な訓練である。 ・細部にとらわれず、たえず全体とのバランスを見る。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
8	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
9	石膏像デッサンー2	石膏像デッサン ・対象をよく観察し、形態や大きな構造をとらえる。 ・全体的な像の量感、質感をはっきりさせ反射光などの淡い調子も意識しながら完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
10	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	鉛筆構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせる。 ・強く握ったり、やさしく握ったり、いろいろ角度を変えたりして自分の手をよく観察する。 ・自分が美しいと思う手の表情が出来たら、いくつか組み合わせる。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
12	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
13	色彩を使った構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせる。 ・観察が大事で基本的には前回の鉛筆デッサンと同じだが、ここでは描画材料の特質を引き出し色彩的効果を考えながら制作する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
14	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
15	静物デッサン 1	トレーシングペーパーを含んだ静物を描く。 ・トレーシングペーパーと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・単なる静物デッサンと違いトレーシングペーパーから少し透けて見える部分の微妙な違いを描き分ける事により物の質感の把握、鉛筆の技法等の向上が期待できる。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
16	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
17	静物デッサン 2	透明フィルムを含んだ静物を描く。 ・透明フィルムと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・前回のねらいとほぼ同じだが透明感及び光沢を表現するという事により高度なデッサン力が要求される。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
18	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
19	人物木炭デッサン 1	人物木炭デッサン ・モデルを使い最初は数分のクロッキーから始め、幾つかのポーズにしぼり、その中から多数決で固定ポーズを決める。 ・生きている人のまさに生き生きとした表情を自分なりに表現してみる。	【事前学習】授業に関連する人物デッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
20	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
21	人物木炭デッサン 2	人物木炭デッサン ・モデルを使い固定ポーズで描く。 ・全身の立体感などを忘れずに顔や手の表情もよく観察して完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する人物デッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。
22	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
23	自由制作 1	自由制作 ・ダンボールを支持体として使った、一年間の集大成としての作品創り。 ・ダンボールは木炭や鉛筆描画の他、地塗りや彩色、更には切り張りといった加工がしやすい材料である為、様々な可能性がある。 ・スケッチブックや更紙に構想を練る。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
24	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
25	自由制作 2	自由制作 ・基本的には平面制作であるが多少の立体表現は問わないので各自、自由な発想とダイナミズムを忘れずに構想を詰める。 ・コラージュを含める学生は材料を集める。 ・ある程度、エスキース（下絵）が煮詰まったら制作を開始する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に閲覧、研究しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
26	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
27	自由制作ー3	自由制作 ・制作も山場にはいり、作品が徐々に具現化してくる。 ・墨汁や彩色、あるいは接着剤使用で乾燥が間に合わない場合はドライヤー等も使い来週の完成を目指す。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
28	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
29	自由制作ー4と講評会	自由制作 ・作品制作も佳境に入り細部の仕上げなど、まとめにはいる。 講評会 ・各自、自由制作の作品を並べ制作コンセプトを発表する。その後、学生との意見交換も含めた講評会を実施する。 ・デッサンⅡ及び1年間の総評。	【事前学習】講評会に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
30	同上	同上	【事後学習】講評会指摘内容を踏まえ、制作した作品の検証を自分なりにしておく。 30

科目名	油彩画 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し愛され生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないでしょう。その中でも油絵は油彩絵具によるもので非常に便利で自由、しかも高度な表現が可能とされています。それだけに可能な限りの新造形運動の実験の場となり総合的な表現スタイルをとっている分野でもあります。本授業では基礎的な技法の理解と研究を行ない、一步一步自分の作品の制作向上を計りながら、更にデッサンの授業と相まって描写力と表現力を養うことを目的とします。		
達成目標	油彩画の特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りだしていくことを目指し		
受講資格	地域創成学科 1年生、生涯学習講座受講生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	・新技法シリーズ絵画技術入門…佐藤一郎（美術出版社） その他、授業に関する画集、資料などは適宜指示する。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、技法に早く慣れ、自分の世界を創っていく。また主体的、積極的な姿勢で授業に望む。		
オフィスタイム	授業に関する質問は火曜日Ⅳ・Ⅴ、水曜日Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ、木曜日Ⅰ・ⅤにNo.1生芸研究室で受けません。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション	ガイダンス ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（F20号キャンバスを含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。
2	静物画ガイダンス	静物画のモチーフ（描画対象）制作 ・静物画制作では身近な“物”の美しさを発見し自分の内的感情を追求してゆく。 ・全員でモチーフ倉庫に行き各自好きな静物を選びそれを組み合わせてモチーフを作る。	【事前学習】授業に関連する道具やモチーフなどを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。
3	静物画制作－1	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をすする。 ・静物の全体感を損なわないように気を使いながら構図を徐々に決めてゆく。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。
4	静物画制作－2	作品制作 ・油絵具、オイルなどの基本的な使用方法を具体的に解説しながら指導する。 ・まず、固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。
5	静物画制作－3	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・ペインティングナイフ（油彩画専用コテ）や絵画用砂を使いマチエール（画肌）や画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
6	静物画制作－4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
7	静物画制作－5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば反対色は強烈な効果が生まれ、同色系は統一した効果が生まれる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	静物画制作－6	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
9	静物画制作－7	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
10	静物画制作－8	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむ事によって表現が硬くならないように注意する。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
11	静物画制作－9	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・かなり完成に近づいてきたが完成まで手を抜かず細心の注意をはらう。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
12	静物画制作－10	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かう。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
13	静物画制作－11	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
14	静物画講習会	<p>静物画講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕上がった静物画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講習する。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指す。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。</p>	30
15	風景スケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ期から始まる風景画の為の準備スケッチ。各自構内を自由に散策しながら好みの場所を探す。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
16	風景画ガイダンス	<p>※これよりⅡ期 風景画ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風景画制作のポイントや具体的方法を指導する。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。 ・各自、大学構内の好きな場所で油彩画制作を視野に入れながらスケッチをする。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したスケッチを整理しておく。</p>	30
17	風景画制作－1	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風景写生は外に出て自然の美しさの中にひたり、そこでの一体感から始まる。 ・風景画制作の為の場所（大学構内）を決定する。 ・カリキュラムスケジュール上、期間が晩秋に至るので風景の色合いや雰囲気の変化なども考慮に入れる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
18	風景画制作－2	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・参考資料や画集、デッサン集も適宜見せながら指導する。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
19	風景画制作－3	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンバスに入る風景の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていく。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
20	風景画制作－4	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば木の葉の塊、道、空などを色面で捉えてみる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
21	風景画制作－5	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・画面の中で強調、又は不必要なものを省略しながら形を探っていく。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
22	風景画制作－6	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。 ・画面をまとめるにあたり、もう一度画面構成を確認してみる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
23	風景画制作－7	<p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・完成に近づいてきたが完成までは手を抜かず細心の注意をはらう。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
24	風景画講評会	<p>風景画講評会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕上がった風景画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画風景制作の目標達成を目指す。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。</p>	30
25	人物画ガイダンス及び人物画制作－1	<p>作品制作（クロッキー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物モデルによるクロッキーを4回実施し、その中から固定ポーズを決める。 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
26	人物画制作－2	<p>作品制作（固定ポーズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の全体感を損なわないように気をつけながら徐々に構図を決めていく。 ・単純な描写だけでなく、人物の内に秘められたキャラクターや美しさなども同時に表現しようと試みる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
27	人物画制作－3	<p>作品制作（固定ポーズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・光の方向や色彩の取り入れ方なども工夫してみる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30
28	人物画制作－4	<p>作品制作（固定ポーズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・バックとの関係に気をつけながら人物の顔や衣装を描き込んでいく。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
29	人物画制作－5	<p>作品制作（固定ポーズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとられず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
30	人物画講評会及び油彩Ⅰの総評	<p>講評会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕上がった人物画作品を並べ、画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画人物制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅰの一年間の総評及び反省 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>

科目名	塑造表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造表現の授業では粘土による造形、石膏取りなどの技法、テラコッタ（焼成による造形）を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。		
達成目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。		
受講資格	地域創成学科1年生 生涯学習生	成績評価 方法	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。
教科書	特に無し。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等 		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
オフィスタイム	・月曜日Ⅰ～Ⅲコマ（8:50～14:30） 彫刻室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	塑造表現の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・塑造表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習 	0
2	頭像制作－1	<ul style="list-style-type: none"> ◆塑造について学習する 塑造の初めての学習として、友人の頭像をつくることで、彫刻の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、塑造の基礎的な技法（芯棒づくり、石膏取りなど）の習得を目指す。 《課題についての説明とデッサン》 ・頭像をつくる目的、意義について ・具象彫刻についての学習 ・グループ分けを行いデッサンする 	120
3	頭像制作－2	<ul style="list-style-type: none"> 《芯棒制作と粘土練り》 ・芯棒を作る ・粘土を練る 	120
4	頭像制作－3	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・1》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する 	60
5	頭像制作－4	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・2》 ・第4回に同じ 	60
6	頭像制作－5	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・3》 ・前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・注意する点 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか 	60
7	頭像制作－6	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・4》 ・第6回に同じ 	60
8	頭像制作－7	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・5》 ・完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げしていく 	60
9	頭像制作－8	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・6》 ・第8回に同じ 	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	頭像制作-9	<p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> 石膏取りについて学習する 雌型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 石膏取りの環境をつくる 粘土作品に切り金を差し込む 石膏液を振りかける 石膏を盛り上げる <p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> 石膏取りについて学習する 雌型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 石膏取りの環境をつくる 粘土作品に切り金を差し込む 石膏液を振りかける 石膏を盛り上げる <p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> 石膏取りについて学習する 雌型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 石膏取りの環境をつくる 粘土作品に切り金を差し込む 石膏液を振りかける 石膏を盛り上げる 	0
11	頭像制作-10	<p>《石膏取り・2》</p> <ul style="list-style-type: none"> 雄型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 離型剤を雌型に流し込む 雌型に石膏液を流し込む スタッフで補強する 	0
12	頭像制作-11	<p>《石膏取り・3》</p> <ul style="list-style-type: none"> 割り出し、修正を行う 乾燥後着色 	120
13	頭像制作-12	<p>《石膏取り・4》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第12回に同じ 	120
14	頭像制作-13	<p>《台座制作》</p> <ul style="list-style-type: none"> 台座について理解する 木材で台座を制作後、頭像を設置する 	120
15	頭像制作-14	<p>《合評会》</p> <ul style="list-style-type: none"> 制作した頭像作品についてのプレゼンテーションを兼ねた合評会を行う 	0
16	テラコッター1	<p>◆塑造（モデリング）の表現の一つである、テラコッタについて学習する。粘土の練り方や保管の方法など、理解する。 テーマは自由。各自彫刻性を意識したものを構想し、制作する。</p> <p>《アイデアデッサン》</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由に構想を練りながらデッサンする 	120
17	テラコッター2	<p>《モデリング・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘土の練り方を練習する 手びねり（芯棒を用いない）で制作する 	0
18	テラコッター3	<p>《モデリング・2》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第17回に同じ 	60
19	テラコッター4	<p>《モデリング・3》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第17回に同じ 	60
20	テラコッター5	<p>《モデリング・4》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第17回に同じ 	60
21	テラコッター6	<p>《モデリング・5》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第17回に同じ 	60
22	テラコッター7	<p>《モデリング・6》</p> <ul style="list-style-type: none"> 焼成の準備 <ol style="list-style-type: none"> 少し乾燥させた作品の内側を空洞にする 量のある部分は穴を開けるなど、 	0
23	テラコッター8	<p>《モデリング・7》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第22回に同じ 	60
24	テラコッター9	<p>《モデリング・8》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第22回に同じ 	60
25	テラコッター10	<p>《モデリング・9》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第22回に同じ やすりをかけるなど、乾燥した粘土でなければ出来ない造形を行う 	0
26	テラコッター11	<p>《モデリング・10》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第22回に同じ 	120
27	テラコッター12	<p>《モデリング・11》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第22回に同じ 着色について学習する 	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
28	テラコッタ-13	《モデリング・12》 ・第27回と同じ ・台座の制作を行う	・台座をサンドペーパーなどで磨く。 着色を行う。 120
29	テラコッタ-14	《モデリング・13》 ・第28回と同じ	・台座をサンドペーパーなどで磨く。 着色を行う。 120
30	テラコッタ-15	《合評会を行う》 ・制作したテラコッタ作品についてのプレゼンテーションを含めた合評を行う	0

科目名	基礎デザイン		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 この授業ではでデザインの基本的な考え方や提示の仕方を学びます。 点・線・面など構成の基礎となる造形の諸要素を知り、色彩を体系的に把握します。</p> <p>【授業の概要】 5つほどの課題に取り組みながら、他者への発信の仕方やその技法などを学びます。</p>			
達成目標	日常生活の中で一定の情報をわかりやすく視覚的に伝えていく表現の一つにデザインがあります。「視覚言語としてのデザイン」が社会で果たす役割について考えてください。			
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	制作姿勢(20%)課題作品の提出状況と達成度(80%)の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。	
教科書	ありません。 必要に応じて配布します。			
参考書	<p>○参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代デザイン事典(平凡社) ・デザイン概論(ダヴィッド社)など <p>○画材など (画材についてガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクリル絵具 ・マスキングテープ ・筆・定規 など 			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中にあるデザインについて興味・関心を持ってください。 ・美術館・博物館などへ足を運び、ワークショップなどにも積極的に参加してください。 			
オフィスタイム	<p>月曜日 II～IVコマ 木曜日 IIコマ 金曜日 I・II・IVコマ 場所：No.1生芸研究室(名称変更の場合あり)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	基礎デザインの授業内容について説明し、生活の中のデザインについて考える。 また、必要な材料とデザイン用具について説明する。	ガイダンスで配布された資料を参考に生活の中にあるデザインの役割について考える。	30
2	点・線・面の構成	<p>点が平面構成の原点であることを理解する。点と点の関連性から線や面への可能性を考える。美しいデザインを考えるときに必要とされるいくつかの要素には、リピテーション(リズム)、コントラスト、シンメトリー、グラデーション、アクセント、ムーブメントがある。ここではシンメトリー(左右対称、点対称、平行移動など)について理解する。</p> <p>【課題1】 丸型シールを使用する。200×200mmの正方形の内側に5つのテーマに従って「秩序ある配置」を心掛けながら自由に表現する。</p> <p>①集合のイメージ ②拡散のイメージ ③感情のイメージ ④匂いのイメージ ⑤色のイメージ</p>	配布資料を参考に①～⑤の課題に取り組みながら造形の要素について理解を深める。	60
3	水貼り技法体験	<p>「水貼り技法」の体験 B3サイズのパネルにケント紙を水張りする。紙を水張りすると水溶性の絵具をのせても紙の平滑性が保たれ制作しやすい。 「烏口」の体験 烏口は直線や円弧、曲線など様々な種類の線が引ける製図用具である。 コンピュータの普及により手作業で線を引く機会はほとんどなくなったが、道具の扱いや絵具の濃さを知り、またマスキングテープを用いて烏口との違いを体験する。(烏口は学科で用意する)</p>	紙の特性について学習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
4	色相環をつくる(1)	色彩を体系的に把握するために、カラーチャート(日本色彩研究所の配色体系:基本色表シリーズ4)をもとにして24色の色相環をつくる。 【課題2】 ①ケント紙を水張りしたB3パネルを横に使用して、パネルの中央に色相環の下書きをする。 ②カラーチャートを参考に、8/黄、12/緑、17/青、20/青紫、22/紫、2/赤、5/橙を先に塗る。	30
5	色相環をつくる(2)	(配布資料に基づき制作を進める) ③次に②の色の間色を塗る。 色あわせは紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。	30
6	色相環をつくる(3)	(配布資料に基づき制作を進める) ④紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。	60
7	色相環をつくる(4)	(配布資料に基づき制作を進める) ⑤紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。	60
8	色相環をつくる(5)	(配布資料に基づき制作を進める) ⑥修正を繰り返しながら色相環を完成させ、すべての色がカラーチャートに近いことを確認してパネルごと提出する。	30
9	ピクトグラム(1)	ピクトグラムの代表例である「非常口のサイン」「トイレのサイン」などを通して、ピクトグラムの歴史を学び、身近なピクトグラムの必要性和重要性を考える。	30
10	ピクトグラム(2)	【課題3】 配布資料を使用して人間の動作について考える。 ①指定のパターンを自由に組み合わせて人間の動きについて観察し、形を探る作業を行う。 ②それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に記録する。	60
11	ピクトグラム(3)	(配布資料に基づき作業を進める) ①指定のパターンを自由に組み合わせて人間の動きについて観察し、形を探る作業を行う。 ②それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に記録する。	60
12	ピクトグラム(4)	(配布資料に基づき作業を進める) ①スケッチの中から「歩く」「走る」「跳ぶ」の形を1セットとして選ぶ。 ②ケント紙に決定したピクトグラムを製図して黒の亚克力絵具で仕上げ提出する。	30
13	編集デザイン(1)	主に印刷物を中心とした編集デザインについて学ぶ。 ①判型と版面の設計について ②版面に盛り込まれる要素について ③文字について ・和文フォントと英文フォントの違い ・文字の種類 ・文字の大きさ など	30
14	編集デザイン(2)	④字間と行間について ⑤マークやロゴについて ⑥色彩計画(色と配色)など	30
15	まとめ	【まとめ】 これまでの課題について振り返り、生活の中のデザインについて考える。	30

科目名	絵本とイラストレーション	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 簡易な絵本を制作しながらイラストレーション表現のためのさまざまな技法について学び、「伝える」ことの重要性を学びます。</p> <p>【授業の概要】 表紙、扉、本文、裏表紙を合体して16pの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本も参考にしながら、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で絵本を制作し完成させ提出してください。</p>		
達成目標	編集デザインの視点から絵本を制作します。 絵本を手にする対象(年齢や場面など)を具体的にイメージしながら制作してください。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	提出作品〔絵本〕(80点)、本の装丁や編集デザインの理解度など(20点)を総合的に判断します。
教科書	簡易な装丁本の制作手順資料を配布します。		
参考書	既刊の絵本や写真集等の資料を提示します。		
学生への要望	各自の表現方法を活かしながらオリジナルの手作り絵本を完成させてください。 また、アニメーションなどの映像表現との違いを知り、あるいはコラボレーションの可能性など、これからの絵本のあり方についても追求してください。		
オフィスタイム	月曜日 ⅠⅡ～Ⅳコマ 木曜日 Ⅱコマ 金曜日 Ⅰ・Ⅱ・Ⅳコマ 場所：No.1生芸研究室(名称変更の場合あり)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本の装丁について学ぶ。特に、絵本の装丁の魅力を再確認する。 2. イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザイン的な視点から絵本を見る。本の構造や種類、本の部位の名称について学ぶ。 	配布された資料を参考に絵本の魅力を改めて考え理解を深める。 30
2	絵本について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本について <ol style="list-style-type: none"> 1) 絵本とデザイン 2) 絵本とアニメーション 3) 絵本とマンガ 4) 絵本とアート 2. 絵本の表現技法について (色、形、技法、仕掛け、材料、基材など) 	図書館や書店などで実際に絵本を手に取り、絵本についての理解を深める。 60
3	<絵本の構成と構造> ストーリーを考える ①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 材料、制作上の諸注意、授業の流れについて確認する。 2. オリジナルの絵本をタテ型とヨコ型のどちらにするか決める。 3. 本文に、文字や文章を入れるか、絵柄だけで構成するかなど、配布するストーリーボードを用いて16ページの構成(流れ)を考える。 ①ストーリー性を持たせるかどうか・・・起承転結、始めと終わり、使用前と使用后 など ②文字や文章を入れるかどうか・・・文字や文章のみとするか(あ～ん、AtoZ) など ③既成の詩や物語などに図柄をはめ込む、オリジナルの解釈を加える など 4. ストーリーに合う表現方法を決め、適した材料を用意する。 ・水彩表現 ・切り絵(貼り絵)、切り抜き ・色鉛筆 ・版(木、消しゴム等) ・エンボス加工 など 	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。 30
4	ストーリーを考える ②	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリジナルの表現を吟味する。試しに描いてみる。 2. ストーリーボードをもとに、文字や文章を入れる場合のレイアウトを検討する。 	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
5	ストーリーを考える ③	1. レイアウトの確認1ページ(扉)から16ページまでの流れを決める。見開きのページを挿入するなど、読み手を意識して、盛り上がる場面を作るなどの工夫をする。 2. 色材などの検討紙は両面使用なので裏写りしないかなどの試作を行う。他の加工を希望する場合も同様に試作を行う。	16ページの展開をイメージしてスケッチを行う。 60
6	中身(本文)を制作する ①	1. ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 2. キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。 60
7	中身(本文)を制作する ②	1. ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながら作業を進める。 2. 読み手を意識して制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。 60
8	中身(本文)を制作する ③	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。 60
9	中身(本文)を制作する ④	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。 60
10	表紙の台紙を作る ①	○絵本の完成形状(タテ型にするかヨコ型にするか) 1) 本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し(接着面・遊び紙・奥付) ③本文16ページ(両面使用のため用紙は8枚) 2) 中身(本文)に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3) 表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。 4) 中身(本文)の制作を完成させる。	本文に合わせた表紙のデザインをイメージしてスケッチを行う。 30
11	表紙の台紙を作る ②	5) 配布の資料に基づき、台紙となる芯地のボール紙を切る。 6) 表紙の色紙でボール紙をくるむように貼り、台紙を仕上げる。	台紙の仕上がりを確認しながら表紙・裏表紙のデザインを考える。 30
12	表紙のデザイン ①	○表紙と裏表紙のデザイン 1) 作品タイトル、作者名、出版社名、また価格やバーコードなど絵本に必要な情報を決める。必要な情報をどのようにレイアウトするかも含めてバランスを見ながら検討すること。 2) 中身(本文)に合わせた表現の表紙と裏表紙を制作する。	既存の絵本なども鑑賞し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。 60
13	表紙のデザイン ②	3) 中身(本文)に合わせた表現の表紙と裏表紙を完成させる。 4) ノドの位置やページの順番、扉や奥付に必要な情報が入っているかを確認する。	既存の絵本なども観察し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。 30
14	中身を立てる	○合本1) 最終的な仕上がりを予想して表紙と中身を組み合わせる。 2) タテ型、ヨコ型とも、紙の目、ページの順番や枚数などが合っているか確認する 3) 天地とチリが合っているか確認する。 4) 美しい仕上がりを追求する。	既存の絵本なども観察し絵本を完成させ提出できるよう準備を行う。 30
15	まとめ(鑑賞と講評)	○合評会と作品提出 1) 作品発表 お互いの作品を鑑賞し、内容や仕上げについて感想を述べ合う。 2) まとめ	感想や意見を受け、自分の作品について客観的に検証する。 30

科目名	CG基礎 I		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志, 米本 順子			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①コンピュータによる造形表現を行なう上で必要とされる基本的知識と技術を理解すること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①グラフィックアプリケーション（Paint系）の操作方法（オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作）を学修する。</p> <p>②スキャナー、プリンター、デジタルカメラの操作方法を学修する。</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、コンピュータによるデザイン制作について授業を行う。 実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務</p>			
達成目標	<p>①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。</p> <p>②グラフィックアプリケーション（Paint系）の基礎的操作方法を習得している。</p> <p>③コンピュータ周辺機器（スキャナー、プリンター、デジタルカメラ）の操作方法を習得している。</p> <p>④コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。</p>			
受講資格	地域創成学科 1年	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。</p> <p>①課題作品の制作過程（40%）</p> <p>②課題作品（40%）</p> <p>③課題作品の提出状況（20%）</p>	
教科書	Photoshop®クイックマスター【CS5/CS6】Windows&Macintosh、ウイネット（We Net）、2013			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	<p>・原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。</p> <p>・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。</p> <p>・当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。</p>			
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ● CG基礎 I の授業計画と授業目標について説明する。 ● CG演習室の使用方法和機器設備について説明する。 授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。	<p>【事前学習】CG分野作品について調べる。</p> <p>【事後学習】コンピュータの基本操作について復習する。</p>
2	Paint系アプリケーションの基本操作	●ファイル操作、作業エリア、画面表示と色の選択、環境設定について学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter1」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>
3	選択範囲の作成	●選択ツールとその他の選択方法について学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter2」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>
4	画像の移動と変形	●画像解像度とサイズ変更、画像のコピー&ペースト、画像の変形について学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter3」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>
5	カラーモードと色調補正	●カラーモード、色調補正について学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter4」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>
6	ペイント	●ペイント系のツール、レタッチ系のツール、ペイント系のコマンドについて学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter5」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>
7	レイヤーの操作	●レイヤーの基本操作、調整レイヤーと塗りつぶしレイヤーについて学修する。	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter6」について予習する。</p> <p>【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	パスとシェイプ、テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ●パスの作成と編集、シェイプについて学修する。 ●テキストの入力と編集、文字の加工について学修する。 	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter7およびChapter8」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
9	フィルター	<ul style="list-style-type: none"> ●フィルタの概要と使用について学修する。 	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter9」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
10	画像の入出力	<ul style="list-style-type: none"> ●保存形式、プリントとスキャナーについて学修する。 	<p>【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter10」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
11	フォトレタッチ	<ul style="list-style-type: none"> ●フォトレタッチとは、写真画像を補正・加工することで目的のイメージを得る方法をいう。実際の風景写真や人物写真を使用して、フォトレタッチの実践的な方法を学修する。 	<p>【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
12	ロゴデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ●ペイント系アプリケーションの特性を活かしたロゴデザインの方法を学修する。 	<p>【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
13	ポップアップカードの作成	<ul style="list-style-type: none"> ●演習を通して、データ作成から印刷物制作までの方法を学修する。 	<p>【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
14	フォトコラージュ	<ul style="list-style-type: none"> ●複数の写真画像を組み合わせ、フォトコラージュ作品を制作する。 	<p>【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60
15	フォトコラージュ	<ul style="list-style-type: none"> ●複数の写真画像を組み合わせ、フォトコラージュ作品を制作する。 	<p>【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツの制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。</p>	60

科目名	CG基礎Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①コンピュータによる造形表現を行なう上で必要とされる基本的知識と技術を理解すること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①グラフィックアプリケーション（Draw系）の操作方法（オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作）を学修する。</p> <p>③スキャナー、プリンター、デジタルカメラの操作方法を学修する。</p>			
達成目標	<p>①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。</p> <p>②グラフィックアプリケーション（Draw系）の基礎的操作方法を習得している。</p> <p>③コンピュータ周辺機器（スキャナー、プリンター、デジタルカメラ）の操作方法を習得している。</p> <p>④コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、コンピュータによるデザイン制作について授業を行う。 実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務</p>			
受講資格	地域創成学科 1年	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①課題作品の制作過程（40%） ②課題作品（40%） ③課題作品の提出状況（20%）	
教科書	illustratorクイックマスター（CS5,CS6/Windows,Macintosh版対応）、株式会社ウィネット			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 ・当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 			
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●CG基礎Ⅱの授業計画と授業目標について説明する。 ●CG演習室の使用方法和機器設備について説明する。 授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。	60
2	基本操作	●Illustratorの起動と作業エリア、アートワークの表示とプリント、環境設定について学修する。	60
3	オブジェクトの基本操作	●塗りと線、オブジェクトの描画、基本的な編集操作、レイアウトの補助機能について学修する。	60
4	パスの描画(1)	●パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	60
5	パスの描画(2)	●パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	60
6	カラー設定	●カラーパレットによるカラー設定、スウォッチ、パターン、グラデーション、アピアランスについて学修する。	60
7	オブジェクトの編集	●レイヤー、パスの編集、オブジェクトの組み合わせによる編集について学修する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	文字	●文字の作成、文字関連の機能について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter6」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
9	イラストレーション(1)	●シンボル機能を使用したイラストレーション、グラデーションを使用したイラストレーションの作成方法を学修する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
10	イラストレーション(2)	●画像トレースで写真をパスに変換するイラストレーション、手描きの線画にライブペイント機能を使用してイラストレーションを作成する方法を学修する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
11	ロゴデザイン(1)	●ベジェ曲線、アピアランス機能でロゴマークを作成する方法を学修する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
12	ロゴデザイン(2)	漢字でタイポグラフィを作成する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
13	グラフを作成する	●グラフの基本操作、グラフのデザインをカスタマイズする方法を学修する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
14	印刷原稿の制作(1)	●DTPのための環境設定、名刺のデザインについて学修する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
15	印刷原稿の制作(2)	●写真を配置したDMを作成する方法を学修する。	【事前学習】テキスト「第2部 コンテンツ制作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

平成31年度

科目名	写真基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅱ		
授業概要	写真の基本的な教養を身につけるとともに、実習をとおして撮影、画像調		
達成目標	1. 写真の基本的な教養を身につける。		
受講資格	地域創成学科1年	成績評価	
教科書	特に指定しない。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	1. デジタルカメラ（スマートフォン以外、コンパクトデジタルカメラ可		
オフィスタイム	木曜Ⅳ・Ⅴ限（No.1 生芸研究室・No.1 工芸室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	
1	①現代写真家列伝	(1) 梅佳代、(2) 森山大道、(3) 「人形の都」
2	写真の歴史	写真の発明から現在までを欧州から日本に分けて学習
3	写真機の構造と種類	カメラの構造を知ることにより何故、画像を定着でき
4	デジタルカメラについて	現在主流のデジタルカメラについて、撮影方法につい
5	画像編集ソフトについて	GINPを用いて撮影画像のパソコンへの取り込み、画像
6	人物撮影学習	デジタルカメラによる人物撮影
7	画像編集実習	画像のパソコンへの取り込み→画像の調整の実習
8	①画像編集実習→	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習
9	②画像編集実習→	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習
10	②現代写真家列伝	(4) 川内倫子、(5) 藤原新也 以上を参考に
11	①静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習
12	②静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習
13	①画像編集実習→	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→
14	②画像編集実習→	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→
15	まとめ	撮影作品、課題提出ノートの合評会

科目名	水彩表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	齊藤 弘久		
開講期	Ⅱ		
授業概要	水彩絵の具は水を加えるだけで手軽に使用でき、誰もが子供の頃、手にした事のあるなじみの深い彩色材料です。しかも他の描画材料との併用も容易であり、この素材的特性から水彩画は柔軟性にとみ、多くの可能性を秘めた表現媒体であるといえます。		
達成目標	授業では、水彩絵の具のほかにもその他の水性絵の具の使用方法も含めて、それらの素材的特性の理解と技術の習得を目指し、技法の開拓を図ることにより更に水彩画の表現の可能性を追究していきます。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	水彩絵の具の表現方法の工夫。例えばティッシュで拭き取ったり、ニードルで引っ掻いたり様々な表現を納得のいくまで追究すると共に制作そのものを楽しみましょう。また、空き時間を利用して画材に触れるよう心掛けてください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2.デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	180
1	ガイダンス	授業の目標と内容について、および授業の進め方について話します。 水彩画の特色と歴史および用具と材料について話します。 透明絵の具と不透明絵の具、透明描法と不透明描法について説明します。	授前、水彩画について自学習 授後、制作の準備
2	風景画	キャンパス風景写生の制作をします。校舎内外の描きたい場所を選びます。 作品参考例により構図(近景、中景、遠景の関係と組み合わせ等)を考えます	授前、制作の準備 授後、構図の確認
3	風景画	○キャンパス風景写生 キャンパスの描きたい所2~3箇所をスケッチして淡彩で塗ります。クロッキーやデッサンには鉛筆、コンテ、各種の素材を試みましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える
4	風景画	○キャンパス風景写生 大気に漂う瑞々しい季節感を肌で感じ取りながら、描いている対象の中心(主題)を見極めて行きましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える
5	風景画	○キャンパス風景写生 淡彩スケッチ2~3枚の中から制作場所を選び、四つ切り水彩用紙(コットマン紙)に描きます。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える
6	風景画	○キャンパス風景写生 主題と構図の関係を考えながらデッサンしましょう。対象の風景に含まれるいろいろな物には省略や移動を加えて 効果的な構図を考えましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える
7	風景画	あくまでも自分の描きたい場所で、楽しく制作を進めることが大切です。 彩色に入ります。(透明描法、不透明描法の何れでもよいです。)	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える
8	風景画	各自の主題、コンセプトに合わせ、基調色を選びましょう。 全体の色調のバランスを考えながら、大まかに色を置いていきます。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える
9	風景画	細部に拘らずに太めの筆でのびのびと彩色しましょう。 構図や色調が各自の主題表現に沿っているかどうか確認しながら、追究し、加筆しましょう。	授前、制作の準備 授後、仕上げに向けての準備
10	風景画	キャンパス風景写生を完成させる。担当教員が講評する。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてのまとめ
11	静物画	各自が描きたいモチーフを選び、2箇所モデルを設置します。(2グループでモデル設置作業を行います。)写生による写実的表現を原則としますが、心象的表現を試みてかまいません。	授前、静物画について情報を集める 授後、静物画に対しての認識を深める

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	静物画	2種類のモデルより一つ選びます。複数のモチーフの中から各自描きたいものを選び、画面構成を考えながらデッサンします。モチーフは多すぎないように注意しましょう。半切または全紙の水彩用紙を使用します。	授前、制作の準備 授後、次回制作に向けて反省箇所や工夫等を考える 180
13	静物画	画面上でのモチーフの省略や移動も試みて、各自のコンセプトをより明確に表現できるような構図を考えましょう。	授前、制作の準備 授後、次回制作に向けて反省箇所や工夫等を考える 180
14	静物画	単なる写生に止まらず、モチーフに対する感情移入を大切に、心象表現の試みなども可能です。表現の方針が決まり、デッサンが済んだら彩色に入ります。色は透明描法、不透明描法および両者の併用など各自のコンセプトに合わせて使い分けましょう。	授前、制作の準備 授後、完成にむけて準備 180
15	静物画	作品を完成させる。最後に教員がこの授業で学んだ風景画、静物画に対しての講評を行う。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてまとめ 180

科目名	版画基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	I		
授業概要	版画の基本的版種を実習を通して学んでいく。手作業やパーソナルコンピュータによる制作も加え授業を展開していく。		
達成目標	版画表現の豊かさを感じ、人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	多種多様な素材と表現方法により未だ経験のしたことのない表現を体験するために、各版種の面白さを実感し、可能な限り版から得るイメージを想像し膨らませ制作してください。日頃から版から受けるイメージを想像し、学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週月曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2. デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授	180
1	ガイダンス	版画とはどういう物なのか。歴史と人に与える影響などを解説する。	授 後、版画の認識を深める	180
2	木版画の基礎	木版画と言っても表現の幅はいろいろで、簡単な表現から高度な表現を学びます。	授前、木版画の基礎を自学習 後、木版画を深める	180
3	銅版画の基礎	銅版画の直接技法と間接技法を学びます。	授前、銅版画の基礎を自学習 後、銅版画を深める	180
4	石版画の基礎	石版画は現代の印刷手段であるオフセット印刷の基本であることを学びます。	授前、石版画の基礎を自学習 後、石版画を深める	180
5	シルクスクリーンの基礎	古来より用いられて来た技法から、現在使われている特殊な印刷方法を学びます。	授前、版画の歴史を自学習 授後、版画の歴史を深める	180
6	デジタル版画の基礎	デジタルを、アナログではない版とする版画の意味と表現を学びます。	授前、現代の印刷を自学習 授後、印刷全般を深める	180
7	版種の併用	学んだ様々な版形式を併用して、単独の版種では得られない効果を学びます。	授前、版形式の再確認 授後、版を選択する	180
8	版画制作	ここまで学んだ版種を基に、作品を制作していきます。表現方法を考えます。	授前、表現方法を考える 授後、イメージを膨らませる	180
9	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの様々な技法に取り組みます。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を判断する	180
10	版画制作	技法を身につけるために、失敗を恐れないで試し刷りをしながら制作してください。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を活かす	180
11	版画制作	技法が身に付いて来たところで、自分で考えたイメージを作品にしていきます。	授前、制作準備 授後、次回の制作に活かす判断をする	180
12	版画制作	試し刷りを重ねながら、加えるところ、削るところを調整していきます。紙によっても刷られた表情が違うので、いろいろな紙で刷りを試みてください。	授前、制作準備 授後、次回の制作に活かす判断をする	180
13	版画制作	完成を視野に入れながら版の調整、色の調整などをします。	授前、制作準備 授後、次回の制作に活かす判断をする	180
14	版画制作	作品を完成させる。	授前、制作準備 授後、完成作品の扱い方を考える	180
15	版画制作	完成した作品の扱い方や、展示方法などを説明しながら教員が講評する。	授前、展示方法などを調べる 授後、作品を鑑賞する	180

科目名	日本史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	Ⅲ		
授業概要	江戸時代は徳川氏が江戸幕府を開いた17世紀初頭から、戊辰戦争により新政府が誕生する19世紀半ばまでの約260年間の時代である。幕府と諸藩による長期間の全国統治により、現代社会の仕組みはこの時代に形づくられることになった。現代社会につながる江戸時代および明治時代初期について考えてみる。 江戸時代は、なぜ長期にわたり継続し、そしてなぜ倒れたのか。これを成り立ち～解体期前後の国内外の情勢から日本史の流れの概略を、各講義内容に関連する史料を読みながら、政治体制や社会構造、経済、外交などを基本的な視点に据えて把握する。 なお、近世・近代における福島県内で起こった出来事についても合わせて学ぶ。		
達成目標	過去と現在とを対比し理解を深めること。過去を学ぶことにより、現在・未来の自信を展望すること。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	佐々木潤之助ほか『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年 松尾正人『維新政権』吉川弘文館、1995年 児玉幸多監修 丸井佳寿子ほか『泉史7 福島県の歴史』山川出版社、1997年 ほか適宜指示する。		
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。身近にある歴史に関心・興味を抱くこと。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No.4研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	徳川三代と江戸幕府の成立	家康は慶長8(1601)年に征夷大將軍に就任し、江戸幕府を開き、江戸を建設させた。その後、秀忠・家光の時代を経て、政治や社会の仕組みが確立する。近世の政治や社会の仕組みが確立するまでを、織豊期から江戸幕府開設に至るまでの時代背景との関連で考える。	30
2	「鎖国」への道と四口	日本におけるキリスト教禁教のため、幕府は「鎖国」への道を歩むこととなった。一方で、幕府の管理・独占のもと長崎・対馬・薩摩・松前でオランダやアジアとの交易が行われることとなった。この場をまとめて四口と呼ぶ。「鎖国」と四口について検証し、江戸時代の海外交流について考える。	30
3	交通網の整備と商業発展	江戸時代は、人々や物(商品)の往来が盛んになり商業経済が発展した時代でもある。その1つの要因として、街道と宿場町の整備、海運・舟運の整備の陸上・海上における交通網の整備行われたためである。これらの整備がふくしまにおいてもどのように実施され、商業発展に影響したのかを論じてみたい。	30
4	江戸幕府の政治構造と藩の設立	江戸時代は將軍以下の武士階級がその社会を掌握・支配するために、幕府・藩として構築された幕藩体制が確立した。そのため、全国各地には藩が成立し、多岐にわたる格式序列が形成された。幕府と藩、將軍と大名など江戸幕府の構造について論じる。	30
5	ふくしまの藩と城下町	本県下には、会津・中通り・浜通りに大中小の諸藩が置かれた。各藩の成り立ちを大名配置および城下町の形成との関連から検証し、その特色について学ぶ。	30
6	近世の村社会	江戸時代、人口の大部分を占め、幕府や大名の経済基礎である米年貢を負担する農民は生産と生活のために相応しいように村をかえていった。村組織・申し合わせや掟、村の共同整備などについても村々で整えられた。村のあり方は社会の変容と共に少しずつ変化し、農民の自立を可能にした背景について考える。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	寛政改革と地域諸産業の発展	宝暦・天明期には、飢饉や災害などによって政治的・社会的危機が引き起こされた。そこで、松平定信が寛政改革を遂行し、幕府が直面していたさまざまな課題や問題の解決に尽力した。また、諸藩でも、財政窮乏対策のため商品生産や特産物生産の奨励などを行い藩政を立て直した。諸藩の政策と産業発展について考える。	30
8	天保改革と飢饉～諸藩の改革～	天保期、江戸幕府は内憂外患の本格的な危機の時代をむかえ、その対応策として天保改革を断行した。多くの諸藩も幕府同様に危機に直面し、藩政改革を行う。それらの改革を紹介し、寛政期の藩政改革との相違、および天保期の藩政改革がその後の社会にどのように影響したのかを考察する。	30
9	朝幕関係と尊号事件	寛政元(1789)年の尊号事件により朝廷と幕府の間に江戸時代初期以来の緊張が走った。江戸時代の朝廷と幕府の関係について、寛永4(1627)年に起こった紫衣事件と尊号事件が前後について学び、その後の国内情勢への影響について考察する。	30
10	儒学・蘭学・国学—江戸時代の学問	江戸時代には政治や社会状況に合った様々な学問が発展した。儒学・蘭学・国学などが例としてあげられ政治や社会にも利用、活用される。それらの学問と政治・社会との関係について検証する。	30
11	異国船の来航と沿岸防備	江戸時代後期以降、ラクスマン来日で現実化した対外的危機に直面し、対応策が幕府の重要課題になった。幕府が実施した沿岸防備にも多くの諸藩が動員された。本県下の会津藩・白河藩なども命じられた。沿岸防備の実態について検証する。	30
12	開港の影響と動揺	安政5(1858)年幕府は米蘭露英仏の5ヶ国と修好通商条約を締結した。それによって、日本は資本主義的世界市場のなかに強制的に組み込まれることとなり、政治・経済などに大きな混乱と影響がおよんだ。開港による社会にもたらした影響と揺らぐ幕藩体制について考える。	30
13	戊辰戦争と明治維新	慶応4(1868)年1月から始まった戊辰戦争によって、それまで長期にわたって続いた江戸幕府が倒れ、明治政府(維新政府)が誕生した。明治政府の基本方針や実施した政策などについて紹介し、藩体制の解体がどのように進められたのかを検証する。	30
14	お雇い外国人と文明開化	明治政府は、「殖産興業」や文明開化などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人(お雇い外国人)を官庁や学校に招聘した。交通・工業技術・軍備・教育面で活躍し、日本の近代化に大きく貢献した。お雇い外国人と文明開化の関係について紹介する。	30
15	廃藩置県と福島県設立について	明治4(1871)年に全国の藩を廃止して府県に統一する、廃藩置県により藩体制が解体された。全国には府県が成立し、本県にも県が置かれ、現在の福島県になるまでには、いくつかの県の統合が行われた。現在の福島県が出来るまでの過程を探る。	30

科目名	ヨーロッパ史演習		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	IV			
授業概要	1年次のヨーロッパ文化史では、ヨーロッパの形成から近代化の歴史を駆け足で学んだ。この時間では、その後日本文化史や考古学、美術史、宗教学などを学ぶと共に、学芸員ユニット・図書館司書ユニット、情報処理士ユニットおよびアート系諸科目を広く学んだ学生が、歴史の知識を生活の中で活用していくためのアカデミック・トレーニングを行うと共に、卒業研究に取り組む学生には、論文執筆のサポートとなる歴史的思考力の育成に努める。			
達成目標	授業で取り上げられる話題に関心をもって取り組み、現代社会との相違点を発見すると共に、その意味や役割を考える力を育成する。			
受講資格	ヨーロッパ文化史履修学生	成績評価 方法	ワークと小レポート(70%)・授業時の質疑応答(30%)	
教科書	指定しない			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説2 近現代篇』DTP出版 2006年 堀越宏一・甚野尚志 編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房 2013年、など必要に応じて提示する			
学生への要望	基本用語を『世界史B用語集』や高校の教科書、資料集などを用いて自主的に調べる姿勢も期待したい。新聞やニュースの国際情報にアンテナを張って欲しい。			
オフィスタイム	火曜日のII時限目(10:30~12:00)・金曜V時限目(16:10~17:40) 考古学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	本講義の進め方を解説する。	30
2	ワーク(1) 歴史とは何か①	身近な事例として自分史を例に「歴史を書く」作業と「実証性」「客観性」の問題について考えます。	120
3	ワーク(1) 歴史とは何か②	前回の課題(各自の自分史)を発表し、その内容の信憑性をどのように保証できるかを考えます。	60
4	ワーク(1) 歴史とは何か③	「史料」「エビデンス」の質の問題を考えます。どのような史料(資料)に、どのような特徴があるのかを検討します。	60
5	ワーク(2) 情報を見つける①	H.ホルバイン(子)作<大使たち>(1533年、ロンドン、ナショナルギャラリー蔵)を資料に、ルネサンス・宗教改革・大航海時代についての情報を読み取るワークを実施する。	60
6	ワーク(2) 情報を見つける②	前回の基本的な気付きを踏まえて、補助教材と調べもの学習の成果を用いてグループ討論を展開する。	60
7	ワーク(2) 情報を見つける③	2回のグループ討論を踏まえて、情報を整理し、各自の考えるルネサンス・宗教改革・大航海時代(近世)という時代のイメージを討論する。	60
8	ワーク(3) 資料批判に取り組もう①	H.クナックス作<黄禍の図>(1895年)を材料に、当時の国々がこの絵をどのように受け取ったのかを考え、話し合うワークを行います。	60
9	ワーク(3) 資料批判に取り組もう②	グループ毎に担当の国を決め、その国の19世紀末の様子を報告しながら、意見交換を進めます。	60
10	ワーク(3) 資料批判に取り組もう③	2回の授業を踏まえて、近年再び注目されている人種差別の問題について、過去の事例の学びを踏まえて現代の問題の検討を行う。	60
11	ワーク(4) 映画を見て考える①	歴史映画を見て、史実と虚構の問題を考えます。	60
12	ワーク(4) 映画を見て考える②	歴史映画を見て、史実と虚構の問題を考えます。	60
13	ワーク(4) 映画を見て考える③	歴史考証とメディアの問題を考え、私たちの周りにおける歴史情報について検討します。	60
14	インターミッション①	これまでの授業で気が付いたことや疑問に感じたことなどを自由に話し合ってみましょう。	60
15	まとめ	歴史修正主義とパブリック・ヒストリーという新しい歴史の考え方、取り組み方について解説し、半期の講義のまとめとします。	60

平成31年度

科目名	美術史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	齋藤 美保子		
開講期	IV		
授業概要	女性像の意味 1年生の「美術史」の知識を元に、古今東西の女性像の意味を読み取る。 仏画および日本画の女性像、ギリシア神話の女性彫刻、キリスト教美術の聖母マリア、寓意画の女性像、肖像画等が対象となる。		
達成目標	多様な女性像の意味を、制作年代の時代背景や地域性、思想宗教等から読み取れるようになる。 女性像の意味を的確な言葉で表現できるようになる。 寓意的な女性像をスケッチやコンピューター・グラフィックを用いて、自ら提案することができる。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①授業中のテキスト読解と意見交換(30点)②寓意像の簡単な作画(20点)③記述式の期末試験(50点)
教科書	齋藤美保子著「アングルとドラクロワのカヴェ夫人像」「上村松園作品展を読み解く」の抜刷を配布する。 その他、授業内でコピー資料を配付する。		
参考書	神林恒道編著『西洋美術101』三元社、2008年		
学生への要望	美術館や美術書に親しみ、女性像に関する多くの知識を得ること。 スケッチブックに気軽に線を描くように、心がける。		
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日16:00-17:00 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	「美術史」の知識を確認し、授業の進め方を理解する。	参考文献を準備する。 90
2	神道および古代の女性像	神道の美術では女神像を表すことが稀であること、高貴な女性は「源氏物語絵巻」の様に引き目鉤鼻で描かれることを理解する。	開成山大神宮に参詣し、天照大神の表し方を確認する。 90
3	上村松園の女性像	近代の女性画家、上村松園について抜刷りを読み、彼女の女性像を画集等で鑑賞理解する。	配布テキストを読み込み、ネーチャードームの「上村松園作品展」を鑑賞理解する。 90
4	ギリシア神話の女性彫刻	バルテノン神殿東破風について幾つかの解釈を比較する。	配付資料を読み込む。 90
5	ギリシア神話の女性彫刻 つづき	サモトラケのニケについて、鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。 90
6	キリスト教美術の聖母マリア像	マリアの生涯を名作でたどる。	美術書を渉猟する。 90
7	キリスト教美術の聖母マリア像 つづき	ピエタの諸作を比較する。	美術書を渉猟する。 90
8	寓意画における女性像	17世紀の図像学を理解する。	真理、正義等の寓意像を探す。 90
9	寓意画における女性像 つづき	フランス革命期の図像学を理解する。	自由、平等、友愛の寓意像を探す。 90
10	肖像画における女性像	アングルの女性肖像画を鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。 90
11	肖像画における女性像 つづき	アングルとドラクロワの女性肖像画の違いを鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。 90
12	寓意像の作画	正義、平和の寓意像のアイデアを出す。	アイデアスケッチの数を増やす。 90
13	寓意像の作画 つづき	平和な学園の図像を描く。	作品を完成させる。 90
14	作品の合評	作品を持ち寄り、感想を述べ合う。	作品の手直しをする。 90
15	まとめ	美術における意味について考える。試験の準備指示。	試験の準備をする。 180

科目名	宗教文化史演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	福島 寅太郎		
開講期	IV		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>この授業は、末木文美士氏の『日本宗教史』(岩波新書)を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なくなってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。なお、後期の概要については改めてお知らせする。</p> <p>【授業終了時の到達目標】</p> <p>①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の到達目標】</p> <p>①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。</p>		
受講資格	短大地域創成学科2年	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。
教科書	『日本宗教史』、末木文美士著。岩波新書、2006年。丸善などの書店で買い求めることができる。		
参考書	末木文美士『日本宗教史』、岩波新書。担当教員個人が持っているが、授業でよく参考にするので、できればそれぞれが一冊を購入することをおすすめする。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。 		
オフィスタイム	月曜日16時～17時。担当教員の研究室(創学館No.5)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	ガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定ですので、必ず出席してください。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しようとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
6	神仏と中世(1)	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
7	神仏と中世(2)	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
8	世俗と宗教(1)	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	世俗と宗教(2)	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
10	神道とナショナリズム(1)	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
11	神道とナショナリズム(2)	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
12	近代化と宗教(1)	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家(内村鑑三事件をの波紋)精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
13	近代化と宗教(2)	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家(内村鑑三事件をの波紋)精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
15	前期のまとめ	レポートを書いて提出する。	1.5
16	後期のガイダンス	絵画に見る「天神さま」について	1.5
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
18	天神像の変容について	怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
28	天神信仰の現在—地方神社における合格祈願を手がかりに—	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的性格	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史性、地方的特徴について考える。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
30	まとめ～其の②天神信仰の宗教性と歴史性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5

科目名	考古学実習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	會田 容弘		
開講期	通年		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実習を行う。5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は5月11日から21日まで笹山原遺跡No. 16の実習発掘を実施する。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。		
達成目標	<到達目標>発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業、資料整理の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査・報告書製作補助ができること。		
受講資格	1年次において考古学を履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	成績評価 方法	レポート及び実習課題と授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。
教科書	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科(資格課程)報告集第4～21集		
学生への要望	考古学実習を受講する学生は5月に実施する笹山原遺跡No. 16の発掘調査に参加しなくてはなりません。何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。		
オフィスタイム	火曜日3時限目・水曜日2・4時限目。メールの質問も可。レポート作成に関する質問を行う場合は事前にメールで質問内容を示してアポをとること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。	過去の発掘調査の理解。 30
2	笹山原遺跡群の調査史	郡山女子大学短期大学部考古学研究室によって実施された、笹山原A遺跡、No. 8遺跡、No.16遺跡の発掘調査の調査成果を紹介する。	過去の発掘調査の理解。 30
3	発掘調査の方法	遺跡発掘調査方法について笹山原遺跡No.16の調査を示しながら講義を行う。	過去の発掘調査の理解。 30
4	発掘調査の実際(1)	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それを用いた実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。 30
5	発掘調査の実際(2)	発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。	過去の発掘調査の理解。 30
6	発掘調査の実際(3)	教室内に発掘調査区を模擬的に作り、遺物の出土記録の取り方の実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。 30
7	発掘調査実習(1)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。 30
8	発掘調査実習(2)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。 30
9	発掘調査実習(3)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。 30
10	発掘調査実習(4)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
11	発掘調査実習(5)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
12	発掘調査実習(6)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。II b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
13	発掘調査実習(7)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
14	発掘調査実習(8)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
15	発掘調査実習(9)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。III層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30
16	発掘調査実習(10)	笹山原遺跡No.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び掘り上げ。	発掘調査の記録の整理。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
17	発掘調査実習(11)	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。 30
18	発掘調査実習(12)	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。IV層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。 30
19	発掘調査のまとめ	発掘調査経過、調査内容、最終的な調査成果について説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
20	資料整理実習(1)	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
21	資料整理実習(2)	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
22	資料整理実習(3)	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
23	資料整理実習(4)	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
24	資料整理実習(5)	縄文土器整理法。縄文土器の製作技術、型式、機能について観察方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
25	資料整理実習(6)	縄文土器の記録方法としての拓本、実測について説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
26	資料整理実習(7)	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
27	資料整理実習(8)	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
28	資料整理実習(9)	石器・縄文土器の写真撮影方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
29	資料整理実習(10)	報告書作成のための図版作成方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30
30	発掘調査・整理の成果	考古学実習の総まとめを行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。 30

平成31年度

科目名	地域社会と食生活	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成
担当教員	加藤 雅子,善方 美千子		
開講期	通年		
授業概要	私たちの食生活は、通常摂取する食事である「日常食」と、地域や家庭にとって特 きる。さらに行事食には「年中行事」や「通過儀礼」といった豊作への祈願や人生 関連性があることを学び理解を深める。また、食生活における「日常食」と「行事 食」を目的とする。		
達成目標	①「日常食」と「行事食」について理解する。 ②地域社会における行事食について理解を深める。 ③実習を通じて食文化や食生活に関心を高める。 ④プレゼンテーション発表会を実施する。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	
教科書	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	グループ内での学習が主となるため、無断で欠席しないこと。調理実習時は注意		
オフィスタイム	加藤：月曜日12:15～12:45、水曜日12:15～12:45、No.1給食管理研究室(家政 善方：月曜日12:15～12:45、水曜日12:15～12:45、No.2給食管理研究室(家政		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	
1	地域社会と食生活ガイダンス	地域社会と食生活の授業目的について理解を深めるとと もに、今後のスケジュール確認等を行う。
2	日常における食生活について ①	食生活における栄養バランスの良い食事について理解す る。献立マスターシートを利用して自分の食生活を振り返 り、栄養バランスを視覚的に確認する。
3	日常における食生活について ②	前回に続き、献立マスターシートを作成する。
4	日常における食生活について ③	完成した献立マスターシートを見て、普段の食事バラン ス、改善方法、今後の食生活において注意して取り組み たいこと等を確認する。感想をまとめて提出する。
5	家族の食生活について -子どもの栄養-	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会 は少なくない。子育てから介護と、ライフステージにお ける食生活の注意点について理解する。本時は特に子 どもの栄養について理解する。

6	家族の食生活について －介護食について－	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少なくない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に介護食について理解する。
7	家庭における行事食について	家庭において人生の節目を祝う「通過儀礼」など、特別な習慣や行事のために用いる行事食について理解し、家庭における行事食を振り返る。
8	地域における行事食について	地域において、天地の恩恵に感謝し豊作を祈願する「年中行事」について調査するとともに、その際に振る舞われる行事食についても知る。
9	福島県内における行事と行事食について(会津地方)	福島県内(会津地方)における行事について取り上げ、食材と行事食について理解する。
10	福島県内における行事と行事食について(中通り地方)	福島県内(中通り地方)における行事について取り上げ、食材と行事食について理解する。
11	福島県内における行事と行事食について(浜通り地方)	福島県内(浜通り地方)における行事について取り上げ、食材と行事食について理解する。
12	郡山市の行事食について	郡山市における行事と、行事食について知り、地元の取り組みについても理解する。
13	新しい行事食について①	これまで県内における行事食について理解を深めてきた。地域創成学科の学生として、今後新しい行事食として、県内をPRできるような献立について検討する。
14	新しい行事食について②	前回に続き、新しい行事食のアイデアを考える。これらは、Ⅳ期に実施する自由献立の参考とし、実際に調理できるように検討する。
15	授業の確認とまとめ	これまでの授業をを通して学んだ内容について振り返るとともに、Ⅳ期の授業内容について確認する。
16	オリエンテーション	シラバスをもとに、授業内容の確認を行う。実習に備え、グループ編成を行い、実習室内の見学、器具や備品の確認を行う。
17	日本の食生活について①	日本人の食生活において、主食の代表である「米」について理解を深める。また、福島県内における「米」の生産状況や、地域における取り組み等について理解を深める。
18	日本の食生活について②	日本人の食生活において、地域の行事や郷土料理に関して、地理、産業、特産物を学び、地域の歴史と料理の関わりについて理解を深める。
19	日本料理の実習①	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「米」の炊飯などについて学ぶ。 《実習名》ご飯、味噌汁、青菜のゆで物

20	行事食①	「絵巻寿し講習会」 外部講師に委託して、絵巻寿しの方法を用いて絵柄を表現し、季節の行事や地域社会の行事に応用できる技術を身につける。
21	行事食②	≪実習名≫絵巻寿し各種、すまし汁
22	日本の食生活について③	食育の事例をもとに、地域社会と食生活について理解を深める。
23	地域社会と食生活の関わり	グループワーク:学生が地域に関わり、地元の食を継承していくための課題について、Ⅲ期の「新しい行事食」について確認する。
24	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備①	グループワーク:「地域社会の料理教室」をテーマに福島県をPRできるような内容を立案し、自由献立実習に向けて準備作業を行う。
25	日本の食生活について④	年中行事食について、特に五節句について理解を深める。
26	日本料理の実習②	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「正月料理」について学ぶ。 ≪実習名≫黒豆、田作り、紅白なます 他
27	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備②	グループワーク:次回の実習に向けて準備作業を行い、発表用のパワーポイント作成を行う。
28	自由献立実習①	グループで立案した献立をもとに、実習を行う。
29	自由献立実習②	完成した献立は画像とともにレポートにまとめる。
30	授業のまとめ	自由献立実習について、各グループで工夫した点や感想、PRポイント等、パワーポイントを用いて発表会を実施し、他のグループとともにディスカッションする。

戊学科 2年 2単位 選択

特別な習慣や行事のために準備する「行事食」とに分類することができ、祭りの節目を祝う行事など多種に亘る。これらの行事には食物との深い「食」について実習を通じて地元の食文化や食生活に関心を高めること

課題の取組み60点(Ⅲ期30点、Ⅳ期30点)、プレゼンテーション発表内容40点(Ⅲ期20点、Ⅳ期20点)の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。

注意事項をよく守り、衛生的な配慮と安全に心がけること。

学館1F)、
学館2F)

授業内容

配布資料に「日常の食生活」を記入する。	30
「献立作成マスターシート」の使い方について復習する。	30
「献立作成マスターシート」の使い方について復習する。	30
配布資料に「献立マスターシート」の感想をまとめる。	30
配布資料に「子どもの栄養」について感想をまとめる。	30

配布資料に「介護食」について感想をまとめる。	30
配布資料に家庭で行っている「行事食」についてまとめる。	30
配布資料に「年中行事」について学んだ感想をまとめる。	30
会津地方の特徴を振り返る。	30
中通り地方の特徴を振り返る。	30
浜通り地方の特徴を振り返る。	30
郡山市と地元(出身地)の特徴を振り返る。	30
新しい行事食を検討する。	30
配布資料に行事食のアイデアをまとめる。	30
Ⅲ期の内容をまとめる。	30
配布資料をもとに、Ⅳ期の授業内容について理解を深める。	30
配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。また、実習前に、調理の進め方について理解する。	30
実習後に、調理した内容についてまとめる。	30

実習前に、調理の進め方について理解。	30
実習後に、調理した内容についてまとめる。	30
配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
Ⅲ期の新しい行事食について振り返る。	30
配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
実習前に、調理の進め方について理解する。	30
実習後に、調理した内容についてまとめる。	30
配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
実習前に、調理の進め方について理解する。	30
実習後に、調理した内容についてまとめる。	30
Ⅳ期の内容をまとめる。	30

科目名	地域社会と衣生活	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	田辺 真弓		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>本演習は地域創成学科の選択科目として地域社会と衣生活の関わりについて学ぶ。授業概要をつぎに掲げる。</p> <p>①衣生活に関連する福島県内の産業について学ぶ。 ②福島県内の農村の伝統的な衣生活ならびに会津の地歌舞伎と歌舞伎衣裳について学ぶ。 ③衣生活を円滑に営むための基礎的な知識を得るために、衣服の廃棄とリサイクル、アパレルファッションビジネス、被服衛生(衣服気候、健康に留意した着装)、被服管理(家庭洗濯とドライクリーニング、衣服の保管)、衣生活と介護などについて学ぶ。 ④この授業で学んだ内容で特に関心を持った事柄の中からテーマを決めて各自で調査してまとめ、プレゼンテーションを行う。</p>		
達成目標	<p>①衣生活に関連する福島県内の産業についての知識を得る。 ②福島県内の伝統的な衣生活文化についての知識を得る。 ③衣生活を円滑に営むための基礎的な知識を身につける。 ④地域社会と衣生活の関わりについて学び、最も関心をもったことについて調査してパワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行うことができる。</p>		
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	①課題提出2回 20点 ②パワーポイントデータ提出 40点 ③プレゼンテーション 40点 60点を合格点とするが、講義内容の理解度は8割以上を求める。
教科書	教科書は用いず、プリントを配付する。		
参考書	福島県内自治体史、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	地域社会で営まれている衣生活に関心を持ち、また、新聞や雑誌の衣生活に関する記事や参考図書などを読み、広く知識を得ること。 事前学習:当日の内容をシラバスで確認しておく。 事後学習:授業内容を振り返り、ノートにまとめる。		
オフィスタイム	創学館2階 教務部 非常勤講師控室 水曜日Ⅱ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業計画の提示	授業計画(シラバス)を配布し、講義の目標と、どのような内容について学ぶかを示す。この授業は演習であり、この授業で学んだ内容で特に関心を持った事柄の中からテーマを決めて各自で調査する。調査方法は文献資料調査、博物館・資料館等の見学、インターネットでの検索、家族や地域住民等への聞き取りなどとする。調査したことをまとめて考察を加え、パワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行う。	本日の授業内容についてまとめる	60
2	衣服の廃棄とリサイクル	現在、地球環境を守り、限られた資源を無駄なく活用しようとする意識が高まり、アパレル企業も3Rに取り組み始めた。衣服の廃棄についての現状とリサイクルやリユースの取り組みについて知る。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
3	福島県内の衣生活関連産業(1) 昭和村のカラムシ栽培とカラムシ織	かつてカラムシは広く自生し、また栽培されていたが、現在では奥会津の昭和村のみで伝統的な方法を守って栽培されている。昭和村で行われているカラムシ栽培とカラムシ織の取り組みについて学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
4	福島県内の衣生活関連産業(2) 会津木綿とふくしまオーガニックコットンプロジェクト	会津地方では16世紀末から木綿栽培が始まり、会津藩の綿花栽培・織物奨励により、会津木綿は特産品のひとつとして発展した。現在は民芸織物として生産されている。ふくしまオーガニックコットンプロジェクトは塩害に強い綿を有機栽培で育てて収穫したコットンを製品化・販売し、新しい農業と繊維産業を作り出すことを目的とする。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60
5	福島県内の衣生活関連産業(3) 川俣の絹生産と絹織物	江戸時代中期に伊達郡地方の養蚕業は高い技術を持ち、先進地として全国に知れ渡っていたという。明治期になるとこの地方で生産された生糸は輸出され、日本経済を支えた。その後外国産の安価な絹に押されて衰退したが、現在は技術革新によって優れた絹製品を作り出し、世界的に認められるようになってきている。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	アパレルファッションビジネスと情報技術の活用	『アパレル—企画から販売まで—』を視聴して、現代のアパレル産業の商品企画、設計、サンプル作成、展示会、生産販売会議、工業用パターン作成、グレーディング、マーキング、延反、裁断、バンドリング、縫製、仕上げ、検査、販売等の実際を理解する。また、多品種少量生産をおこなうための情報技術の活用について学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、並びに感想をまとめる
7	福島県内の衣生活関連産業(4) ニット・縫製業	福島県は縫製業が盛んな県として知られている。県内各地で多くの縫製工場が稼働している。大手アパレルメーカーと提携して縫製を行っている工場や、独自のブランドを立ち上げ、企画から販売までを行い、業績を上げている会社もある。それらの例を挙げ、福島県内のアパレル産業について学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる
8	福島県の伝統的衣生活	福島県の農村ではかつて、各戸で衣服材料となる繊維を生産し、機織りや染色をして生地とし、衣類に仕立て着用していた。また、蓑や笠、わらじ等も家内で生産していた。この自給自足を原則とした衣生活について学ぶ。	これまでの授業内容に関連して、最も関心を持った事柄について調べる
9	会津の地歌舞伎と歌舞伎衣裳	会津地方は近世から近代にいたるまで、農民が自ら演じる地歌舞伎が盛んな地域であった。この地歌舞伎の歴史を知るとともに、その舞台上で使用された歌舞伎衣裳についての知識を得、地歌舞伎についての理解を深める。	最も関心を持った事柄についての調査を続ける
10	被服衛生	人が健康的な衣生活を営んでいく上で欠くことのできない被服衛生について学ぶ。被服気候、季節にあった着装、肌着の役割、衣服と皮膚障害などについての知識を得、今後の衣生活に生かせるようにする。	最も関心を持った事柄についての調査を続ける
11	被服整理と被服管理	衣服を清潔に、また質を低下させることなく繰り返し着用していくため、それぞれの衣服に適った家庭洗濯とドライクリーニングについて学び、またさらに、次のシーズンまで品質を保って保管するために必要な知識を得る。	調べた内容についてまとめ、パワーポイントを作成する
12	介護と衣服	ユニバーサルファッションとは何かを知るとともに、介護用の衣服と障害者のための衣服にはどのようなものがあり、どのような点に配慮すべきかを学ぶ。	パワーポイントを完成させ、プレゼンテーションの練習をする
13	プレゼンテーション(1)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる
14	プレゼンテーション(2)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、補足説明を行う。また、質問に答える。さらに、授業の目標について改めて確認し、達成度を確認する	この授業で学んだことを今後どのように発展させていくかについて、自分の考えをまとめる

科目名	油彩画Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅲ		
授業概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追求します。		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法(美術出版社)、絵具材料ハンドブック(中央公論美術出版)その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
オフィスタイト	授業に関する質問は、火曜日Ⅳ・Ⅴ、水曜日Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ、木曜日Ⅰ・ⅤにNo.1地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	・授業目標と内容、および授業の進め方について。 ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。(制作キャンバス含む)	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。
2	自由画制作ー1	・表現は具象・抽象のどちらでも可。モチーフは静物・風景・人物・構成画など選定は自由。 ・各種モチーフの組み合わせによる心象表現でも可。 ・F50号以上のキャンバス及びF4～6号程度の小キャンバスを数枚準備する。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。
3	自由画制作ー2	基底材(キャンバス)の準備… ・木枠に布を張る(2人組共同作業)。または市販の張りキャンバスを使用。各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。 ・表現したいテーマについての取材やモチーフ選定、セット。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。
4	自由画制作ー3	エスキース制作… ・スケッチやエスキース(下絵)などで構想を練る。 ・表現のイメージがある程度かたまったら50号または小キャンバスに制作を始める。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。
5	自由画制作ー4	作品制作… ・表現意図をなるべく明確にする。 ・固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
6	自由画制作ー5	作品制作とさまざまな技法の試み… ・50号制作と並行させて、小キャンバスにさまざまな技法を試みる。 ・大画面の絵具の乾燥を待つ間や発想の転換を図る際に有効。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
7	自由画制作ー6	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例ーグリザイユ(単色描画法)、グラッサン(おつゆ描き)、ドリッピング(液状絵の具の滴下)、フロッチ(刷り込み)、フロウイング(流し込み)、スクラッチング(引っかき)など。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	自由画制作-7	<p>作品制作とさまざまな技法の試み…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例-絵の具の掻き取りや盛り上げ、異物混入、コラージュ、デカルコマニー、フィンガーペインティング、プリンティング、その他。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
9	自由画制作-8	<p>作品制作とさまざまな技法の試み…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作意図に応じて様々な技法を画面に応用したり、発想の転換を図ることなどを繰り返しながら画面上で各自の表現意図を絞り込んでいく。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
10	自由画制作-9	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿ったものであるかどうかを確認しながら、また全体の関係を見ながら制作を進める。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
11	自由画制作-10	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面創りを目指す。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
12	自由画制作-11	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作意図が十分に表現できているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
13	自由画制作-12	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成に近づきつつある作品を前に、更により深い表現を追究する。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
14	自由画制作-13	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の構成要素のバランスを整えて完成に向かう。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p>
15	自由画制作 < 講評会 >	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を並べて一点一点講評する。 ・学生、教員の意見交換もおこない、作品制作のより高い目標達成を目指す。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。</p>

科目名	油彩画Ⅲ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅳ		
授業概要	油彩画Ⅱで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追求します。		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法(美術出版社)、絵具材料ハンドブック(中央公論美術出版)その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
オフィスタイム	授業に関する質問は、火曜日Ⅳ・Ⅴ、水曜日Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ、木曜日Ⅰ・ⅤにNo.1地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	後期ガイダンス	・授業の目標と内容、および授業の進め方についての説明。 ・用具材料の点検。(不足品については各自で購入補充する。) ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。(制作キャンバス含む)	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	自由画制作-1	作品制作…主題の設定とモチーフの取材および選択 ・テーマの設定は自由とする。表現は具象、抽象どちらでも可。モチーフの設定も自由。 ・自分のテーマに合うモチーフや作家の作品等について取材し、制作のコンセプトを明確にしていく。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	自由画制作-2	作品制作…基底材(キャンバス)の準備 ・木枠に布を張る(2.3人組み共同作業)。F80号～F150号の木枠を準備する。 ・各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
4	自由画制作-3	作品制作…エスキース制作 ・自由な発想で画面構成を試みる。 ・油彩画Ⅰや油彩画Ⅱ前半で試みた様々な技法も応用して自分の制作意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	自由画制作-4	作品制作… ・木炭エスキース、淡彩画、小キャンバスの利用などいろいろ試みながら発想の柔軟性を図り、画面構成をおこなう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	自由画制作-5	作品制作… ・構構がまとまり、画面構成がおおまかに決まったら大画面制作をはじめめる。 ・F80号以上のキャンバスを使用。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	自由画制作-6	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係を見ながら制作を進める。 ・自分の制作意図をより効果的に表現するための、技法の選択と組み合わせも考えながら進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
8	自由画制作-7	作品制作… ・制作意図に応じて、さまざまな技法を画面に取り入れてみる。 ・発想の転換を図ったりしながら画面上で自分の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	自由画制作－8	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿っているかどうかを確認する。 ・全体の関係をみながら制作を進める。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
10	自由画制作－9	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作意図に沿っているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
11	自由画制作－10	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部に捕らわれずに絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面づくりを目指す。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
12	自由画制作－11	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の制作意図やイメージに沿った作品となっているかどうかを絶えず確認する。 ・密度のある画面作りを目指して更に描き込む。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
13	自由画制作－12	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成に近づきつつある作品に対して、より深い表現となるよう追究する。 ・描きだしの新鮮さを想いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
14	自由画制作－13	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて強調や省略等を加え、画面全体の構成要素のバランスを整えて魅力ある完成度の高い画面づくりを目指す。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>
15	自由画制作 <講評会>	<p>完成した作品を並べ講評。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅱの総評。 	<p>【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。</p> <p align="right">30</p>

科目名	木彫表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材(粘土、木、石、鉄など)を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものとの人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。木彫とは彫刻の技法の一つで、木を素材として彫刻作品をつくる事を言います。木彫表現の授業では木による造形を体験しながら、木彫の基礎的な技法を学ぶ、また、木の素材的な魅力を味わう事を目標とします。		
達成目標	木彫作品の制作を通して、木彫の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。
教科書	特に無し。		
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館(福島県立美術館、郡山市立美術館、他) ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
オフィスタイム	・月曜日 I ~ III コマ(8:50~14:30) 彫刻室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	木彫表現の授業について	・木彫表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習	0
2	しおり制作-1	◆木彫について学習する 木彫の初めての学習として、しおりをつくることで、木彫の表現(造形要素や用語など)を学習していくとともに、木彫の基礎的な技法(木の材質の特徴、魅力や造形方法)の習得を目指す。 《課題についての説明とアイデアスケッチ》 ・しおりをつくる目的、意義について ・木についての学習 ・アイデアスケッチを行う	120
3	しおり制作-2	《材料選び》 ・アイデアスケッチを基に材料を選択する ・鋸などを使い、材料を加工する	60
4	しおり制作-3	《しおり作り・1》 ・彫刻刀などを使い、造形する ・道具の扱い等学習する	60
5	しおり制作-4	《しおり作り・2》 ・第4回に同じ	60
6	しおり制作-5	《しおり作り・3》 ・サンドペーパーなどを使い、木を磨く ・磨くことで感じる材質的な変化や魅力について学習する	60
7	しおり制作-6	《しおり作り・4》 ・着色する ・飾りなどを付けて仕上げる	60
8	モビール制作-1	《モビール制作・1》 ・モビールの特徴や表現について学習する ・アイデアスケッチを行う	120
9	モビール制作-2	《モビール制作・2》 ・材料を選択する ・鋸などで大まかに木を加工する	60
10	モビール制作-3	《モビール制作・3》 ・第9回に同じ	60
11	モビール制作-4	《モビール制作・4》 ・鑿、やすり等を使い木を造形する	60
12	モビール制作-5	《モビール制作・5》 ・第11回に同じ	60
13	モビール制作-6	《モビール制作・6》 ・第11回に同じ	60
14	モビール制作-7	《モビール制作・7》 ・着色、ワックスなどで仕上げる ・糸などで各部材をバランスがとれるように繋ぐ	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	モビール制作-8	《モビール制作・8》 ・第14回と同じ	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる 60
16	自然物をモチーフとした木彫作品制作-1	◆動物や植物などの自然のものをモチーフとして木彫作品を制作する。その際、モチーフの選択など、木彫に適したものであること、意欲が持続するものであることなどを意識する。 《アイデアデッサン》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・自分がつくりたいものを基に取材、デッサンを進める 60
17	自然物をモチーフとした木彫作品制作-2	《木彫・1》 ・素材を選択する ・素材にデッサンを入れる	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
18	自然物をモチーフとした木彫作品制作-3	《木彫・2》 ・鋸、鑿などを使い、粗どりを行う	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
19	自然物をモチーフとした木彫作品制作-4	《木彫・3》 ・第18回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
20	自然物をモチーフとした木彫作品制作-5	《木彫・4》 ・鑿や彫刻等を使い、粗彫りを行う	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
21	自然物をモチーフとした木彫作品制作-6	《木彫・5》 ・第20回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
22	自然物をモチーフとした木彫作品制作-7	《木彫・6》 ・第20回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
23	自然物をモチーフとした木彫作品制作-8	《木彫・7》 ・第20回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
24	自然物をモチーフとした木彫作品制作-9	《木彫・8》 ・第20回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
25	自然物をモチーフとした木彫作品制作-10	《木彫・9》 ・第20回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
26	自然物をモチーフとした木彫作品制作-11	《木彫・10》 ・鑿や彫刻刀とやすりを併用して、より細かい造形を進める	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
27	自然物をモチーフとした木彫作品制作-12	《木彫・11》 ・第26回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
28	自然物をモチーフとした木彫作品制作-13	《木彫・12》 ・第26回と同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める 60
29	自然物をモチーフとした木彫作品制作-14	《木彫・13》 ・着色などを行い作品を仕上げる	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる 60
30	合評会	《合評会》 ・1年間の作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う	0

平成31年度

科目名	版画表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅲ		
授業概要	版画基礎で学んだ事の中から興味を持った版種を2種類選び技法をさらに深めていく。		
達成目標	版画への理解を深め、表現の豊かさ新鮮さを感じる。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週月曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2.デザイン室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	版画の表現手段を再確認する。	授前、版画の基礎を確認 授後、自分にあった技法を選択	180
2	2版種の選択	選ぶために技法を確認する	授前、選ぶ技法を確認 授後、選んだ技法を確認	180
3	1版種目の技法の再確認	選んだ技法の確認と試作。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
4	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
5	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
6	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
7	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
8	版画制作	選択した版種で制作 完成をさせる。	授前、制作の完成を目指す 授後、完成作品を振り返る	180
9	2版種目の技法の再確認	2つ目に選んだ技法の確認。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
10	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
11	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
12	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
13	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
14	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
15	版画制作まとめ	完成した作品を鑑賞する。	授前、制作の完成を目指す 授後、版画についてまとめる	180

科目名	ビジュアルデザイン I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	Ⅲ		
授業概要	【授業の目的・ねらい】 視覚的伝達要素について学びます。広告表現の効果的な方法には、文字のみによって意味を伝える方法と、文字や言葉に頼らない意味の伝達方法があります。自分の意見や考えを視覚的要素を駆使しながら表現することを試みます。 【授業の概要】 視覚的な伝達を試みる課題に取り組みます。		
達成目標	広い視野で物事に關心を寄せ、身近な社会問題にも關心を持って制作してください。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	課題作品の提出状況と達成度(80点)、制作姿勢(20点)の他、授業目標への意欲や関心度などを総合的に判断します。
教科書	ありません。 必要に応じて配布します。		
参考書	○参考書 ・現代デザイン事典(平凡社) ・デザイン概論(ダヴィッド社) など ○画材など ・各自の表現方法に合わせて準備をしてください。 (材料についての相談は受けます)		
学生への要望	標識の図記号は単純でわかりやすく、構造化、システム化して表示することにより、言語のようなメッセージを発信します。情報が適切に提示できているか、他者を意識した視点で課題制作に取り組んでください。		
オフィスタイトム	月曜日 Ⅱ～Ⅳコマ 火曜日 Ⅰ～Ⅳコマ 木曜日 Ⅰ・Ⅱコマ 場所: No.1 生芸研究室(名称変更の場合あり)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	言葉を使わない「視覚的な伝達」について事例を提示してガイダンスを行う。	配布された資料にもとづき視覚的要素による伝達について考え理解を深める。	30
2	視覚言語とは何か	色や形、イメージなどの要素となる「視覚言語」について考える。	校内や街中にある身近なサインを複数確認して間違いのない理解が可能かを確かめる。	60
3	演習: 課題1(1)	【カルタの制作】 特定の言葉やイメージを連想させる写真を撮影し、カルタを1セット制作する。 ①読み札となるキーワードを五十音で考える。 ※名詞と動詞を原則とし固有名詞や抽象的な形容詞はしない。 ②①のキーワードを連想させる適切な写真を撮影する。 ③指定された大きさで取り札としてのカードを制作する。	五十音で始まるキーワードを提案するために図書館や書店、その他で情報を集める。	60
4	演習: 課題1(2)	課題1の作業を進める。 ・キーワードの候補をいくつかセットで考える。	五十音で始まるキーワードを提案するために図書館や書店、その他で情報を集める。	60
5	演習: 課題1(3)	課題1の作業を進める。 ・キーワードに合わせるための写真を用意する。 ・必要に応じて撮影した写真の加工などを行い、より効果的な構図を検討する。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。	60
6	演習: 課題1(4)	課題1の作業を進める。 ・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる仕上げとなっているを確認して作業を進める。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。	60
7	演習: 課題1(5)	課題1の作業を進める。 ・撮影した写真とキーワードを検証し必要に応じて改めて撮影するなどしてデータを整理する。 ・カルタとして仕上げた作品を提出する。	撮影した写真とキーワードを検証し必要に応じて改めて撮影する。	60
8	演習: 課題1(6)	課題1の作品提出 お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合う。	感想や意見を受け、客観的に自分の作品について検証する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	演習: 課題2(1)	<p>【文字の構成】 文字を使った広告を作る。</p> <p>①新聞コラムの文字組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容に合うタイトルを作る。下書き用紙を使って「文字組」の計画をたてる。 ・あらかじめ組まれた本文のプリントをA3判の台紙に手作業で構成する。 	<p>数種類の新聞に目を通し内容の見出しや文字組についての差異を調べ、自分の表現方法を探る。</p> <p>60</p>
10	演習: 課題2(2)	<p>課題2の作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞という書面を効果的に利用する。 ・タイトルの書体や大きさ、本文の行送りやレイアウトを考える。 	<p>数種類の新聞に目を通し内容の見出しや文字組についての差異を調べ、自分の表現方法を探る。</p> <p>30</p>
11	演習: 課題2(3)	<p>課題2の作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定の台紙に決められたサイズの枠を設定しタイトルとともに手作業で構成する。 	<p>数種類の新聞に目を通し内容の見出しや文字組についての差異を調べ、自分の表現方法を探る。</p> <p>30</p>
12	演習: 課題2(4)	<p>課題2の作業を進める。</p> <p>②新聞広告(意見広告)の文字組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・600字程度で社会に向けた問題提起と、それに対する自分の意見を文章として書く。 ・これを本文として主題に相応しいタイトルをつけ、PCを使用してメッセージが伝わるよう効果的な文字組を制作する。 	<p>数種類の新聞に目を通し興味のある社会問題などについて調べ資料を集める。</p> <p>60</p>
13	演習: 課題2(5)	<p>課題2の作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある社会問題をいくつか考えて必要に応じて資料を持参しテーマを絞る。 ・自分の意見や考えをまとめる作業を行う。 	<p>数種類の新聞に目を通し興味のある社会問題などに対し、自分の意見をいくつか考える。</p> <p>30</p>
14	演習: 課題2(6)	<p>課題2の作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告としての作品をまとめる作業を行う。 ・メッセージ性のあるものに仕上がっているか検証する。 	<p>自分で決めた社会問題などについてさらに情報を収集し、自分の意見をまとめておく。決められた文字数(スペース)に落とし込むための準備を行う。</p> <p>30</p>
15	まとめ(鑑賞と講評)	<p>課題2の作品提出</p> <p>お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合う。</p>	<p>感想や意見などを受け、自分の作品について客観的に検証する。</p> <p>30</p>

科目名	ビジュアルデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅳ		
授業概要	視覚伝達デザインとも言われるように、視覚に訴える行為でコミュニケーションには欠かせないものである。手作業の時代からコンピュータの出現した今日に到るまでと、今を考えます。途中その都度制作された物を最後に1冊の本にまとめます。		
達成目標	版画表現の豊かさを感じ、人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	ビジュアルデザインとそれ以外の様々なデザインの存在を意識しながら、自分がどのようにデザインと関わって生活しているかを考えてください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2.デザイン室で受けます		

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	ガイダンス	教員の経験を交えながらビジュアルデザインを解説します。	授前、ビジュアルデザインを自学習 授後、ビジュアルデザインの可能性を考える	180
2	形の面白さ	平面上に現れる2Dと3Dの捉え方と不思議。	授前、2Dと3Dの違いを自学習 授後、 2Dと3Dの扱い方を考える	180
3	色で遊ぶ	どれだけの数の色があるか、配色による効果。	授前、伝統色について自学習 授後、 配色の効果を探す	180
4	文字の表現	文字の種類と形とその表現。	授前、文字の種類について自学習 授 後、文字の配置等の効果調べる	180
5	表現される文字	テーマを決めて自分流文字を制作する。	授前、自分流の文字を作る 授後、テー マと文字が効果的か考察する	180
6	1mmを知る	色、文字などを用いて1mmを知る。	授前、30cm以内の世界を考える 授 後、1mmの違いを考察する	180
7	バランス	ここまで学んだ事を用いて画面にまとめる。	授前、画面構成の準備 授後、 テーマと文字や色が効果的か考察する	180
8	バランスⅡ	さらに画面への工夫を加える。	授前、画面構成の準備 授後、 テーマと文字や色が効果的かさらに考察 する	180
9	スケール	バランスの良い悪いを考える。	授前、意識的のバランスの悪い方向を考 える 授後、バランスが視覚的 にどう映るか考察する	180
10	スケールⅡ	拡大、縮小の面白さを学ぶ。	授前、拡大、縮小率を自学習 授後、拡大、縮小の面白さ組み合わせを 考える	180
11	構成	写真を加えて画面構成して見る	授前、写真の事について知る限りを自 学習 授後、写真との構成した 結果を考察する	180
12	構成Ⅱ	さらに様々な素材を試みる	授前、紙やインクなど制作の準備 授後、どのような効果が得られたか考察 する	180
13	フライヤー制作	自分の好きなもの表現して見る。	授前、制作の準備 授後、どのよう な効果がもたらされるか考察する	180
14	フライヤー制作Ⅱ	自分自身を表現して見る。	授前、制作の準備 授後、最終調 整	180
15	まとめ	この授業を通してのまとめ	授前、まとめにむけての準備 授後、 ビジュアルデザインとはを考える	180

科目名	Webデザイン	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①Webを活用したビジュアルコミュニケーション能力の養成 ②情報の構造化と視覚化に関する理解の促進</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①インターネットの基礎理解とHTML、CSSを使用したWebサイト制作について学修する。 ②演習を通して、情報を構造的に捉え、視覚を通して効果的に伝達する方法を理解する。</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの視点からWeb制作について授業を行う。 実務経歴：デザイナーとして広告制作会社(株式会社ミサイル・カンパニー)に勤務</p>		
達成目標	<p>①HTML、CSSについて基礎的理解ができている。 ②HTML、CSSを使用して簡易なWebサイトを制作できる。 ③ユーザビリティ、アクセシビリティについて理解している。 ④情報の構造化と視覚化について理解している。</p>		
受講資格	<p>・地域創成学科2年 対象 ・CG基礎Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。</p>	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。</p> <p>①課題作品の制作過程(40%) ②課題作品(40%) ③課題作品の提出状況(20%)</p>
教科書	Webクリエイター能力認定試験エキスパート 公式テキストブック、鷹野 雅弘、マイナビ出版		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<p>・原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 ・当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。</p>		
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎知識	ブラウザとソースコード、Webで使うカラー指定について学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第1章 (pp.20-38)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
2	ビジュアルデザイン	Webページの画面設計、グリッドシステム、デザインの基本原則、配色、タイポグラフィと組版について学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第2章 (pp.40-58)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
3	HTMLとXHTML	HTML/XHTMLの基本、文字情報を設定する要素、本文を構成する要素について学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第3章 (pp.60-73)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
4	HTMLとXHTML	ブロックレベル要素、インライン要素、コメントと文字参照、バリデーションについて学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第3章 (pp.76-97)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
5	CSS	CSSの基本、記述方法、適用方法について学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第4章 (pp.100-108)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
6	CSS	セレクター、プロパティ、スタイルの優先順位について学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第4章 (pp.109-131)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90
7	CSS	リセットスタイル、タイポグラフィスタイルについて学修する。	<p>【事前学修】テキスト「第4章 (pp.132-141)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。</p>	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	動的コンテンツと動画	Webにおける動画表現について学修する。	【事前学修】テキスト「第5章 (pp.144-156)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
9	ユーザビリティとアクセシビリティ	ユーザビリティ、Webライティング、アクセシビリティについて学修する。	【事前学修】テキスト「第6章 (pp.158-172)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
10	サイト制作のワークフロー	トップページと下層ページについて学修する。	【事前学修】テキスト「第7章 (pp.174-175)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
11	サイト制作のワークフロー	CSSファイルの分割とファイル設計について学修する。	【事前学修】テキスト「第7章 (pp.176-181)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
12	サイト制作のワークフロー	ページごとにスタイルを設定する方法について学修する。	【事前学修】テキスト「第7章 (pp.182-185)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
13	サイト制作のワークフロー	CSSによるパーツのスタイリングについて学修する。	【事前学修】テキスト「第7章 (pp.186-193)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
14	サイト制作のワークフロー	CSSレイアウトについて学修する。	【事前学修】テキスト「第7章 (pp.194-200)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
15	ファイル転送	ファイル転送について学修する。	【事前学修】テキスト「第7章 (p.201)」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90

科目名	図書館サービス概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	Ⅱ		
授業概要	公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらましを学びます		
達成目標	図書館サービスの内容を覚え、図書館で働く際にもとより、図書館を利用する側になったときも、的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割
教科書	講義ではその都度プリントを配布します		
参考書	参考書よりも、自ら図書館利用者となって足繁く通い、実際に様々なサービスを楽しむことが講義の参考になります		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜-木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらまし：意義と理念	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	館種によるサービスの違い	公共、大学、学校、専門の各館種それぞれの図書館サービスとその差異	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	貸出サービス	『市民の図書館』に由来する「貸出し」と貸出至上主義からの脱却	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	読書相談サービス	資料選択のお手伝い	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	レファレンスサービス	課題解決型サービス、ビジネス支援サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	イベントの提供	ビブリオバトル、TRPG、ぬいぐるみお泊まり会ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	主題別サービス	法情報、医療情報（闘病記文庫など）、地域資料（郷土資料）ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	利用者支援サービス	以前は「利用者教育」と称した、図書館利用者への図書館利用と情報リテラシーの習得を支援する図書館活動について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	アウトリーチサービス	図書館に来館せずに利用できるデリバリーサービスやホームページを通じた情報提供	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	図書館による情報発信	図書館サービスに関する情報発信（図書館からのお知らせ）に留まらない情報発信のあり方	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	多文化サービス	民族的、言語的、文化的少数者（マイノリティ）へのサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	高齢者へのサービス	認知症のひとつとその家族へのサービス、ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
13	子供向けのサービス	児童サービス、ヤングアダルト（YA）サービスほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	障害のあるひとへのサービス	視覚、聴覚、身体、精神にそれぞれ障害のあるひとへの、図書館のアプローチ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	講義のまとめ	「図書館サービス」の今後の展望を考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館情報資源概論		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛			
開講期	II			
授業概要	図書館で扱う様々な情報資源について学ぶとともに、情報資源が図書館に届くまでにどのような仕事が行われているのか、また実際に図書館で情報資源を扱う際に必須の知識である著作権法制度についても学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
達成目標	図書館で扱う情報資源が書籍・雑誌以外にも様々なものがあること、また図書館の情報資源は図書館のみによって賄われているものではないこと、情報資源の利用には著作権法制度の知識が不可欠であることを覚える。			
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。	
教科書	その都度プリントを配布。			
参考書	NDC014、021、023に分類される書籍			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜～木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	イントロダクション	アナログからデジタルへ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館が扱う様々な情報資源	日本目録規則1987年版の目次に基づき概観する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	印刷資料（1）	書籍について、その形状と種類	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	印刷資料（2）	継続資料（雑誌、白書、年鑑類）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	印刷資料（3）	新聞・地図・絵画・その他	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	点字資料・音声資料など	主に、読むことに難のあるひとへの情報資源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	ネットワーク情報資源	インターネット上にある資料	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	電子書籍	電子書籍の現状と課題（音楽配信サービスを含む）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	電子ジャーナル	電子ジャーナルの歴史と現状	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	灰色文献	一般に流通しない資料・政府刊行物など	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	出版流通（1）	出版者の仕事（編集）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	出版流通 (2)	出版者・取次・書店間の書籍の流通の現状と課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
13	著作権法制度 (1)	現在の著作権法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
14	著作権法制度 (2)	現在の著作権法制度 (続) とその課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
15	まとめ	これまでのおさらいと、情報資源の展望	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

科目名	情報資源組織論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	I		
授業概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し、利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	情報資源および情報資源の組織化に関する基礎的な知識を修得することを目標とする		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川）、『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など		
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	イントロダクション	自己紹介と講義の目的	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か（1）	情報(information)、情報資源(information resource)についてそれぞれ考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か（2）	「データ→情報→知識→知恵」という定説を疑い、「Information→分析→Intelligence」という流れを併せて考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	メタデータとは何か（1）	「情報資源」の組織化とは、情報資源が図書館業務においてどのような状態になることか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	メタデータとは何か（2）	所蔵/所有を超えた情報資源の「目録化」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館と「目録化」	混沌から秩序を生み出し、図書館利用者が必要としている情報資源を必要ときに提供するための仕事としての目録作成について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館目録の簡単な歴史	FRBR/RDAに至る目録規則の話	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	書誌コントロールとMARC	書誌コントロールの歴史と標準化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	書誌ユーティリティとコピーカタロギング	書誌ユーティリティの構築とコピーカタロギングの導入に伴う目録作成の合理化と目録作成業務の地位低下	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	インターミッション	ここまでのおさらい	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	日本目録規則のはなし	日本における「目録法」の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	日本十進分類法のはなし	日本における「分類法」の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
13	OPACの簡単な歴史	OPAC (Online Public Access Catalog) の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	OPACの未来	リンクリゾバ/ディスカバリーサービス/OPACのGoogle化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	図書館目録の「未来への展望」はありやなしや	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館情報技術論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	現在の図書館の現場において使われている情報技術（ICT）にどのようなものがあるかを学ぶとともに、これまでの歴史を踏まえ、技術を支える法制度の現状を見て、単なる知識の習得に終わらない、情報技術の「困難さ」をめぐる思考を深めていく。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	図書館サービスに有効に活用されている情報技術にどのようなものがあるかを学修し、エンドユーザーとして使いこなすことが可能になることを目指す。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『ITパスポート試験』『基本情報技術者試験』の教科書、参考書の類を読んでおくに役に立ちます。 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版） 『メタデータとウェブサービス』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜-木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	イントロダクション	図書館に限定せず、アナログからデジタルへのテクノロジーの歴史について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	コンピュータ（電子計算機）の簡単な歴史	機械式計算機からノイマン型コンピュータまで。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	コンピュータの構成要素	コンピュータの構成要素とその機能、種類と役割について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	ソフトウェアとハードウェア	オペレーションズシステム（OS）、アプリケーションソフトウェア（アプリ）、ファイルシステムなどについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	システムの構成要素	現在の主要なコンピュータシステムの構成要素について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	データベースのしくみと現在	データベースの役割と種類、主にリレーショナル・データベースについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	デジタルアーカイブの現在	デジタルアーカイブとは何を目的としているのか、使われている技術はどのようなものか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	インターネットの簡単な歴史	インターネット黎明期から現在に至る歴史を解説。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	情報セキュリティ対策	「情報セキュリティ」が図書館においても重視されるのはなぜか。ポリシーとマネジメントを組織として確立し、適切なリスク管理を実施することが必要。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報技術をめぐる法制度	知的財産権、セキュリティ、プライバシーに関する法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館システムの歴史としくみ	図書館システムのはじまりから最近の動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	電子書籍と電子ジャーナル	その基礎知識とこれまでの動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館とウェブサービス	RSS, WebAPI, SNSをそれぞれ図書館サービスに活用する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	テクノロジーを用いた障害のあるひとへの図書館サービス	マルチメディアデイジーほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	講義のまとめ	図書館はこれから、どこへ向かうのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館制度・経営論		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛			
開講期	Ⅲ			
授業概要	公共図書館の経営に関して必要な法制度および代表的な公共図書館経営論について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
達成目標	図書館をとりまく環境（法律・政策・社会）やニーズ（社会的需要・利用者の要求）を考えながら、どのように経営されるのかについて理解を深める。			
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割	
教科書	その都度プリントを配布			
参考書	NDC013に排架されている書籍を中心に			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	図書館運営から図書館経営へ	「図書館制度・経営論」において何が問題になってきたのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	地方自治・地方行政における公共図書館（1）	その組織	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	地方自治・地方行政における公共図書館（2）	その法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	出版流通と公共図書館	書籍はどこから図書館にやってくるのか。現状に問題はあのか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	『市民の図書館』の時代（1）	『中小レポート』と『市民の図書館』	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	『市民の図書館』の時代（2）	日野市立図書館の成功	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	『市民の図書館』の時代（3）	その精神の硬直化と貸出至上主義	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	時代の転換点	図書館業務の機械化・電子化と「場所としての図書館」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
9	司書・専門職制	司書資格のこれまでとこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
10	指定管理者制度を巡る問題	委託・PFI・指定管理者・CCC図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
11	図書館の危機管理	自然災害と人災	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	本の廃棄を巡る問題	福島市立図書館、船橋市立船橋西図書館、京都市立図書館、高知県立大学永国寺キャンパス図書館	60
13	大学図書館を巡る問題	「知識の加藍」を維持するために	60
14	学校図書館を巡る問題	「こどもの読書」を後押しするために	60
15	これまでのまとめ	「理想の図書館経営」とは	60

科目名	情報サービス論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	IV		
授業概要	まず各自の情報リテラシーを高め、その上で図書館における情報サービス（主にレファレンス）業務に関する知識を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	図書館におけるレファレンス業務を学修し、情報を選択するための多様な手段を習得する。		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	NDC015に分類される書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	情報リテラシー概説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
2	しらべる力を身につける	「しらべる」ために必要な能力について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
3	その情報はどこから	主にインターネット上で拡散するフェイクニュース/オルタナティブ・ファクトを注意深く選択から外すために	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
4	情報収集	情報に対する「感度」を上げるために各々がなすべきことについて	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
5	情報の分析	informationとintelligenceの違い	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
6	図書館のレファレンスサービス	図書館が調査・分析能力を持つことの必要性	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
7	レファレンスとその情報源 (1)	印刷媒体と電子媒体（Web、非Web）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
8	レファレンスとその情報源 (2)	索引と検索	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
9	レファレンスとその情報源 (3)	図書館で作成する情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
10	レファレンスとその情報源 (4)	情報源を評価する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
11	レファレンスとその情報源 (5)	人文・社会科学系の情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	レファレンスとその情報源 (6)	自然科学系の情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
13	レファレンス事例の蓄積	「レファレンス協同データベース」ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
14	図書館の広報	図書館による情報提供/情報発信	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。
15	まとめ	これまでのおさらい	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。

科目名	情報サービス演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	通年		
授業概要	PDCAサイクルに倣って、情報サービスの各種の業務における設計から評価までを考える能力、利用者の質問に対する適切かつ柔軟なレファレンスサービスと情報検索サービスの適用が可能な能力、そして積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。 また図書館における種々の情報サービスについて設計・展開・評価を、それぞれ実際の業務に近い形で実習し、学生が相互にそのプロセスと結果に評価を加える。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通して解説していく。		
達成目標	この演習を学ぶことにより、図書館業務において情報サービスを行うことが可能な知識と能力を身につけることを目標とする。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート6割、期末試験4割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	あらかじめ レファレンス協同データベース http://crd.ndl.go.jp/reference/ 等を見ておくように。		
学生への要望	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜～木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	情報サービス演習の目的と概要	当演習の目的と概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。 60
2	情報サービスの設計	図書館経営の中で「情報サービス」はどのように位置づけられ、どのような利用が考えられるのか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。 60
3	情報サービスの設計を評価する	実際に活用されている「情報サービス」の活用を考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。 60
4	情報検索の技法（1）	実際に利用されている情報検索法を検証する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60
5	情報検索の技法（2）	実際に利用されている情報検索法を検証する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60
6	情報検索の結果を評価する（1）	情報検索の結果、得られた内容を利用者は、何を以って評価しているのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60
7	情報検索の結果を評価する（2）	情報検索の結果、得られた内容を利用者は、何を以って評価しているのかを考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60
8	演習担当にインタビューする(1)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60
9	演習担当にインタビューする(2)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60
10	演習担当にインタビューする(3)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	演習担当にインタビューする(4)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	演習担当にインタビューする(5)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	演習担当にインタビューする(6)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	演習担当にインタビューする(7)	第2回から第7回の演習を踏まえて、実際に「情報サービス」まつわるテーマを学生ごとに設定し、演習担当へのインタビューを実施する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	ビブリオバトル(1)	知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	レファレンスコレクションの構築を考える	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの内容を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	構築されたレファレンスコレクションを評価する	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの評価を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	レファレンスサービスの展開(1)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	レファレンスサービスの展開(2)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	レファレンスサービスの展開(3)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	レファレンスサービスの展開(4)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	レファレンスサービスの展開(5)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	レファレンスサービスの展開(6)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	レファレンスサービスの展開(7)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	レファレンスサービスの展開(8)	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
26	レファレンスサービスの展開（9）	レファレンス課題の解法を考える。	60
27	ビブリオバトル（2）	知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催する。	60
28	レファレンスサービスの評価（1）	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	60
29	レファレンスサービスの評価（2）	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	60
30	レファレンスサービスの評価（3）	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを、これから図書館経営の中でどのように評価し、活用していき、図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なかを考えていく。	60

科目名	情報資源組織演習	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	通年		
授業概要	日本でもっとも利用されている、情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』、『日本目録規則』、『基本件名標目表』を中心に、国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表、基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ、情報資源の組織化の実際を学び、受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を習得する。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通じて解説していく。		
達成目標	図書館利用者がその検索結果を以って、十分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート6割、期末試験4割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版 『日本目録規則』1987年版改訂3版、2018年版 他		
学生への要望	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意旨がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜-木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	情報資源組織論演習の目的と概要について	自己紹介。演習の目的と1年間の概要を説明する。 本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か(1)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。 本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か(2)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。 本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	「情報資源」とは何か(3)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。 本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	情報資源を「組織化」するとは(1)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。 課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。 課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し、組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。 課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	情報資源組織化の技法(1)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。 課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
9	情報資源組織化の技法(2)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。 課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	情報資源組織化の技法(3)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。 課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	情報資源組織化の技法(4)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	60
12	情報資源組織化の技法(5)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	60
13	情報資源組織化の技法(6)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	60
14	情報資源組織化の技法(7)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	60
15	情報資源組織化の技法(8)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法(NDC)』および『日本目録規則(NCR)』、『基本件名標目表(BSH)』の使い方を学ぶ。	60
16	著作権ワークショップ(1)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	60
17	著作権ワークショップ(2)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	60
18	著作権ワークショップ(3)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	60
19	著作権ワークショップ(4)	情報資源の組織化のみならず、図書館業務に必須の知識である「著作権」「著作権法」について、ワークショップを交えながら、その考え方と内容を身につける。	60
20	情報資源組織化の実際(1)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
21	情報資源組織化の実際(2)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
22	情報資源組織化の実際(3)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
23	情報資源組織化の実際(4)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
24	情報資源組織化の実際(5)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60
25	情報資源組織化の実際(6)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
26	情報資源組織化の実際(7)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	情報資源組織化の実際(8)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	情報資源組織化の実際(9)	情報資源組織化のツールを駆使して、実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
29	情報資源組織化のまとめ(1)	情報資源の組織化とは何を意図し、何を達成すべきものなのか、改めて考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	情報資源組織化のまとめ(2)	情報資源の組織化とは何を意図し、何を達成すべきものなのか、改めて考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

科目名	図書館基礎特論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	IV		
授業概要	図書館業務の上で必要不可欠な知識である「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」について学び、ライブラリアンシップの醸成に努める。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。		
達成目標	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」を学び、その現実的な運用精神を習得する。		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポートの成績による
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」に関連する書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 8:30-17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	イントロダクション	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」の歴史	60
2	図書館の自由に関する宣言(1)	知る権利の保障	60
3	図書館の自由に関する宣言(2)	利用者の秘密	60
4	図書館の自由に関する宣言(3)	「図書館の自由に関する宣言」における「自由」を巡る諸問題	60
5	図書館員の倫理綱領(1)	利用者に対する責任	60
6	図書館員の倫理綱領(2)	資料に対する責任	60
7	図書館員の倫理綱領(3)	研修に努める責任	60
8	まとめ	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」のこれから	60

平成31年度

科目名	図書館情報資源特論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員	和知 剛			
開講期	IV			
授業概要	オープンアクセスとデジタルアーカイブについて、その概要を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的知識および専門的スキルを授け、図書館の現場に活用したスキル（ノウハウ）の			
達成目標	オープンアクセスとデジタルアーカイブについて知り、その適切な利用法を習得する			
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポートの成績による	
教科書	その都度プリントを配布します。			
参考書	雑誌「情報の科学と技術」の特集号ほか			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
オフィスタイム	月曜-木曜 8:30-17:05			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	イントロダクション	オープンアクセス運動の起りとその背景	本日の講義・配布したプリントで解説
2	オープンアクセス(1)	ゴールドロードとグリーンロード	本日の講義・配布したプリントで解説
3	オープンアクセス(2)	オープンアクセスと大学図書館	本日の講義・配布したプリントで解説
4	オープンアクセス(3)	オープンアクセスジャーナルとハゲタカジャーナル	本日の講義・配布したプリントで解説
5	デジタルアーカイブ(1)	デジタルアーカイブとは何か	本日の講義・配布したプリントで解説
6	デジタルアーカイブ(2)	デジタルアーカイブとオープンデータ	本日の講義・配布したプリントで解説
7	デジタルアーカイブ(3)	図書館とデジタルアーカイブ	本日の講義・配布したプリントで解説
8	まとめ	今後の展望	本日の講義・配布したプリントで解説

科目名	博物館資料論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	Ⅱ		
授業概要	博物館・文書館・図書館における歴史資料の管理・取り扱い方・目録作成の方法を学ぶ。 ①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法を学ぶ。 ②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する考える。		
達成目標	歴史資料の取り扱い、活用・保存における基礎的知識を習得し、適切な学芸員能力を育成する。		
受講資格	文化学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年 林英夫監修『新編 古文書解読事典』柏書房、1993年 ほか適時指示する。		
学生への要望	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No.4研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	導入(ガイダンス)	歴史資料(主に博物館資料)とは何かを概説し、今後の授業計画を説明する。	予習:参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントをおさらいする。
2	資料化の過程	博物館における資料(モノ)の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。	予習:授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。
3	資料の収集(1)	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。	予習:授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。
4	資料の収集(2)	博物館など社会教育機関における資料(モノ)の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。	予習:授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。
5	資料の整理方法(1)	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、収蔵されるまでの過程を学ぶ。	予習:授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。
6	資料の整理方法(2)	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化し管理する。その意義と方法について考える。	予習:授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。
7	資料の整理方法(3)	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。	予習:授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習:ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	資料の整理方法(4)	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、実際に古文書を読んで古文書の読み方を学ぶ。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	資料の整理方法(5)	古文書の読み方について学び、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	資料の保存と活用(1)	博物館ほか社会教育機関では、収蔵資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	資料の保存と活用(2)	博物館では、研究紀要などの研究成果を発表する刊行物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	資料の保存と活用(3)	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収蔵資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	資料の保存と活用(4)	資料は受け入れする際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	資料の保存と活用(5)	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加している。これらの公開方法について検証する。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。	予習: 授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習: ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

科目名	博物館実習		
担当教員	會田 容弘・仲田 佐和子・佐藤 愛未	対象 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 3単位 選択
開講期	通年		
授業概要	奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。博物館の建設、運営、常設展示、企画展時、教育の実践を行ってきた経験をもとに、授業を行う。【授業の目標・ねらい】学芸員資格取得を目指す学生が、1年次の博物館学概論・博物館学資料論の知識を基に、博物館施設における多様な学芸員の仕事を実践的に学習することを目的とする。 【授業内容の概要】学内実習では、会津若松市歴史資料センターまなべこで企画展を行う。11月に実施する企画展示の展示計画、展示準備、展示、展示解説、展示撤収を実習の授業として行う。また学外実習では、博物館等施設5館見学と1週間程度の施設実習を実施する。施設実習に伴い、事前事後指導を授業の中で行う。		
達成目標	【達成目標】 主体的にコミュニケーションをとってグループ全体の作業を実現していけるように努力できる姿勢を育てること。		
受講資格	学芸員課程履修学生(要「博物館概論」・「博物館資料論」履修済) 1年終了時のGPAが2.0以上であること。	成績評価 方法	授業態度(出席状況重視)と展示計画と展示品及びポスター(50%)・5館見学レポート(20%)・学外実習(30%)を総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。		
参考書	授業時に適宜提示する。『文化学科資格課程報告集』バックナンバー		
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢と共に、博物館施設で実際に働くことを各自がイメージしながら実習に取り組んでほしい。 学内実習での学習態度・出席状況の悪い学生の学外実習参加は許可しない場合がある点、要注意！		
オフィスタイム	各教員の週間スケジュールを確認した上で、随時。展示実習の打ち合わせをする場合は事前に質問内容と面会希望時間をメールで教員に打診し、予定を合わせて面会すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	全体ガイダンス	学芸員課程全体の中の博物館実習の位置づけを確認し、今年の展示実習の概要を説明する。また博物館施設5館見学レポートについて解説し、「博物館で働く側の視点」を学生が意識できるように準備を行う。1年次の文化学科研修旅行博物館見学レポート提出日。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
2	学外施設実習ガイダンス	6月から始まる学外施設実習を有効に実施するために諸注意や確認事項の事前指導を行う。実習施設への提出書類の作成も行うため、欠席しないこと！ 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
3	展示施設見学①	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
4	施設見学②	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
5	施設見学③	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	60
7	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	60
8	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	60
9	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
10	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
11	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
12	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
13	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	60
14	展示発表	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するために作成したパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを提示し、発表を行う。その結果に基づき修正を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	展示修正	展示品の指摘点を修正する。	60
16	模擬展示	作成した展示品を展示してみる。	60
17	模擬展示修正	展示品を修正する。	60
18	展示品作成	展示品を作成し、搬入できるように準備する。	60
19	展示準備	展示内容を広報宣伝するためのポスター制作を行う。	60
20	展示準備	展示原案に基づいて展示資料を制作する。	60
21	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う(10月29日)	60
22	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う(10月29日)	60
23	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う(10月29日)	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う(10月29日)	60
25	展示解説実習	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示初日、及び土曜日に展示解説を実施する。	60
26	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う(12月3日)	60
27	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う(12月3日)	60
28	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う(12月3日)	60
29	後期まとめ	展示の反省について討論会を開催する。	60
30	総まとめ	一年を通しての博物館実習、学内・学外実習の振り返りを行う。	60

科目名	博物館教育論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	仲田 佐和子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までにない重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。		
達成目標	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を習得し、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を習得する。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①授業への積極的な姿勢10点 ②中間レポート40点 ③期末レポート50点
教科書	使用しない。資料を配布する。		
参考書	『博物館教育論』ぎょうせい、2012年		
学生への要望	博物館、美術館等に問題意識を持って、積極的訪れてほしい。また、新聞等で文化財や博物館に関する記事に注意してほしい。		
オフィスタイム	火曜日V時限、水曜日I時限。創学館No.4研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	学芸員科目改正による「博物館教育論」新設の要因を解説し、今後の授業計画を説明する。	配布資料を読み復習する。
2	福島県の博物館	福島県博物館連絡協議会加盟の博物館を紹介する。規模・設置目的・収蔵資料など、県内の博物館が多様な形態であることを指摘し、財源難・入館者減・高齢化など、厳しい現状に直面している博物館を考える。	今まで訪れたことがある博物館を書きだす。
3	博物館教育の理念と目的①-生涯学習と博物館-	生涯学習の考え方を検証し、生涯学習時代到来が社会の要請であることを考える。生涯学習にとって、知識意欲を啓発する博物館の教育的役割が重要であることを確認し、博物館を拠点とする生涯学習のあり方を考察する。	生涯教育について具体的に調べる。
4	博物館教育の理念と目的②-地域社会と博物館-	住民参加による地域活動の拠点としての博物館、利用者(学習者)主体の博物館運営が要請されるようになった。特定の行政区域、地域社会を基準に設置された博物館は多種多様な地域資源を収蔵しており、地域再発見の役割を考えてみる。	自分の出身地域にどんな博物館があるか調べる。
5	博物館教育の理念と目的③-博物館教育と学校教育-	博物館と学校の役割を比較しながら、両者の連携のあり方、学校とは異なる学習体験可能な博物館教育の独自性を検証する。	生涯教育と学校教育の違いについて考える。
6	博物館教育の理念と目的④-博物館教育と学び-	博物館運営は資料(モノ)・知識の一方的伝達から利用者の自己学習を支援するように変化してきた。博物館における学びの特質を利用者の視点に立って考えてみる。	博物館利用者として博物館に望むことを考える。
7	博物館教育の方針①-博物館教育と利用者-	博物館は展示見学的一般市民・研究者・学生・友の会など、年齢・興味・関心・目的を異にする、さまざまな個人・団体に囲まれている。博物館教育にふさわしい博物館と利用者(学習者)との相互関係作りを検証する。	博物館利用者はどのような個人・団体が考えられるかを調べる。
8	博物館教育の方針②-博物館教育の評価-	社会教育施設である博物館は、教育的活動が地域社会や利用者(学習者)により不断に評価される。博物館は教育活動の概要を外部に提示しなければならない存在となった。評価にふさわしい教育活動の企画立案と課題を考えてみる。	博物館が評価されるポイントにはどのようなものがあるか調べる。
9	博物館教育の方針③-博物館教育と学芸員-	利用者(学習者)の近くに位置する学芸員には、資料収集・展示・調査研究など多様な専門性に加えて、生涯学習支援者としての教育的役割が求められるようになった。博物館と地域をつなぐ学芸員像を検証する。	学芸員に求められる教育的役割について調べる。
10	博物館教育の実際①-展示と展示解説-	展示は資料(モノ)の陳列ではない。展示担当者の学芸員は利用者(学習者)の学習意欲を刺激し、興味を持たせるための展示を模索しなければならない。効果的に学習行動へ導く展示のあり方を検証する。展示理解を支援する展示解説・解説シートについても説明する。	「解説シート」とはどのようなものか調べる。
11	博物館教育の実際②-講習会と講座-	展示とともに、講習会・講座は学芸員の専門的研究成果と利用者(学習者)に発信する重要な手段である。利用者の学習支援に合う講習会・講座の運用を考える。	博物館で行われている講習会・講座にはどのようなものがあるか調べる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	博物館教育の実際③-出前講座-	学校と市民を対象とした「出前講座」がある。これは学芸員が専門分野の学習メニューを作成し、直接出向いて学校支援・生涯学習支援を図るものである。利用者の掘り起こしでもある「出前講座」の実例を紹介する。	「出前講座」とは何か調べる。 30
13	博物館教育の実際④-ワークショップ-	博物館教育は一方向的に知識・情報を伝達することではない。「ワークショップ」は利用者(学習者)の主体性を重視した参加・体験型の教育活動である。新たな学びを創出する「ワークショップ」の実例を紹介する。	「ワークショップ」とは何か調べる。 30
14	博物館教育の実際⑤-博物館友の会-	博物館友の会は会員の相互親睦団体であり、博物館の支援団体である。会員は学芸員とともに博物館の教育活動を創造していく存在である。生涯学習の一翼を担うようになった博物館友の会活動を検証する。	「博物館友の会」とは何か調べる。 30
15	まとめ-博物館教育の今後-	これまでの授業内容から、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。	これまでの授業を振り返りながら、まとめる。 30

平成31年度

科目名	博物館経営論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成
担当教員	藤原 妃敏		
開講期	IV		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活発な能力を養うことを目標とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実践</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのか</p>		
達成目標	<p>[授業の目的・ねらい] 学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活発な能力を養うことを目標とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実践</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのか</p>		
受講資格	地域創成学科2年	成績評価 方法	
教科書	プリント配布		
参考書	博物館学 IV 博物館資料保存論 * 博物館実習論(学社文)、文化財の保存環境学(朝倉書店)、美術工芸品の保存と保管(フジ・テクノシステム)など		
学生への要望	資料保存には、様々な要因が複雑に絡み合っています。このため、理解しにくい解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思いま		
オフィスタイム	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	
1	オリエンテーション	博物館経営(ミュージアムマネジメント)の概要を説明する
2	博物館法および関連法規	博物館法、博物館施行規則、望ましい基準に示されている博物館経営内容について説明する。
3	博物館の行政制度	行政内における公立博物館の位置づけについて具体的事例をあげて説明する。
4	博物館の財政制度	公立博物館における予算の作成について具体的事例を挙げながら説明する。

5	博物館の施設・設備	博物館の施設、設備の特徴について具体的な事例について説明する。
6	博物館の組織と職員	博物館の組織を具体的例をあげて提示し、それぞれの職務内容を説明する。
7	博物館の経営(1)	福島県立博物館を例にとり、その設立に至る経過、設立意義、条例などに基づきその使命を説明する。
8	博物館の経営(2)	福島県立博物館の一年を通じた博物館運営の実例を紹介し、博物館経営の実際を説明する。
9	博物館の経営(3)	福島県立博物館の運営に関する評価方法、評価結果を提示し、博物館における評価制度の実際を説明する。
10	博物館の経営(4)	博物館における、体験学習など教育普及活動の方法と実践例について説明する。
11	博物館の経営(5)	友の会、ボランティア、支援組織の設立と運営方法について具体的事例をあげて説明する。
12	博物館の経営(6)	博物館と地域の連携について具体的事例をあげながら説明する。
13	博物館の経営(7)	博物館の危機管理、学芸員の倫理について具体的事例をあげて、説明する。
14	博物館経営の諸問題	指定管理者制度の導入、予算の削減など現在の博物館の経営に関する問題点を説明する。
15	まとめ	授業全体をふりかえるとともに、博物館経営に学芸員がどのように関わるかを実際の経験を踏まえて説明する。

戊学科 2年 2単位 選択

動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基

祭について事例をあげながら解説する。

について理解を深める。

動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基

祭について事例をあげながら解説する。

について理解を深める。

レポート40点、期末試験60点

境(中央公論美術出版)、博物館資料保存論(講談社)、文化財保存

事柄については、必ず復習を行い理解を深めるようにして下さい。
す。

授業内容

	0
	0
	0
	0

科目名	博物館資料保存論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	松田 隆嗣		
開講期	IV		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基本、資料の取り扱い方および文化財の保管や公開において注意すべき基準等について学習します。また、地域の文化財の保存活用についても学習します。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基本、資料の取り扱い方および文化財の保管や公開において注意すべき基準等について学習します。また、地域の文化財の保存活用についても学習します。		
受講資格	地域創成学科2年	成績評価 方法	①小テスト30点(15点×2回) ②課題30点(15点×2回) ③期末試験40点
教科書	プリント配布		
参考書	博物館学 IV 博物館資料保存論 * 博物館実習論(学社文)、文化財の保存環境(中央公論美術出版)、博物館資料保存論(講談社)、文化財保存環境学(朝倉書店)、美術工芸品の保存と保管(フジ・テクノシステム)など		
学生への要望	資料保存には、様々な要因が複雑に絡み合っています。このため、理解しにくい事柄については、必ず復習を行い理解を深めるようにして下さい。解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思います。		
オフィスタイム	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	文化財に害を及ぼす様々な要因は数多くあり、授業時間内で全てを説明することは困難です。これらの要因を挙げ簡単に説明するとともに博物館の資料保存に関する文献の調査方法について話します。	0
2	資料に影響を及ぼす物理的要因(1 温度)について	温度の変化が資料にどのような影響を与えるかを説明します。 特に、温度は他の物理的要因や化学的要因及び生物的要因にも大きな影響を与えます。そのため、これらの点を	0
3	資料に影響を及ぼす物理的要因(2 湿度)について	湿度の管理は、資料を展示・保管する上で最も注意すべき要因のひとつです。 このため、どのような要因が湿度の変化に影響及ぼし、どのような害が表れるのかについて話します。	0
4	温度・湿度の計測について	温度・湿度の計測には温度計及び湿度計を用いますが、これらは、その種類により精度や測定方法が異なります。 このため、温時計及び湿度計の基本的な測定法を説明する共に測定における注意点について話します。	0
5	資料に影響を及ぼす物理的要因(3 光(電磁波))とその計測について	博物館で資料を展示し、来館者に観ていただくには、光は不可欠なものです。また、資料の展示を様々な演出する上でも重要なものです。しかし、反面、光自体が資料に害を与えます。このため、この光による害とその測定法について話します。	0
6	資料に影響を及ぼす化学的要因について	資料に影響を及ぼす化学的物質には、数多くの様々な物質がありますが、中でも有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニアなどは特に注意すべき物質です。これらの資料に対する影響及び発生原因等について話します。	0
7	資料に影響を及ぼす生物的要因について	資料に影響を及ぼす生物学的要因及び引き起こされる害について説明するとともにその発生要因について話します。	0
8	燻蒸ガスによる資料の燻蒸とその問題点について	資料燻蒸の長所・短所及びその問題点・注意点について話すと共に、現在使用されている燻蒸ガス種類と毒性及び資料に及ぼす影響などについても話します。	0
9	IPMによる資料保存環境の管理と燻蒸剤によらない殺虫法について	IPM(総合的害虫管理)による資料の展示・収蔵環境管理方法の基本及び、IPMにより資料の保存環境を管理するに当たり燻蒸剤に依存しない防・殺虫法は重要な役割を果たしています。このため、これらについても話します。	0
10	収蔵庫の保存環境とその維持方法について	資料の保存環境の維持は空調設備により簡単にできると考えますが、現実には空調のみで環境を維持することは困難なことです。よりよい環境を維持するためにどのようなことを行っているかについて話します。	0
11	展示室の資料展示環境とその維持方法について	展示室は外界などから、常に様々な影響を受けています。具体的にどのような影響を受けているかについて話しをすると共に展示環境を適正に保つためにどのようなことを行っているかを話します。	0
12	資料の修理、修復、保存処理の基本について	資料の修理や修復の基本的な考え方及び遺跡から出土した金属製遺物や木製遺物の保存処理方法についてもその方法(科学処理)の概略について話します。博物館において	0
13	伝統的な資料保存の方法について	昔から行われている日本古来の資料の保存方法には、現在でも資料を保存する上で重要な方法が数多くあります。これらの方法について説明をします。	0
14	博物館資料の災害防止について	博物館資料が受ける災害について述べると共にその防止方法について話します。	0
15	地域資源と地域の文化財の保存と活用について	各地域に数多くの様々な文化財や資料が所在しますが、これら文化財や資料の保存への取り組みや活用について話します。	0

平成31年度

科目名	博物館展示論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子・仲田 佐和子		
開講期	IV		
授業概要	展示の歴史、メディア、教育活動、諸形態に関する理論及び方法に関する知識、技術を習得し、博物館展示の基礎能力を養う。		
達成目標	博物館展示に精通することによって、歴史資料や美術工芸品と向き合う姿勢、鑑識眼を身につけることの大切さを知る。		
受講資格	地域創成学科2年生 学芸員資格取得必修科目	成績評価 方法	授業中の課題(50点) 学期末の記述式試験(50点)
教科書	授業内でコピー等を配布する。		
参考書	『博物館展示法』雄山閣出版、『新しい博物館学』芙蓉書房出版、『博物館展示論』講談社、『博物館展示論』放送大学		
学生への要望	時間をみつけて近隣の美術館、博物館を訪ねること。		
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日16:00-17:00 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	オリエンテーション	学芸員資格としての展示論の意義。学内のブロンズ像を例に、コミュニケーションとしての展示を考える。	学内のブロンズ像を鑑賞して回る。	90
2	展示と展示論の歴史(日本)	上野の国立博物館、西洋美術館、県内の美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
3	展示と展示論の歴史(西洋)	大英博物館、ルーヴル美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
4	調査研究の成果としての展示	芸術鑑賞講座の展示、「発掘ガール展」の展示を例に、調査研究の成果を理解する。	各展示を振り返り、感想をまとめておく。	90
5	展示の政治性と社会性	大ルーヴル、山梨県立美術館、福島県立美術館を例に、展示の政治性と社会性を理解する。 更に、短期大学部に学芸員資格取得のカリキュラムが導入された経緯を理解する。	良く行く文化施設の設立の経緯を調べる。	90
6	展示の諸形態	資料から展示の諸形態を整理し、学内展示(ブロンズ像展示、日本風俗美術館、上村松園作品展、62年館民具展示ケース等)を比較検討する。	学内の諸展示に注意する。	90
7	展示の制作	博物館実習の授業と連携し、「発掘ガール展」を準備する。	博物館実習の意義をよく理解する。	90
8	関係者との協力	学芸員として展示に関わっている卒業生から体験談を聞き、ひとつの展示が仕上がるまでの協働を学ぶ。	二本松市の大山忠作美術館を見学する。	270
9	日本文化再確認	慎思庵で和の文化を実体験する。掛け軸、茶碗、漆器、着物の扱いに慣れる。	浴衣のたたみ方を練習する。	90
10	展示の評価と改善	観覧者への聞き取り、アンケートなど展示評価の種々の方法を比較検討する。学内の展示を評価し、改善策を提案する。	特に、ネーチャードームと風俗美術館を熟覧する。	90
11	解説文・解説パネル	学内の解説文を検討評価し、各自でより良い解説文を試作する。	パネルの大きさ、字体等、より美しい解説パネルの試作を仕上げる。	90
12	人による解説	前回の解説文を元に、学内展示の解説を順次行う。	自他の解説を振り返り、よりよい解説を工夫する。	90
13	展示解説書	芸術鑑賞講座のリーフレットや「発掘ガール展」の解説シートを参考に、学内展示の解説書を作る。	製本の仕方を工夫する。	90
14	設えと生け花	日本の暮らしに潤いをもたらしてきた設えについて学び、生け花の実演から展示の意義を考える。	自分の部屋で花を飾ってみる。	90
15	まとめ	授業を振り返り、学内展示の一部分を実際に改善する。試験準備の指示をする。	15回のノートをまとめ、試験の準備をする。	270

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	通年			
授業概要	美術史の分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、文献調査、作品調査の結果を踏まえ、論理的な考察と議論を経て、創造的な論文に仕上げる。			
達成目標	専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけることができる。			
受講資格	地域創成学科2年生 一年次に「美術史」の単位を取得していることが望ましい。	成績評価 方法	①研究に取り組む姿勢(計画性・主体性・継続性・創造性など)(40点) ②論理的で創造的な論文であったかどうか(40点) ③発表会、成果のプレゼンテーション力(20点)	
教科書	特になし			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	地道に、積極的に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日16:00-17:00 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	仮所属	仮所属の確認と調整。教員の自己紹介。過去の論文の閲覧。	60
2	テーマの確認と研究倫理	テーマについて指導教員と共通の理解を持ち、研究倫理の基本を学ぶ。	60
3	参考文献選択	教えられた参考文献から5冊適度を選ぶ。	90
4	文献調査1	参考文献から知り得た情報を報告する。	90
5	文献調査2	参考文献から知り得た情報を報告する。	90
6	文献調査3	参考文献から知り得た情報を報告する。	90
7	文献調査4	参考文献をから知り得た情報を報告する。	90
8	ゼミ内発表	この段階で抱いた自分なりの意見を発表する。	90
9	作品分析1	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	90
10	作品分析2	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	90
11	作品分析3	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	90
12	作品解釈4	特に重要な作品について自分なりに分析する。	90
13	英文資料指示	各自に短い英文資料を指示するので、和訳をする。	90
14	英文資料解説	英文資料の内容を理解する。	90
15	課題指示	各自のテーマにあわせ、美術館見学など夏休みの課題を指示する。	450
16	課題発表	夏休みの課題の成果を発表する。	270
17	作品解釈1	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	90
18	作品解釈2	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	90
19	作品解釈3	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	90
20	作品解釈4	特に大切な作品を選び自分なりの解釈を試みる。	90
21	ゼミ内発表	この段階で考えていることを発表する。	180
22	課題設定の書き方	課題を設定する「はじめに」の文章から、書き始める。	180
23	章立て	四章程度に構成し、論理的な文章を書き進める。	180
24	論考のまとめ方	独自の推論をわかりやすい文章で書き進む。	180
25	結論の導き方	無理のない推論かどうか自問しながら、結論をまとめる。	180
26	注、参考文献、図版等の付け方	研究倫理を念頭に、論文としての形式を整える。	180
27	要旨提出	A4一枚程度の要旨をまとめる。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
28	論文提出	A4で10枚程の論文に、誤字脱字等がないことを確認して印刷、バッチリまでに提出する。	見た目も美しく仕上げる。 180
29	発表会準備	要旨を元に、パワーポイントで図像資料を提示するなど、わかりやすい発表の準備をする。	パワーポイント等の資料を作り、リハーサルなど、発表会の準備をする。 180
30	卒業研究発表会	自分の卒業研究の概要を7分程度で発表し、質問にこたえる。	発表会の準備をし、また、発表会で指摘された事項について、必要があれば手直しする。 180

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	福島 寅太郎			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の概要】 卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。</p> <p>【授業の目的・ねらい】 ①地域創成学科の卒業生として必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 【授業全体の内容の概要】</p>			
達成目標	<p>所属学生の問題関心にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。 なお、卒業論文(1200字以上)の提出日および最終発表会は別途にて指示する。</p>			
受講資格	短大地域創成学科2年	成績評価 方法	論文成績60点、ゼミにおける発表20%、ゼミにおける参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
教科書				
参考書				
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。 			
オフィスタイム	月曜日16時～17時。担当教員の研究室(創学館No.5)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	『卒業研究手引き』を使いながら、ゼミのやり方と流れについて話す。1年生の授業を復習し、その中から課題を見つける試み	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
2	課題1 宗教史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
3	課題2 神話	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
4	課題3 神と仏	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
5	課題4 神仏習合の歴史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
6	課題5 神仏と中世(1)	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
7	課題6 神仏と中世(2)	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
8	課題7 世俗と宗教(1)	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること 1.5
9	課題8 世俗と宗教(2)	課題を発見する方法を学ぶ。参考文献案内	参考文献を読み、理解すること 1.5
10	課題9 神道とナショナリズム(1)	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
11	課題10 神道とナショナリズム(2)	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
12	課題11 近代化と宗教(1)	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
13	課題12 近代化と宗教(2)	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
14	課題13 民衆宗教の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
15	前期のまとめ	中間発表。個々のテーマを確定する。	1.5
16	後期のガイダンス		1.5
17	課題14 天神信仰における東福寺の位置づけについて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
18	課題15 天神像の変容について	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
19	課題16 怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	参考文献を読み、理解すること 1.5
20	課題17 天神信仰と陰陽道について	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること 1.5
21	課題18 梅と天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
22	課題19 北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	参考文献を読み、理解すること 1.5
23	課題20 学問の神様としての菅原道真像の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
24	課題21 天神信仰の広がりについて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5
25	課題22 東北地方における天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること 1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
26	課題21 会津地方における天神信仰の特徴	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
27	課題22 庶民信仰としての天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
28	課題23 天神信仰の現在一地方神社における合格祈願を手がかりに	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ I	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5
30	まとめ II	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	絵画というものは精神性なくして成立しないことは当然ですが、同時にその精神は素材を通して表現されます。故に技術と精神は切り離しては考えられません。どうすれば自分の表現したい物に近づけるか。作者はいつも技法の研究と発見に努力をしなければならないということです。この授業では油彩画Ⅰで学習したことを基礎とし、更に一歩踏み込んで学生各自の個性に合わせて、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで、個性ある自分だけの絵画空間を創りあげ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	教科書は特に使用しません。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・新技法シリーズ絵画入門 … 佐藤一郎著 (美術出版社) ・彩色技法 … J・M パラモン (グラフ イック社) ・その他、授業に関する画集・資料などは適 宜指示します。 		
学生への要望	油彩画の大作を描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、空き時間を有効に活用し十分に時間をかけて、制作を進めること。		
オフィスタイム	授業に関する質問は、火曜日Ⅳ・Ⅴ、水曜日Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ、木曜日Ⅰ・ⅤにNo.1地域創成学科研究室で受けます。ただしⅤ時限目は17:00までとします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	卒業研究履修についてのオリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、卒業研究の目標を確認します。 ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検—各自で油絵具や筆などを点検して不足分の補充をして下さい。(作品の大型化に伴い、大型ペインティングナイフの準備等) 	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。	30
2	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・静物画及び自由画どちらかを選び、それぞれモチーフ作りやエスキースを始めます。 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
3	静物画、自由画制作—1	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自で制作日程を検討し、作品完成までの計画を立てましょう。 ・静物画に関しては身近な“物”の美しさを発見し、自分の内的感情を追及し作品にしていきたいと思います。 ・自由画に関しては自分のテーマ、進め方について考えましょう。 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。(大型化のため、共同作業。) 	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
4	同上	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。(大型化のため、共同作業。) 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、張り終わったキャンバスを整理しておく。	30
5	静物画、自由画制作—2	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。 	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
6	同上	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めていきましょう。 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	静物画、自由画制作—3	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみよう。 	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
8	同上	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めていきましょう。 	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	静物画、自由画制作-4	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
10	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では人物とは異なる“物”の持つ素朴な形の組合わせを感じながら表現して行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
11	静物画、自由画制作-5	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
12	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与えてみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
13	静物画、自由画制作-6	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
14	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では床、モチーフ台、モチーフ、背面の関係をも一度確認してみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
15	静物画、自由画制作-7	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
16	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例としては、反対色は強烈な印象、同系色は統一した印象になる等。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
17	静物画、自由画制作-8	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
18	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながらいい形を探っていきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
19	静物画、自由画制作-9	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
20	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握していきます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
21	静物画、自由画制作-10	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
22	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描きこむ事によって表現が硬くならないように注意しましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
23	静物画、自由画制作-11	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描きだしの新鮮さを想いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみるなど、工夫をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
25	静物画、自由画制作-12	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
26	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきましたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
27	静物画、自由画制作-13	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
28	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成とします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
29	静物画、自由画講評会	…講評会 ・仕上がった作品を並べ、画集や参考作品なども用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
30	同上	…講評会 ・質問や意見交換も多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指します。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。
31	オリエンテーションとエスキース制作	※これよりIV期 ・残り半期の授業内容や使用道具の説明をします。 ・道具点検—各自で、油絵具や筆などを点検して不足分の補充をしましょう。 ・卒業制作をイメージしながら80号以上のキャンバス1点と小キャンバスを5〜6枚準備して下さい。	【事前学習】授業に関連する使用道具や材料などを事前に調べておく。
32	同上	…作品制作 ・卒業制作をイメージしながら少しずつエスキースをしましょう	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。
33	構成画制作-1	…作品制作 ・構成画制作では今までの油彩画やデッサンで学んだことを踏まえ、構想を練りましょう。 ・各自、効率的な制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
34	同上	…作品制作 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
35	構成画制作-2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
36	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
37	構成画制作-3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・作品制作・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。
38	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集等を適宜見ながら、徐々に進めていき、まとめに入ります。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。
39	構成画作品講評会	…作品講評 ・仕上がった構成画作品を並べ参考作品や画集等も用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
40	同上	…作品講評 ・質問や意見交換も多角的に行ない油彩画構成制作の目標達成を目指します。	【事後学習】作品講評内容を踏まえ、自分なりに指摘点を整理しておく。 30
41	市民展搬入準備	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。 30
42	同上	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。 ・額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材、搬入する作品を整理しておく。 30
43	市民展見学	…市展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事前学習】市民展見学に際し事前に、この展覧会の会場や歴史を調べておく。 30
44	同上	…市展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事後学習】市民展見学後に、展示された自分の作品の見え方や展示方法を確認・検証しておく。 30
45	卒業制作-1	…ガイダンス ・油彩画の平面作品に限定せず他の素材を使った立体作品またはインスタレーションなど表現方法は自由とします。 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
46	同上	… 作品制作 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。 ・各自、制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
47	卒業制作-2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
48	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
49	卒業制作-3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
50	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
51	卒業制作-4	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
52	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが書き込む事によって表現が硬くならないように注意をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
53	卒業制作-5	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30
54	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描き込むことによって表現が硬くならないように注意しながら完成へと向かいます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
55	卒業制作-6	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
56	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。 30
57	卒業制作作品搬入準備	…作品の完成、搬入準備 ・卒業制作作品の額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。 30
58	同上	…作品の完成、搬入準備 ・会場展示のプレゼンテーションをします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方の復習・検証しておく。 30
59	卒業制作作品講評会	…講評会 ・完成した作品は卒業制作展において展示し、2年間の学習の成果として発表します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に関覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 30
60	同上	…講評会及び意見交換 ・各自、作品の前で質問や意見交換も多角的に行ないながら講評します。 ・一年間の総評をします。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。また、制作した作品および作品画像を整理しておく。 30

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	斉藤 弘久			
開講期	通年			
授業概要	現代社会におけるグラフィックデザインの役割は重要なものとなってきている。対人間のより良いコミュニケーションはもとより、地球環境全体にまで及ぶ深い洞察と積極的関与が求められている。このような時代の中において、グラフィックデザインが人間生活にどのように寄与できるかを考える。			
達成目標	人間が生活にどのように寄与できるかを考えると共に、学生としての新しい視点を見つけ出すことを目的としている。作品の完成度が高いことも大切であるが、主体的な研究・作品制作の過程がより重要である。			
受講資格	地域創成学科 2年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)	
教科書	なし。			
参考書	各自の研究制作に参考となる書籍や図録などを推薦する。			
学生への要望	専門的な立場から、主体的に研究・制作されたい。			
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2.デザイン室で受けます。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	卒業研究の目的と進め方について説明する。 現代デザインの動向を知り、その役割と問題点を理解する。	授前、卒制の心構えを考えてみる 授後、どのように取り組むかを考える	240
2	討論会	現代デザインの役割と問題点について、特に人間のコミュニケーションのあり方と地球環境の側面から討論する。	授前、制作に向けての姿勢を考える 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
3	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)を決定するための研究方法について学ぶ。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
4	研究資料について	参考文献と参考作品の収集の方法を知る。直接取材についても考える。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
5	研究テーマ I	デザインの分野や技法から考えるのではなく、純粋に表現したい事柄を文章化してみる。提出する。人間生活の中で、どのようなことがデザインの中で、より良くなるのかを考える。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
6	研究テーマ II	文章化した「表現のためのテーマ」を読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていること全体の輪郭を見る。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
7	資料の収集 I	自分が考えているテーマが現代のデザイン界で、どのように表現されているのか。その類型を収集する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
8	資料の収集 II	文章化したテーマを作品化(視覚化)するために必要な資料を考え収集する。 授業時間内だけの収集には限界があるので、普段から心がけて資料のスクラップを行う必要がある。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
9	ムードボード制作 I	収集した資料(画像・テキストなど)をB2のパネルに貼り、考えている事柄全体の雰囲気を感じ取る。写真・新聞の切り抜き・メモ・スケッチなど幅広く集め、一覧できるものにする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
10	ムードボード制作 II	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスも考えながら制作する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
11	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに、表現テーマを決定する。 小さいスケッチ(サムネイル)を描いてみる。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
12	表現技法の決定	テーマを表現するために、最も適している技法を考える。大きくCGと手描き技法に分けて考えるが、併用もありうるので柔軟に考える。手描きの場合は描画材料のほかに、基底材についても考える必要がある。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
13	プレ制作 I	材料実験を兼ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、これを完成予想図とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	プレ制作Ⅱ	この時に、今後制作中に起こる問題点を予測する。材料的な問題・技術的な問題点・さらに必要な資料・展示の際の問題点などを予測する。また、どこに多くの時間を要するかも考えておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
15	制作計画・材料の手配	本制作の計画書を作成する。時間の配分をよく考えて作成する。修正作業に2週間は確保すること。展示作業も含め、必要な材料・用具を手配する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
16	本制作①(基底材)	基底材に対応した下地処理を行う。紙の場合は水張りなど。パソコンによる制作の場合でも、最終的に印刷物で展示する場合はパネルを準備する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
17	本制作②(下絵)	トレシングペーパーなどを使用して、下絵を描く。大きい画面の作品は離れて見てバランスを確認することが必要である。パソコンでの場合は、スケッチをスキャンして下絵とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
18	本制作③(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
19	本制作④(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
20	本制作⑤(下絵の転写)	トレシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
21	本制作⑥(下絵の転写)	トレシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
22	本制作⑦(描画・彩色)	平面的な作品の場合は、大きい面から彩色し、画面の大勢を占める色調を把握する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
23	本制作⑧(描画・彩色)	大まかに全体的に制作を進めていく。最初から細部に走らない。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
24	本制作⑨(描画・彩色)	迷わずに制作し、一定の結果が出たら作品の検証を行う。授業時間内だけでは時間的に不足するので、学生は空き時間をすべて利用して制作に専念すること。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
25	本制作⑩(描画・彩色)	制作に専念する。パソコンで制作している学生は、この時点で出力しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
26	途中経過発表会	制作中の作品を全員で鑑賞し、感想を述べ合う。特にテーマとの合致性、今後の問題点について確認し、以後の制作の指針とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する
27	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点につて、修正・強調などを行い、完成度を上げていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、完成に向けた取り組みを考える
28	修正・仕上げ②	同上。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、完成に向けた取り組みを考える
29	修正・仕上げ③	離れて作品を鑑賞し、微調整を加えていく。展示具をパネルに取り付けておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、最終段階で仕上げを確認する
30	作品講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返って、鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、それが、どのくらいできているのか検証する。お互いに意見を述べ合う。教員は講評する。	授前、完成作品の調整 授後、完成した作品を鑑賞しまとめる

平成31年度

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	桑野 聡			
開講期	通年			
授業概要	本卒業研究は、文化・歴史系の学びを通して歴史学(西洋史)の専門的な知識を学問的に探究した成果です。学生各自が独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導します。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。 ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。 ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。 			
受講資格	ヨーロッパ文化史履修学生	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における内容の発表(30点) ・卒業論文は、表紙・目次・本文に加えて、註・資料・参考文献が付加されたものであること(50点) ・卒業研究発表会(20点) 	
教科書	特に使用しません。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』1・2 DTP出版 2006年 その他、適宜提示する。		地域創成学科「卒業研究の手引き」平成31年度	
学生への要望	各自の就職・資格・アルバイト活動などを考慮してスケジュール管理を確実に、計画的に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜Ⅱ時限目(10:30~12:00)・金曜Ⅴ時限目(16:10~17:40) 考古学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。ゼミ参加学生のテーマについて話し合い、課題を提示する。	自分の関心テーマについて、主体的に説明し、課題に取り組む。	60
2	ウォーミングアップ①	図書館の使い方や文献検索方法を説明する。	実際に自分の関心テーマの参考文献を検索してみる。	120
3	ウォーミングアップ②	学生各自が課題を報告し、話し合う。更に次の課題を提示する。	自分の課題への取り組み方と他の学生の取り組み方を比較し、よりよい取り組み方を考える。	120
4	ウォーミングアップ③	文献検索に関する課題を報告し、話し合う。	自分の課題への取り組み方と他の学生の取り組み方を比較し、よりよい取り組み方を考える。	120
5	報告1-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
6	報告1-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
7	報告1-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
8	報告1-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
9	報告1-⑤	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
10	報告1-⑥	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
11	報告1-⑦	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
12	報告1-⑧	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
13	インターミッション①	前期の報告を踏まえて、各自の課題を整理し、問題点を話し合う。	各自の報告の中から課題を見つけ、解決に取り組む。	120
14	インターミッション②	前期の報告を踏まえて、各自の課題を整理し、問題点を話し合う。	各自の報告の中から課題を見つけ、解決に取り組む。	120
15	前期まとめ	前期の作業を振り返り、各自の論文構成を考え、夏休みのスケジュールを確定する。	各自の研究スケジュールを計画する。	120
16	後期ガイダンス	夏休みの成果を報告し、後期の研究スケジュールを相談する。	夏休みの課題を作成し、提出する。	60
17	インターミッション③	課題に対するコメントを確認し、後期の報告に備える。	夏休みの課題に対するコメントをよく理解し、次の作業準備を進める。	120
18	インターミッション④	課題に対するコメントを確認し、後期の報告に備える。	夏休みの課題に対するコメントをよく理解し、次の作業準備を進める。	120
19	インターミッション⑤	次週からの報告に備えて相談を受ける。	報告準備を進め、具体的な質問事項を用意する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
20	報告2-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
21	報告2-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
22	報告2-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
23	報告2-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
24	報告2-⑤	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
25	報告2-⑥	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
26	報告2-⑦	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
27	報告2-⑧	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。 120
28	最終確認①	卒業研究の要旨をまとめ、最終の章立て、論文構成を確認する。	各自の論文の全体像を要旨にまとめ、添削を受ける準備を行う。 120
29	最終確認②	論文提出のための書式確認、註の付け方などを確認する。	本文だけでなく、論文としての体裁、形式を理解し、正しく準備する。 120
30	最終確認③	論文提出後の確認と発表会の準備を行う。	発表用パワーポイントの準備を行い、発表原稿をまとめる。 120

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	會田 容弘			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目標・ねらい】 卒業研究は地域創成学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられる。専門分野にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められる。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本である。</p> <p>【授業の概要】 東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古資料を用いた実際的な研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。授業では各自の問題関心に合わせながら、考古資料の取り扱い方と観察方法、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画している。なお、卒業論文(A4版12000字以上)の提出日は2020年1月10日(木)、発表会は2月14日(金)。</p>			
達成目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。 ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。 ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。 			
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	<p>【成績評価法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における内容の発表(30点) ・卒業論文の内容は論理的で創造的であること(50点) ・卒業研究発表会(20点) 	
教科書	會田 著述「短大生のための考古学論文作法」(私家版)			
参考書	文化学科(資格課程)報告集第4～21集			
学生への要望	1年間かけてじっくりと自分の研究テーマを完成させてほしい。それにはたゆまず考古学の勉強をすることが必要である。授業は課題研究と発表および実習である。課題を調べることが予習である。発表および実習の指摘点を修正するのが復習である。一日30分を考古学の時間にあててほしい。			
オフィスタイム	水曜日2・4時限目。論文作成に関する質問の場合は事前にメールで連絡を取り、質問内容を示してから面会すること。特に必要な文献などがある場合は必ず事前連絡すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	研究倫理の説明を行う。考古資料・文化財を研究に利用する場合の手続き、調査研究方法、卒業論文作成の過程を説明する。	自分の興味ある分野と卒論担当教員の説明が一致しているかどうか十分検討する。
2	論文作成の動機付け(1)	対話を行いながら、興味ある対象が考古学研究の対象であるかないか、どのようにすれば考古学・博物館学・文化財学研究となるかを明らかにする。	自分の研究テーマ候補をいくつか考え、自分の興味がどこにあるのか整理する。
3	論文作成の動機付け(2)	実際の考古資料(笹山原遺跡No.16出土資料)を観察する。	資料観察を授業時間外にも行う。
4	論文作成の動機付け(3)	會田の最新論文「『考古学動作連鎖研究の社会的効用—遺跡博物館での活用法—』『考古学研究』第64巻第4号 pp.31-35(2018.3)」「上屋地遺跡B地点出土石器群の石器技術学的再検討」『東北日本の旧石器文化を語る会編『東北日本の旧石器時代』pp.239-254(2018.5.31)』の読み合わせを行い、考古学論文の構成・資料・提示方法などを説明する。	論文を読み、読書ノートを作成する。
5	論文資料の決定	論文で扱う資料を決定する。実物考古資料、文献考古資料、現地遺跡などにより論文作成方法は異なる。	文献リストを作成する。
6	資料操作方法(1)	取り扱う資料(遺物(石器・土器・骨角器・自然遺物・木製品・金属器)遺構(住居・土坑・古墳))によりその折扱い方が異なる。基本的な資料の取り扱い方法を説明し、論文作成に備える。	文献リストを作成する。
7	資料操作方法(2)	資料操作の実習。土器であれば個体分類、接合作業。石器であれば石材分類、接合作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。
8	資料化作業(1)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。
9	資料化作業(2)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。
10	資料化作業(3)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。
11	資料化作業(4)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。
12	資料化作業(5)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	資料化作業(6)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	120
14	資料化作業(7)	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	120
15	中間発表	操作した資料がどのような状況にあるか、報告する。さらにその資料から何が言えそうか対話により検討する。	120
16	図化作業(1)	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	120
17	図化作業(2)	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	120
18	図化作業(3)	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	120
19	図化作業(4)	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	120
20	図化作業(5)	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	120
21	図版レイアウト	図化した図版をレイアウトし、図版を作る。	120
22	論文作成(1)	事実記載。	120
23	論文作成(2)	事実記載。	120
24	論文作成(3)	事実記載。	120
25	論文作成(4)	事実記載。	120
26	論文作成(5)	事実記載。	120
27	研究史上の位置付け	記述した資料がどのような位置にあるものか、指導教員が関連文献を提示し、記述する。	120
28	考察の執筆(1)	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	120
29	考察の執筆(2)	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	120
30	発表データ作成および予行	卒業論文発表会に向けてパワーポイントを作成し、実際にそれを持ちいて発表の練習を行う。	30

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	知野 愛			
開講期	通年			
授業概要	家族社会学、女性史(日本近現代)に関するテーマの中から、自分の課題を主体的に決定し、各自のテーマについて調査研究する。半期に2回程度、中間発表会を行い、お互いの進捗状況を知り質疑応答や議論をしてさらに発展させる。			
達成目標	自分の課題をどのように調査研究したか、他のメンバーに説明ができ質問に応じることができ、ディスカッションができること。最終的には、論文(複数で1テーマを追う場合などはレポート冊子)の形でまとめ、卒業研究発表会で発表する。			
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	中間報告会での発表内容(10点) 卒研発表会での発表内容(10点) 論文(80点)	
教科書	なし			
参考書	適宜提示する			
学生への要望	各自の課題に向かって努力する			
オフィスタイム	木曜Ⅳ限、金曜Ⅴ限、場所：芸術館1階地域創成学科研究室No.1			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	卒業研究のテーマについて話し合い、各自の関心の中心はどこにあるのかを明確にする。年間計画についても話し合い、一年間の行動計画を立てる。	ルーズリーフにキーワードを3つ以上書き出し、それについてインターネットで検索し、その意味や関連事項、先行研究がどの程度提示されるかを調べ、書きとめる。
2	テーマ発表、検討	各自のテーマのキーワードを調査した結果について発表し合い、質疑応答する。調査方法をどのようにするか、資料についてなど、現在の計画内容を紙に書いて提出する。	各自のテーマが、すでにどのように研究されているのか、インターネットで先行研究を調べる。その結果を報告書に書いて提出する。
3	研究テーマの検討	各自が調べてきた先行研究の内容について発表し、研究方法や実現可能性などを検討する。	授業の内容を振り返り、研究方法や資料などについて調べ、その結果をルーズリーフに書いて提出する。
4	研究テーマの検討	各自の調査した自分のテーマについての先行研究や資料のこなど調べた内容を、発表し合い質疑応答をする。	授業で話合った内容を振り返り、さらに、キーワード3つ以上について調べ、ルーズリーフ1枚にまとめて次回の授業で発表する。
5	研究テーマの明確化、論文の書き方	研究テーマを明確にし、論文の書き方を資料から学ぶ。	論文の書き方に関する資料を渡すので、それをよく読む。目次の構成などをどうするか、1枚に書き出して提出する。
6	先行研究の検討	先行研究の検討について、各自が指導教員と話し合う。個人面接で行う。該当日以外の人は、各自で調査研究を進める。	先行研究を一冊ずつ読み進める。その概要を書き出していく。
7	先行研究の調査	先行研究の検討。資料を探し、書籍を読み、先行研究を探して、概要を書いていく。	先行研究を書き出したものを、USBに入れて提出する。
8	研究方法の検討	各自が先行研究の検討を経て、研究方法を決める。どのような方法がふさわしいか、資料や先行研究から、実現可能かどうかを検討する。題名、研究目的、研究方法、内容(骨組み)について、記載して提出する。	中間発表の準備をする。
9	研究調査	各自が研究調査を進める。図書館に行くなどして、資料を探しわかったことをパソコン入力していく。不明な点などを教員に質問し調査を継続していく。	中間発表の準備をする。
10	中間発表	各自が研究調査をどの程度進めたか、中間発表する。質疑応答をして、お互いの理解を深める。	発表の振り返りをして、反省点や改善点をルーズリーフに書き出し、次回提出する。
11	中間発表	各自の研究調査状況がどこまで進んだのかを発表する。第2回目。質疑応答をして、理解を深める。	発表の結果、わかったこと、改善点などをルーズリーフに書いて提出する。
12	中間発表	これまでの調査でわかったこと、研究テーマ、研究方法、先行研究、内容などについて発表する。	中間発表用の提示資料を作成する。
13	研究調査	各自が研究調査を進める。図書館に行くなどして、資料を探しわかったことをパソコン入力していく。	中間発表で指摘された点、新たに疑問が生じた点などを振り返り、研究方法や内容を検討する。修正しようと思う点についてルーズリーフに書いて提出する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	研究調査	自分のテーマに関連する書籍を1冊以上、図書館から借りて読む。書名(著者名、出版社、出版年)を書き、新たに分かったことを書き出す。書いたものを提出する。	120
15	研究調査	自分のテーマに関連する書籍を1冊以上読み、その内容をまとめて、パソコン入力作業をする。	120
16	研究調査	各自が中間発表で指摘された点などを修正して、調査を続ける。調べた結果わかったことは、随時パソコン入力する。	120
17	研究調査	これまでの状況を、各自が指導教員と話し合う。第一回目。該当以外の人は、各自で調査研究を進める。	120
18	研究調査	調査を継続する。	120
19	調査報告	これまでの調査の結果を発表報告する。質疑応答をして理解を深める。	120
20	調査報告	これまでの調査結果を報告する。質疑応答をして理解を深める。	120
21	研究調査報告会	各自の研究の進捗状況を報告する。質疑応答をして研究を深化させる。	120
22	論文作成へ向けて	各自の目次構成を確認し、各自の論文構成を再度確認し、研究進捗状況の確認をする。USBで提出すること。	120
23	論文作成へ向けて	各自の研究を進めてパソコン入力し、論文にまとめられるようにする。	120
24	論文形式の確認	USBにデータを入れて提出し、指導教員のチェックを受ける。	120
25	研究調査内容の報告	これまでの研究調査内容をUSBに入れて提出し、指導教員のチェックを受ける。	120
26	研究調査内容の確認	これまで研究調査した内容をUSBに入れて提出し、指導教員のチェックを受ける。	120
27	研究調査内容の確認	これまで研究調査した内容をUSBに入れて提出する。指導教員がチェックし、質疑応答などをして不足している点や修正点などを話し合う。	120
28	論文完成へ向けて	論文として形が整っているか、確認する。不足している点などがなければ確認し、各自でさらに論文作成を進める。	120
29	論文概要の確認、発表準備	論文として形が整っているか、確認する。不足している点などがなければ確認し、各自でさらに論文作成を進める。最終発表準備も各自、進める。	120
30	論文完成の確認、発表予行練習	論文を印字したものを持参し、指導教員から最終確認を受ける。卒業研究発表会で使用する提示資料も、パソコン上で確認する。	120

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	小松 太志			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①「映像メディア」の特性を理解して、独自の表現手法の構築する。 ②コンピュータによる造形制作に習熟する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①卒業研究(映像メディア)は、静止画・動画・Webなどの広範な表現領域を含む。制作過程や入力・出力媒体、またはコンセプトの核としてコンピュータの特性を理解し、活用されているかどうかを映像メディア領域の特性とする。</p> <p>広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの視点から映像メディアに関わる研究指導を行う。 実務経歴: デザイナーとして広告制作会社(株式会社ミサイル・カンパニー)に勤務</p>			
達成目標	<p>①卒業制作展に向けた制作活動を通じて、独自の表現を探究する基盤ができている。 ②コンピュータ・グラフィックスによる造形表現技術の向上を目指すための基盤ができている。 ③工程を明確にして、計画的に制作を進めることができる。</p>			
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創成学科2年 対象 ・CG基礎1・2を履修済みであることが望ましい。 	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①卒業研究の制作過程(40%) ②卒業研究作品(50%) ③授業への姿勢・意欲(10%)	
教科書	適宜、配布または提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 ・当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 			
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ・Ⅳ時限、No.2生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究(映像メディア)の授業目標・授業計画について説明 - 過去の卒業研究作品とその制作過程を紹介 	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。
2	一次制作(もみじ会出品作品の制作)	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示(以後、適宜資料を提示) →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集(以後、適宜資料を収集) →造形的な方向性について検討を試みます。 	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。
3	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示(以後、適宜資料を提示) →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集(以後、適宜資料を収集) →造形的な方向性について検討を試みます。 	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。
4	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →造形:形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア:表現(静止画、動画、Web)に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態:展示方法について検討 	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。
5	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →造形:形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア:表現(静止画、動画、Web)に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態:展示方法について検討 	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を定めるための資料を収集する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	一次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を定めるための資料を収集する。
7	一次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を定めるための資料を収集する。
8	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。
9	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。
10	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
11	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
12	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
13	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
14	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力(データ化あるいはソフトウェアへの取り込み)します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
15	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力(データ化あるいはソフトウェアへの取り込み)します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
16	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。(静止画→編集・加工/動画→映像編集/Web→コーディング)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
17	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。(静止画→編集・加工/動画→映像編集/Web→コーディング)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
18	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
19	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
20	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
21	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
22	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
23	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
24	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
25	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
26	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
27	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
28	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
29	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
30	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
31	二次制作(卒業制作展出品作品の制作)	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
32	二次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
33	二次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
34	二次制作	●表現の方向性(造形、メディア、展示形態)について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
35	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。
36	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。
37	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
38	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
39	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
40	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
41	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力(データ化あるいはソフトウェアへの取り込み)します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
42	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力(データ化あるいはソフトウェアへの取り込み)します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
43	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。(静止画→編集・加工/動画→映像編集/ Web→コーディング)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
44	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。(静止画→編集・加工/動画→映像編集/ Web→コーディング)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
45	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
46	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
47	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
48	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
49	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。
50	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。
51	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
52	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。
53	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。
54	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。
55	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。
56	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。
57	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。
58	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。
59	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。
60	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】卒業研究発表に向けて、準備する。

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	松田 理香			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 主に絵本やブックバインディングに新しい価値や意味を見出し、自分のアイデアを形にして発表します。</p> <p>【授業の概要】 研究テーマを決め発表方法をいくつか考えます。そのための資料収集や材料の選定を行いながら試作を重ね、自分の作品のイメージを絞っていきます。展示会場の下見などしながら本制作し卒業制作展で発表します。</p>			
達成目標	伝えたいメッセージを明確にし、主体的に研究と制作へ取り組むことを目標とします。			
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	①自分のテーマへの探究心・情報収集の成果(20点) ②作品への制作姿勢(40点) ③作品の完成度(40点)	
教科書	ありません。 必要に応じて資料などを提示します。			
参考書	取り組むテーマに応じて参考となる書籍や図録、情報などを紹介します。			
学生への要望	専門的な視点を意識して主体的に研究・制作してください。参考資料や使用する道具・素材などについてはできるだけ多くの現物で検討し、制作のための準備に時間をかけることを希望します。			
オフィスタイム	月曜日 II～IVコマ 木曜日 IIコマ 金曜日 I・II・IVコマ 場所: No.1 生芸研究室(名称変更の場合あり)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	卒業研究について説明する。	卒業研究で取り組む作品テーマについて資料などに当たりながら考える。	30
2	討論会	デザインとは何か、デザインの役割と問題点について考える。デザインには人や暮らし、社会を豊かにするという目的が含まれていることを起点とし、デザインの領域について理解を深める。 その中でも、絵本やブックバインディング(装丁)を中心に、新しい価値やその存在意味について考える。	生活の中にあるデザインの役割などについて調べる。	30
3	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)と発表方法について考える。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
4	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)と発表方法について考える。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
5	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
6	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
7	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
8	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
9	研究テーマ①	自分が表現したい事柄をレポートにまとめる。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
10	研究テーマ①	自分が表現したい事柄をレポートにまとめる。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
11	研究テーマ②	レポートを見返し過不足があれば書き加える。キーワードを抜き書きし、研究テーマの輪郭を探る。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	研究テーマ②	レポートを見返し過不足があれば書き加える。キーワードを抜き書きし、研究テーマの輪郭を探る。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。
13	資料の収集①	自分の作品テーマが世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。
14	資料の収集①	自分の作品テーマが世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。
15	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品として展示する(視覚化)のために必要な材料や資料について検討する。授業時間外で収集した資料なども持ち込んでさらに確認・検討する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。
16	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品として展示する(視覚化)のために必要な材料や資料について検討する。授業時間外で収集した資料なども持ち込んでさらに確認・検討する。	自分のテーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。
17	ムードボードの制作①	収集した資料(画像・テキストなど)を整理する。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。
18	ムードボードの制作①	収集した資料(画像・テキストなど)を整理する。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。
19	ムードボードの制作②	色調のバランスを考えながらスケッチを行う。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。
20	ムードボードの制作②	色調のバランスを考えながらスケッチを行う。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。
21	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに各自のテーマを決定する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。
22	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに各自のテーマを決定する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。
23	表現技法の決定	テーマを表現するためにもっとも適している表現方法・技法について考える。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。
24	表現技法の決定	プリンターによる出力や手描き、または業者への発注などについて検討する。 手描きの場合は描画材料の他に、基底材についても検討する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。
25	ブレ制作①	材料実験を重ね、おおよその完成形をイメージして制作する。	作品のスケッチを重ねる。
26	ブレ制作①	材料実験を重ね、おおよその完成形をイメージして制作する。	作品のスケッチを重ねる。
27	ブレ制作②	計画を進める段階で考えられる問題点を予測する。	作品のスケッチを重ねる。
28	ブレ制作②	材料的・技法的な問題がないか、追加や交換が必要な資料・機器などについて確認し、展示に向けた問題点を細かく洗い出し予測する。	作品のスケッチを重ねる。
29	制作計画書の作成	時間配分などを見直し本制作の全体計画書を作成する。機器の不具合や材料の不足、アクシデントによる修正など、有事に備えて二週間程度の予備日を確保するよう計画する。	制作に係る時間を検討し、完成させるまでの計画を練る。
30	材料の手配	作品の完成形のイメージを固め、必要な材料・道具などを検討する。	制作に係る時間を検討し、完成させるまでの計画を練る。必要な材料などを揃え制作に備える。
31	本制作①(本文)	作品制作で使用する道具・材料をいくつか選び、それぞれをそのように使用するかを検討する。	道具の使用方法を確認し、材料を使用して表現方法の試作を行う。
32	本制作①(本文)	作品制作で使用する道具・材料をいくつか選び、それぞれをそのように使用するかを検討する。	道具の使用方法を確認し、材料を使用して表現方法の試作を行う。
33	本制作②(本文)	表現方法に合わせて下絵・下図を描く。	使用する画材などの試作を行う。パソコンなどで制作する場合は作業時間の確認や出力した際の色調などの確認作業を行う。
34	本制作②(本文)	表現方法に合わせて下絵・下図を描く。	使用する画材などの試作を行う。パソコンなどで制作する場合は作業時間の確認や出力した際の色調などの確認作業を行う。
35	本制作③(本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
36	本制作③(本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。 60
37	本制作④(本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。 60
38	本制作④(本文・表紙)	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。 60
39	本制作⑤(本文)	作品に客観性をもたせるため、他分野の教員や学生に作品を見てもらい、率直な感想や意見を聞きながら作業を進める。	制作を続ける。 60
40	本制作⑤(本文)	作品のサイズなど基本的な間違いがないかを確認しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
41	本制作⑥(本文)	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は全体の書き込みのバランスを見ながら作業を進める。	制作を続ける。 60
42	本制作⑥(本文)	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は全体の書き込みのバランスを見ながら作業を進める。	制作を続ける。 60
43	本制作⑦(本文・表紙)	色彩計画は下図の段階でおおよそ決めてあるが、実寸においては再考し、色調整を検討しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
44	本制作⑦(本文・表紙)	色彩計画は下図の段階でおおよそ決めてあるが、実寸においては再考し、色調整を検討しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
45	本制作⑧(本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
46	本制作⑧(本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
47	本制作⑨(本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
48	本制作⑨(本文・表紙)	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。 60
49	本制作⑩(本文)	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行って制作する。画材などを使用して作品制作を行う場合は、基調色や背景など全体の色彩のバランスを見ながら作業を行って制作する。	制作を続ける。 60
50	本制作⑩(本文)	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行って制作する。画材などを使用して作品制作を行う場合は、基調色や背景など全体の色彩のバランスを見ながら作業を行って制作する。	制作を続ける。 60
51	本制作⑪(本文・表紙)	制作に専念する。色彩調整や表現材料に気を配りながら作業を行う。	制作を続ける。 60
52	本制作⑪(本文・表紙)	制作に専念する。色彩調整や表現材料に気を配りながら作業を行う。	制作を続ける。 60
53	途中経過の発表	制作中の作品について授業選択者全員で鑑賞し、意見や感想を述べ合う。	制作を続ける。 60
54	途中経過の発表	経過発表で確認した点について修正・見直しなどを行い完成度を高めていく。	制作を続ける。 60
55	修正と仕上げ①	テーマに合う展示方法、考えられる問題点などを確認し完成度を高めていく。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。 60
56	修正と仕上げ①	会場に作品を持ち込み効果的な展示方法を検討する。必要に応じて微調整を加える。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。 60
57	修正と仕上げ②	会場に作品を持ち込み効果的な展示方法を検討する。必要に応じて微調整を加える。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。 60
58	修正と仕上げ②	展示会はまとまった一つの空間構成として捉える必要があるため会場全体の調和を図る展示となっているかを検討する。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
59	作品の講評・まとめ	<p>作品が生み出されるまでの全工程を振り返る。 卒業制作展開催中は作品をさまざまな視点で鑑賞し、自分の作品についてメッセージ性が失われていないかなどを検証する。</p>	<p>ブックデザインの観点から、伝えたいメッセージが表現されているかを検証する。</p> <p align="right">60</p>
60	作品の講評・まとめ	<p>作品が生み出されるまでの全工程を振り返る。 卒業制作展開催中は作品をさまざまな視点で鑑賞し、自分の作品についてメッセージ性が失われていないかなどを検証する。</p>	<p>ブックデザインの観点から、伝えたいメッセージが表現されているかを検証する。</p> <p align="right">60</p>

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	山口 猛			
開講期	通年			
授業概要	情報処理、情報メディア、ICT(Information and Communication Technology)、情報モラル、コミュニケーションなど、情報処理士ユニットの学修に関連する研究テーマに基づき、グループ研究を行う。現在のグループ研究のメインテーマはマインドマップによる学修支援である。グループ内においては、個々の興味関心に応じて役割分担を行い、協業で研究活動を進める。			
達成目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。			
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	研究意欲20%、論文50%、研究発表30%	
教科書	なし			
参考書	適宜、資料等を用いて指導を行う			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	月曜日2・4限、芸術館2階 No.2生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス	卒業研究の概要を説明する。また、学生が関心のある研究テーマについて議論し、大まかな研究対象のイメージをつける。	60
2	研究スケジュール・役割分担の検討	グループ研究のメインテーマにおける学生個々の役割分担を検討する。	60
3	論文執筆の方法の理解(1)	論文執筆の基本ルールを解説する。	60
4	論文執筆の方法の理解(2)	論文執筆の基本ルールを解説する。	60
5	研究活動(1)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
6	研究活動(2)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
7	研究活動(3)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
8	研究活動(4)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
9	研究活動(5)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
10	研究活動(6)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
11	研究活動(7)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
12	研究活動(8)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
13	研究活動(9)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
14	研究活動(10)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
15	中間報告	研究活動(10)までの研究進捗をまとめ、中間報告を行う。	60
16	研究活動(11)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
17	研究活動(12)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
18	研究活動(13)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
19	研究活動(14)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
20	研究活動(15)	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	60
21	論文作成(1)	研究活動(15)までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	60
22	論文作成(2)	研究活動(15)までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	60
23	論文作成(3)	研究活動(15)までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	60
24	論文作成(4)	研究活動(15)までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	60
25	論文作成(5)	研究活動(15)までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	60
26	論文発表プレゼンテーション準備(1)	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	60
27	論文発表プレゼンテーション準備(2)	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	60
28	論文発表プレゼンテーション準備(3)	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	60
29	論文発表練習	発表練習を行う。	60
30	卒業研究発表	卒業研究発表会において、発表を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材(粘土、木、石、鉄など)を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものとの人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の基礎的な知識や表現の理解を深めることを目標とします。			
達成目標	卒業制作展に向けて作品を制作し、発表を行います。 作品制作の中で、彫刻の基礎的な技能の習得と自己表現、自己探求を深める事を目標とします。			
受講資格	地域創成学科2年	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 課題作品 70% 授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
教科書	教科書は無し。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の彫刻関係図書 美術館(福島県立、郡山市立、他) 街の中の彫刻(仙台市、福島市、他) 公募展覧会 			
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。			
オフィスタイム	月曜日Ⅰ～Ⅲコマ(8:50～14:30) 彫刻室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の進め方、設備、道具についてなど説明する。 各自、目標や技法について考える。 	0
2	構想	<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作作品を構想する。 資料、作品などを参考にしながら、自分が目指す表現について確認する。 デッサンする。 	120
3	構想	<ul style="list-style-type: none"> 第2回の内容をより深める。 	0
4	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
5	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
6	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
7	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
8	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
9	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
10	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
11	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
12	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
13	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
14	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
15	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
16	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
17	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
18	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
19	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
20	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
21	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
22	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
23	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
24	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
25	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
26	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
27	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
28	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
29	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
30	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
31	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
32	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120
33	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	0
34	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進行状況に応じて、制作を進める。 	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
35	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
36	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
37	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
38	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
39	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
40	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
41	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
42	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
43	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
44	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
45	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
46	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
47	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
48	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
49	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
50	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
51	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
52	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
53	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
54	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
55	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
56	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
57	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
58	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
59	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
60	合評会	・作品についてプレゼンテーションを行い1年間の成果を 確認する	・自主的に制作を進める	120

科目名	卒業研究(論文もしくは制作)	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究は各自の2年間の学びの総まとめです。独自の課題を見つけ、教員の丁寧な指導を受けて資料の収集調査を進め、論理的な考察を経て、創造的な論文や作品に仕上げます。その成果は卒業研究発表会(報告会、展示会)で、多くの人を知ってもらいます。 歴史・文化系、アート&デザイン系、情報系のいずれかの専門分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、教員の指導で専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけます。		
達成目標	(1) 自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究、または卒業研究作品としての制作活動を通し、論理的かつ創造的にものごとを考える事ができる能力を修得する。 (2) 専門分野の探究において、各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。 (3) 専門的な知識の探究及び制作活動を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。		
受講資格	地域創成学科2年生	成績評価 方法	各自の指導教員が最終的に評価をする。 【論文系の評価】 ① 研究に取り組む姿勢(計画性・主体性・継続性・創造性など)がどの程度であったか(40点) ② 卒業論文の内容が論理的で創造的であったか(40点) ③ 卒業研究発表会、成果のプレゼンテーション力(20点)
教科書	なし		
参考書	研究テーマ・課題に即した文献を個別に指示する。		
学生への要望	各人の研究テーマ・課題を自覚し、自主的に探究すること。		
オフィスタイム	火曜日・水曜日 I 時間目。創学館4階、No.4研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	研究論文の書き方(1)	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。	60
2	研究論文の書き方(2)	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。	60
3	研究テーマの決め方(1)	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する	60
4	研究テーマの決め方(2)	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する	60
5	研究テーマの決め方(3)	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する	60
6	研究論文題目の決め方(1)	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。	60
7	研究論文題目の決め方(2)	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。	60
8	仮題目の発表(1)	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	60
9	仮題目の発表(2)	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	60
10	調査研究の方法(1)	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。図書館の活用法についても論議する。	60
11	調査研究の方法(2)	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。図書館の活用法についても論議する。	60
12	研究計画の作成(1)	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	研究計画の作成(2)	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。	60
14	研究構想発表会(1)	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	60
15	研究構想発表会(2)	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	60
16	卒業論文の題目確定	研究構想発表会での質疑応答を踏まえ、研究課題・構想の妥当性、研究課題説明の方策などを検討し、研究論文の題目を確定する。	60
17	卒業論文の章立て(1)	資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。	60
18	卒業論文の章立て(2)	資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。	60
19	卒業論文の提出計画	研究上の問題点を解決し、論文執筆と論文提出に向けて、具体的な論文提出工程計画表を作成する。	60
20	卒業論文の執筆(1)	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	60
21	卒業論文の執筆(2)	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	60
22	卒業論文の執筆(3)	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	60
23	卒業論文の執筆(4)	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	60
24	卒業論文の執筆(5)	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	60
25	卒業論文の執筆(6)	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	60
26	卒業論文の加筆(1)	研究論文の過不足を点検、補正し、研究論文の提出に備える。	60
27	卒業論文の加筆(2)	研究論文の過不足を点検、補正し、研究論文の提出に備える。	60
28	卒業論文の点検	直前の研究論文提出に備え、研究論文を最終的に点検する。	60
29	卒業論文発表会(1)	日本史所属の学生による発表会の予行演習	60
30	卒業論文発表会(2)	日本史所属の学生による発表会の予行演習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	生活と宗教（11）－生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
13	生活と宗教（12）－生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。「人間らしく生きるためにはどうしたらいいか」「人間の本質とは何か」などの問題について、教科書を参考にしつつ考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
14	生活と宗教（13）－まとめ	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
15	最終回－まとめ其②	授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛, 米本 順子		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行う。 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル、noa出版（2016）		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日2・4限、芸術館2階 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	45
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	30
4	課題1	インターネット（ブラウザ・メールなど）の用法について、正しく利用できるか確認をする。また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみる。
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.140までを読んでおくこと。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP2 確認テスト5、確認テスト6を実施すること。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP3 確認テスト1、確認テスト2を実施すること。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。

科目名	総合英語コミュニケーション	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ		
開講期	I		
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>		
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Active, Enthusiasm (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O'Sullivan		
参考書	Oxford University Press 2006		
学生への要望	<p>Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Study 120 minutes of homework each class. Review all material including textbook and quiz material.</p>		
オフィスタイム	<p>Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00 時間：火・木の 13:00~17:00 時限 場所：83年館 3F 837研究室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	Introduction to Class	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 Teachers CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz. Active English Explained. External Supplement Explained. Homework, Attendance, etc.	Review the textbook. Read through pages 2-4. Listen to tracks 3 & 4. 120
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7, Teachers CD 7-10. We will repeat this Active Learning activity in each class. First, I will read the English picture book with the students. Next, students every class will read the book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 5-7. Listen to track 4. 120
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7, Teachers CD 5-6. Quiz. Active English. External Supplements. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 2-7. Listen to tracks 3 & 4. Review supplements. 120
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What's your e-mail address? Pages 8-10, Teachers CD 11-15. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 8-10. Listen to audio track 5. Review Supplements. Review returned quiz. 120
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13, Teachers CD 16-19. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 11-13. Listen to audio tracks 5 & 6. Review Supplements. Review returned quiz. 120
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. Active English. External Supplements. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 8-13. Listen to audio tracks 5 & 6. Review Supplements. Review returned quiz. 120
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16, Teachers CD 20-23. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 14-16. Listen to audio track 7. Review Supplements. Review returned quiz. 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19, Teachers CD 24-27, Quiz, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 17-19. Listen to audio track 8. Review Supplements. Review returned quiz.	120
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19, Teachers CD 20-27, Quiz, Active English, External Supplements, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 14-19. Listen to audio tracks 7 & 8. Review Supplements. Review returned quiz.	120
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22, Teachers CD 28-31, Quiz, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 20-22. Listen to audio track 9. Review Supplements. Review returned quiz.	120
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It' s just what I need! Pages 23-25, Teachers CD 32-35, Quiz, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 23-25. Listen to audio track 10. Review Supplements. Review returned quiz.	120
12	Unit 4	Unit 4---Shopping---Review Pages 20-25, Teachers CD 28-35, Quiz, Active English, External Supplements, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 20-25. Listen to audio tracks 9 & 10. Review Supplements. Review returned quiz.	120
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When' s your birthday? Pages 26-28, Teachers CD 36-39, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 26-28. Listen to audio track 11. Review Supplements. Review returned quiz.	120
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31, Teachers CD 40-43, English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 29-31. Listen to audio tracks 11 & 12. Review Supplements. Review returned quiz.	120
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review, English Picture Book Presentation. Students read books in front of class, students will form unrehearsed groups as I choose to demontstrate their reading and leadership skills.	Review the textbook. Read through pages indicated to study for the final test. Listen to all audio tracks indicated during test preparation.	180

科目名	キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡, 黒沼 令			
開講期	Ⅰ			
授業概要	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、まず大学生として学ぶ姿勢の基本を身につけることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)という社会で活躍するための基礎力を確認し、主体的に大学生活を送ることで各自のライフキャリアを構築できるようにします。			
達成目標	自分の夢を実現するための具体的な目標をキャリアプランニングの意識を持って自主的にレポートにまとめることができる。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	授業時のワークへの取り組み状況(使用教材集提出)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集『キャリアデザイン—大学の教養・キャリア教育のスタートをバックアップ!』配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。 ・就職部の実施する就職ガイダンス・各種模擬試験・インターンシップなどの活動に積極的に参加しましょう。 			
オフィスタイム	全体のコーディネーターは桑野が担当する。 火曜Ⅱ時限目(10:30~12:00)・金曜Ⅴ時限目(16:10~17:40) 考古学研究室(83年館1階)。 その他、各担当教員の指示に従ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション—キャリアデザインの意義と目的 4月9日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考えます。	自己評価票を真摯に記入し、現時点での自分をよく観察してみましょう。	60
2	郡山女子大学を知ろう—建学の精神と学園の歴史 4月16日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説します。	『開成』を読み返し、図書館で『学園史』を手にとったり、集会などで学科のアドバイザーの先生と建学の精神について話し合ってみてください。	60
3	「つくる力」を育てる(1)—情報を読む力・まとめる力 4月23日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングします。	講義を聞く姿勢、ノートの取り方の基本は同じでも、詳細は科目によって異なります。自分でも工夫を心掛けてみましょう。	60
4	「つくる力」を育てる(2)—書く力・伝える力の育成 5月7日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認します。	新聞や参考文献、友人や家族と話し合ってみて、レポートの構成を良く考えましょう。	120
5	「つくる力」を育てる(3)—社会でのパソコン活用マナー 5月14日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学びます。	パソコンを用いてレポートを書いた後、提出前に必ず読み直しをして「推敲」しましょう。	120
6	「かかわる力」を育てる(1)—多様なライフコース 5月21日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考えます。	現時点の自分の考えを確認すると共に、家族や友人と意見交換をして、異なる意見に沢山出会ってください。	60
7	「かかわる力」を育てる(2)—男女の働き方、ワークライフバランスを考える 5月28日	前回の授業を受けて、長いキャリアの中でパートナーや家族と共に生活する上での諸問題を考えます。	男女に拘らず、複数で共同生活することは、私たちの社会生活の基本であることを自覚して、創造力を発揮して話し合しましょう。	60
8	「かかわる力」を育てる(3)—お金から考えるライフプランニング 6月4日	長いキャリアを生きる中で、私たちは多くのライフイベントを経験し、生活共同体の中での役割を変化させていきます。その時々状況を金銭の面から考えます。	講義の後、自分自身や家族の貯金・保険・年金などについて実際に具体的な話をしてみましょう。	60
9	「かかわる力」を育てる(4)—働くためのルール 6月11日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考えます。	講義の後、自分自身のアルバイト経験や家族の働き方について話をしてみましょう。	60
10	「かかわる力」を育てる(5)—アサーショントレーニング① 6月18日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学びます。	アサーションは、自分自身が考え納得して行動することが大切です。表面的なテクニックだけでなく、よく自分の内面と向かい合ってみてください。	60
11	「かかわる力」を育てる(6)—アサーショントレーニング② 6月25日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学びます。	アサーションは、自分自身を守るだけでなく、相手のことを考えることに繋がります。周りの人とよく話し合ってみましょう。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	「かかわる力」を育てる(7) ー働くこと、生きることを考える 7月2日	働き続けることを「ライフキャリアの虹」を用いて解説し、職業レディネステストを実施して分析します。	職業レディネステストのワークをよく見直し、職業適性検査やさまざまな情報と比較検討してみましょう。	60
13	総合演習(1) ー女性と就業について① 講演 7月9日	素敵な生き方を実践している外部講師による講演を実施します。	講演を傾聴し、講演後はSNSや新聞などで講演者や時代、事件などについて調べてみましょう。もっと多くのモノが見えてきます。	60
14	総合演習(2) ー女性と就業について② グループ討論 7月16日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成します。	半期の授業も終盤です。自分の学びの総まとめとして積極的に討論に参加できるように準備しましょう。	120
15	まとめ ー自分のキャリアを創ろう! 7月23日	自己評価票の記入・授業アンケートを実施し、「マンダラチャート」を作成して各自のキャリアプランの作成を試みます。	初回の自己評価票とじっくり比較すると共に、「マンダラチャート」で次の具体的な一歩を明確にしましょう。	60

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業の自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者をお招きした報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっています。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会10%・提出物10%「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょうか。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認。	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどういきるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。 就業体験先の打合せをする。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
7	インターンシップ(就業体験) 1班 8/19～8/23 ・ 2班 8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行う。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。	0

科目名	地域創成ゼミナール		
担当教員	桑野 聡、齋藤 美保子、福島 寅太郎、浅野 章、齊藤 弘久、會田 容弘、知野 愛、小松 太志、松田 理香、山口 猛、仲田 佐和子、黒沼 令、佐藤 愛未、和知 剛	対象 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
開講期	通年		
授業概要	本学科の目指す、地域活動に貢献できる人材の育成を進めていく上で重要な基礎力を育むことを目的とする。具体的には、「地域」を考えるための手掛かりとして身近な生活圏の歴史や文化を学び、「地域」が人々の生活の連鎖の中で作り上げられてくる歴史的・社会的共同体であることを確認し、地域共同体形成への基本姿勢を準備する。まず福島県と郡山市を具体例に地域の抱える問題や活動を学び、次にもみじ会を題材に具体的なプロジェクトの立ち上げと実施を学ぶ。これを踏まえて後期では、近代市民社会としての現代において、私たちが「地域」とどのように関わり、そして育てていくのかを、2年生の地域創成プロジェクト演習の具体例から学び、次年度に学生各自が取り組む具体的な地域活動への所属を決定する。		
達成目標	前期の事例で学んだ地域形成のさまざまな切り口を例に、学生各自がそれぞれの地域共同体とどのように関わっていくことが出来るかを主体的に考え、後期に次年度から実際に参加する具体的な地域活動について所属を決める際、積極的に取り組む姿勢を持つことを目的とする。		
受講資格	地域創成学科1年必修	成績評価 方法	各回授業の自己評価ペーパーとワーク（うねめ踊り参加を含む）の総合評価（100点）
教科書	特に使用しません。		
参考書	必要に応じて随時授業の際に提示します。		
学生への要望	2年次の地域創成プロジェクト演習に連動する地域創成学科の必修科目です。学びを行動に繋ぐ主体性・積極性を期待します。		
オフィスタイム	コーディネータは桑野が担当する。 火曜Ⅱ時限目（10:30～12:00）・金曜Ⅴ（16:10～17:40） 考古学研究室（83年館1階）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス（齋藤美・桑野）4月10日	「地域」とは何か、を問いかけ、授業の目的と進め方を解説することで、次回からの学習の導入を行う。	『入学手続き・準備について』10～11頁に記載されている「身近な地域」に対する関心を準備する課題を振り返り、授業開始に備える。
2	地域を学ぶ①（桑野）4月17日	地域を学ぶモデルケースとして「福島」を扱うため、震災後の福島県の抱える問題の基本を確認する。	東日本大震災・福島原発事故以降の福島の問題を新聞や提示された参考文献を活用して考える。
3	地域を学ぶ②（佐藤愛）4月24日	福島県の歴史を概観して地域の多様性を確認すると共に、地域活動の発想を学ぶ。	福島県や郡山の歴史を自分の出身地の歴史・文化と結びつけながら整理する。『ふくしま手帳』を活用。
4	地域を学ぶ③（會田）5月8日	福島県の歴史・文化を使った地域活動について事例紹介を通じて考える。	身近な博物館等施設を訪ね、講義で紹介された多様な活動の実例を確認するように努める。
5	地域を学ぶ④（浅野）5月15日	福島県の美術活動について学び、アートを活かした地域活動の発想を得る。	県立・市立美術館をはじめとするアート系施設を訪問すると共に、さまざまなアート情報を確認し活用する。
6	地域を学ぶ⑤（桑野・他）5月22日	福島県の食文化について学び、食を活かした地域活動の発想を得る。	郷土料理に関心を持つと共に、食材や新しい食の話題に関心を持って自ら食べてみる体験を増やす。
7	地域を学ぶ⑥（福島）5月29日	福島県の伝統文化・宗教について学び、地域活動の発想を得る。	祭に代表される地域の伝統文化・行事に関心を持ち、参加する姿勢を育む。郡山市のうねめ踊り流しに参加する。
8	地域を学ぶ⑦（知野）6月5日	福島県の女性の歴史を踏まえて、生活や家族と社会の関係に着目して地域活動の発想を得る。	同世代だけでなく、様々な世代の女性の生き方に関心を持ち、家族や地域の方々と話す機会を設ける。
9	地域活動を学ぶ① 6月12日	実際の地域活動の実例を学ぶ。【実施予定①】郡山市国際政策課「シティプロモーション事業について」	講義内容を「広報おおりやま」や新聞、ホームページなどで確認する。
10	地域活動を学ぶ② 6月19日	実際の地域活動の実例を学ぶ。【実施予定②】地元企業の取り組みを紹介	講義内容を新聞、ホームページ、SNSなどで確認する。
11	地域活動を学ぶ③ 6月26日	実際の地域活動の実例を学ぶ。【実施予定③】文化活動と経済活動の連携を紹介	講義内容を新聞、ホームページ、SNSなどで確認する。
12	地域活動を学ぶ④ 7月3日	2年生の地域創成プロジェクト演習の中間報告を聞く（集会時、1・2年生合同実施予定）。	後期の所属アンケートに繋がる情報として、質問や情報の確認を行う。
13	地域活動を考える① 7月10日	グループに分かれて「もみじ会実施案」を考えるための全体説明会を実施する。	高校や他大学の文化祭や学園祭とは異なり、地域を学ぶ学生としてイベントを企画することを考える。
14	地域活動を考える② 7月17日	グループ別に①アイデア・発想法を学び、②企画書をまとめる作業を行う。	積極的に意見を述べ、情報収集などに努める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	地域活動を考える③ 7月24日	グループ別に制作した「もみじ会案」を発表することで③プレゼンテーションを学び、実施案を決定する。	120
16	地域活動を考える④ 9月11日	採用案に基づいて④スケジュール管理を学びながら、もみじ会開催（10月12・13日）に備える。	120
17	地域活動を考える⑤ 9月18日	前回の活動を継続する。	120
18	地域活動を考える⑥ 9月25日	もみじ会準備期間前に1・2年生合同で実施計画案を確認する報告会を開催する（集会時実施予定）	120
19	地域活動を考える⑦ 10月2日	グループ毎に活動。	120
20	後期ガイダンス 10月23日	「もみじ会」を題材としたプロジェクト実施体験の反省を行い、後期の授業の行い方を解説する。	60
21	モデル演習① 10月30日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	60
22	モデル演習② 11月6日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	60
23	モデル演習③ 11月13日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	60
24	モデル演習④ 11月20日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	60
25	モデル演習⑤ 11月27日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	60
26	モデル演習⑥ 12月4日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。	60
27	モデル演習⑦ 12月11日	モデル演習のまとめとして、次年度実施予定のプロジェクトの参加学生をアンケートで決定する。	60
28	プレ演習① 12月18日	配属毎に次年度の活動のための準備に入る。	60
29	プレ演習② 1月8日	前回の活動を継続する。	60
30	まとめ 1月15日	本年度の活動を総括し、次年度の「地域創成プロジェクト演習」への準備を整える。	60

科目名	地域創成プロジェクト演習		
担当教員	齋藤 美保子, 福島 寅太郎, 浅野 章, 齊藤 弘久, 桑野 聡, 會田 容弘, 知野 愛, 小松 太志, 松田 理香, 山口 猛, 仲田 佐和子, 黒沼 令, 佐藤 愛未	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 必修
開講期	通年		
授業概要	1年次の「地域創成ゼミナール」を踏まえて具体的な地域活動に関わることで、実地活動の難しさと共に楽しさを学ぶ。今年度は八つのグループに分かれて実施する。1. フロンズ像の鑑賞と整備 2. 歴史遺産を活用した地域創成プロジェクト 3. 地域貢献としての壁画制作 4. 海老根伝統手漉和紙の保存・普及 5. 地域のパン屋を対象とした新聞記者活動 6. 女性の人生を考えるプロジェクト 7. 郡山の魅力発信プロジェクト 8. 新聞が語る祭りとおこしうねめ祭りの新聞記事の調査とデータベース化		
達成目標	教員の支援を得ながら、地域に役立つプロジェクトを積極的に実施できるようになる。 地域との一度のみの関係ではなく、継続的な関係を構築できるようになる。		
受講資格	一年時の「地域創成ゼミナール」の単位を取得した地域創成学科の学生	成績評価 方法	グループワーク (50点) 中間発表・もみじ会発表・最終報告 (50点)
教科書	グループごとに指示する。		
参考書	グループごとに指示する。		
学生への要望	協調性を持ちつつ、積極的に行動すること。		
オフィスタイム	グループごとに設定する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	90
1	オリエンテーション	8プロジェクトの確認とグループ分け	自分のグループのプロジェクトの進め方を理解する。
2	各プロジェクトの活動1	グループごとの活動1	活動の振り返りと次の準備
3	各プロジェクトの活動2	グループごとの活動2	活動の振り返りと次の準備
4	各プロジェクトの活動3	グループごとの活動3	活動の振り返りと次の準備
5	各プロジェクトの活動4	グループごとの活動4	活動の振り返りと次の準備
6	各プロジェクトの活動5	グループごとの活動5	活動の振り返りと次の準備
7	各プロジェクトの活動6	グループごとの活動6	活動の振り返りと次の準備
8	各プロジェクトの活動7	グループごとの活動7	活動の振り返りと次の準備
9	各プロジェクトの活動8	グループごとの活動8	活動の振り返りと次の準備
10	各プロジェクトの活動9	グループごとの活動9	活動の振り返りと次の準備
11	各プロジェクトの活動10	グループごとの活動10	活動の振り返りと次の準備
12	各プロジェクトの活動11	グループごとの活動11	活動の振り返りと次の準備
13	各プロジェクトの活動12	グループごとの活動12	活動の振り返りと次の準備
14	中間発表	グループごとにパワーポイントを用いた発表 (前半)	パワーポイント読み上げ原稿の作成
15	中間発表 つづき	グループごとにパワーポイントを用いた発表 (後半)	パワーポイント読み上げ原稿の作成
16	もみじ会準備	グループごとに展示または報告会を準備する	パネル等の作成と準備
17	もみじ会準備 つづき	グループごとに展示または報告会の準備を完成させる	パネル等の作成と準備
18	もみじ会反省	8グループによるもみじ会の反省	もみじ会を振り返りまとめる
19	各プロジェクトの活動13	グループごとの活動13	活動の振り返りと次の準備
20	各プロジェクトの活動14	グループごとの活動14	活動の振り返りと次の準備
21	各プロジェクトの活動15	グループごとの活動15	活動の振り返りと次の準備
22	各プロジェクトの活動16	グループごとの活動16	活動の振り返りと次の準備
23	各プロジェクトの活動17	グループごとの活動17	活動の振り返りと次の準備
24	各プロジェクトの活動18	グループごとの活動18	活動の振り返りと次の準備
25	各プロジェクトの活動19	グループごとの活動19	活動の振り返りと次の準備
26	各プロジェクトの活動20	グループごとの活動20	活動の振り返りと次の準備
27	各プロジェクトの活動21	グループごとの活動21	活動の振り返りと次の準備
28	各プロジェクトの活動22	グループごとの活動22	活動の振り返りと次の準備
29	報告発表会	1年間の活動の報告 (前半)	1年間の活動を振り返りまとめる
30	報告発表会 つづき	1年間の活動の報告 (後半)	1年間の活動を振り返りまとめる

科目名	生涯学習概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	I		
授業概要	前半においては、人類史の観点から「生涯学習」誕生の背景と誕生後の展開について、基本的な内容の理解をしていきます。後半は、その理解を踏まえて、多角的な視点から「生涯学習」を分析し、今日における「生涯学習」の原理的課題について考察していきます。授業全体を通して、主体的で対話的な深い学びの実践を目指し、アクティブラーニングの手法を随所で用います。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類史の観点から「生涯学習」誕生の必然性を論理的に類推できる。 2. 政治史の中の「生涯教育」政策を、民主主義の理念との関係で説明できる。 3. 国際連合における「生涯教育」提唱の意義を理解する。 4. 日本における「生涯教育」から「生涯学習」への移行の趣旨を理解する。 5. 文化政策・文化行政の必要性とリスクについて、文化の継承と歴史的観点から意見が述べられる。 6. 確かな知識を根拠にしながら、主体的で対話的な学びを通じて、自らの見解を深化させることができる。 		
受講資格	科目を選択履修した者	成績評価 方法	各授業ごとに実施される、又は自宅学習の課題として出される小テストやレポート（50%）、最終回のまとめ授業で実施される理解度確認テスト（50%）
教科書	授業において資料を配布するので、授業ごとに作成した自筆ノートと一緒にファイリングすること。最終回の授業のまとめと、理解度確認テストで使用します。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・山本順一、前平泰志、渡邊洋子監修『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房、2014年 ・浅井経子編著『生涯学習概論－生涯学習社会への道－増補改訂版』理想社 		
学生への要望	なぜ、「生涯学習」が必要とされているのか。この問いに関連して、人類は、どのような歴史をたどり、未来に向けて何が課題となっているのか。確かな知識を獲得しながら、それを基盤に周囲の仲間と対話を深めながら、自己の思考を展開していく主体的な姿勢を持って授業に臨んでください。また、授業で扱った言葉や歴史的事実、地名等、不明なことがあれば、必ず信頼できる情報源から調べて、ノートに書き加えるようにしてください。		
オフィスタイム	月曜Ⅱ限（10：30～12：00） 月曜Ⅲ限（12：00～12：50） 教職課程推進室（家政学館4階 奥左） その他の時間でもメール等で時間の相談にのります。（y.yamamoto@koryama-kgc.ac.jp）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	オリエンテーション 二つの教育モデルと教育概念図	前半は、授業を受けるにあたっての一般的な注意事項や授業計画・評価方法等について説明する。後半は、「学び」に関する典型的モデルを提示した上で、受講者の「学び」に関する認識を確認する。受講者は周囲の者と話し合いを行い、自らが支持する学びおモデルを決定（アクティブラーニング）し、次の授業までにレポートにまとめる。	ノート整理 レポート
2	二つの「資格」と「教育」の諸概念	前時の教育モデルに関する受講生の認識を基盤にしながら、専門職資格である学芸員補と司書資格について考える。教育史における「専門性」概念について、理解を深める。	ノート整理 レポート
3	人類の進歩と学びの変容	人類史における生産と学習の関係を思考の出発点として、歴史の中での学びの変容と必要について理解を深めていく。受講生は周囲の仲間と話し合いながら、学びお変容とマズローの欲求階層論との関係について、	ノート整理 レポート
4	「生涯教育論」の登場	「生涯教育論」登場前史としてのフランス革命期コンドルセ教育案に注目し、その後の歴史的経緯を確認した上で、ポール・ラングランが提唱した「生涯教育」の意義を理解する。	ノート整理 レポート
5	「生涯教育論」の展開	ラングラン以降の「生涯教育論」が、複数の系統に分かれる展開を示していることを理解する。	ノート整理 レポート
6	日本における生涯教育論前史	戦前の学校教育とその補完機能としての期待を担った社会教育の誕生経緯を理解する。特に、教育勅語に注目する中で、国家目的の達成に寄与した教育モデルの特徴に関する考察を深める。	ノート整理 レポート
7	民主主義の導入と教育観の転換	敗戦による民主主義の導入と教育観の転換について、戦前の教育勅語体制と戦後の教育基本法体制の比較から理解を深めていく。また、戦後の社会教育を公民館、図書館、博物館の三つの観点から分析する。	ノート整理 レポート
8	日本における「生涯教育」誕生の経緯と「生涯学習」概念への変容	社会教育の発展としての「生涯教育」と、さらなる社会の変化による「生涯学習」への変容の意義を理解する。受講生は、「戦前の社会教育」、「戦後直後の社会教育」、「社会教育の変容としての生涯教育」、	ノート整理 レポート
9	文化政策と生涯学習 1	映画「笑いの大学」に視る検閲による文化統制と戦後の文化芸術基本法による文化芸術基本法を比較し、その類似点と相違点を整理することで、権力と文化の関係について考察を深める。	ノート整理 レポート

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	文化政策と生涯学習2	映画「笑いの大学」に視る検閲による文化統制と戦後の文化芸術基本法による文化芸術基本法を比較し、その類似点と相違点を整理することで、権力と文化の関係について考察を深める。	ノート整理 レポート 90
11	女性問題と生涯学習 1	女性問題の歴史を学び、その上で、日本の現状における女性問題を教育との関係で考察する。	ノート整理 レポート 90
12	女性問題と生涯学習 2	「ハインツのジレンマ」と「フェミニズム運動」を学ぶことを通して、女性問題に対する異なる二つの戦略を理解する。受講生は「ハインツのジレンマ」についての自己の見解を主張するとともに、他者の意見を聴	ノート整理 レポート 90
13	知識基盤社会と生涯学習 1	各方面から強調されるようになった「知識基盤社会」とは何か。提唱されるにいたった経緯と意味の多様性について理解する。	ノート整理 レポート 90
14	知識基盤社会と生涯学習2	知識を創る学習を奨励する意味での「知識基盤社会」の持つ可能性と課題とを明らかにする。	ノート整理 レポート 90
15	授業のまとめ	授業のまとめを行う。	まとめテスト レポート 90

科目名	家族社会学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	I		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。		
達成目標	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	①課題レポート50点、②筆記試験40点、③ノート提出10点
教科書	プリントを配布します。		
参考書	その都度紹介します。		
学生への要望	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラバスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
オフィスタイム	木曜Ⅳ限、金曜Ⅴ限、芸術館1階地域創成資料室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	2
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。	2
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。明治民法と比較して考える。	2
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」レポート課題提出を確認し代表者が発表する。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。	2
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。	2
5	少子社会の現状	課題レポート②「少子社会とは何か」を提出確認し代表者が発表する。日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。	2
6	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。	2
7	少子化と子育て支援	課題レポート③「郡山市の子育て支援」の提出確認をし代表者が発表する。少子化における子育て支援の具体的な事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。	2
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。	2
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。	2
10	家族が抱える諸問題(2)	各自が作成した課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」のレポートについて、全員が発表し全体で質疑応答する。	2

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	中間振り返り・ポイント確認	前回の討議の結果生じた疑問点などを話し合う。後半では、家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題という、ここまでの授業内容の確認と補足を行い、ポイントを確認する。	2
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。	2
13	諸外国の高齢者について(発表)	課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」のレポートについて各自が発表し全体で討議する。後半では諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。	2
14	戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。	2
15	まとめ・振り返り	この授業を通して学んだ事項を振り返りまとめとする。家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題、高齢社会の現状、高齢者の生活、高齢者介護と家族について、内容を確認・補足し、授業のポイントを確認する。最終レポートを指定日時までに提出する。	2

科目名	生活芸術学入門		
担当教員	浅野 章, 齊藤 弘久, 小松 太志, 黒沼 令, 松田 理香	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	I		
授業概要	生活芸術学入門では芸術や美についてのさまざまな考え方に触れながら、生活と芸術（美術を中心に）の関わりを考えます。この講義では地域創成学科アート&デザイン系教員によるオムニバス形式をとり、各教員の専門を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深める一助とします。また担当教員の紹介する芸術作品などにも幅広く触れ、それらを題材として意見を出し合いながら生活と芸術の関わりを考える授業とします。		
達成目標	オムニバス形式として各教員の高度な専門性を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深めることを目標とします。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし（必要な資料等は各担当教員が準備します）		
参考書	新版造形の基礎技法（建帛社） 美学辞典（竹内敏雄編集/弘文堂）		
学生への要望	生活芸術という概念をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイム	授業に関する質問は各教員の授業のない時間帯（下記参照）に生芸研究室で受けます。ただしV時限目は17:00までとします。 浅野→火曜日IV・V、水曜日I・II・V、木曜日I・VにNo.1生芸研究室 齊藤→月曜日II～V時限 火曜日II～V時限、No.2デザイン室 小松→火曜日III・IV時限、No.2生芸科研究室 黒沼→月曜日I～IV、彫刻室 松田→月曜日（II～IV）、木曜日（II）、金曜日（I・II・IV）に、地域創成学科研究室で受けます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	生活芸術学入門のガイダンス及び絵画（1）	この授業の目標と内容、および授業の進め方、授業資料・参考書などについてのガイダンス。また絵画についての考え方を解説する。	【事前学習】授業内容に関連する「絵画」について事前に調べておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
2	絵画（2）	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し、愛され、生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないだろう。その理由を、参考資料を用いながら少しずつ紐解いていく。	【事前学習】授業に関連する「絵画」について事前に調べておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
3	絵画（3）	絵画を中心とした参考作品画像を紹介、解説する。それを基に、生活の中での絵画の生かし方、楽しみ方、考え方を探っていく。授業後半に生活芸術学入門・絵画に関しての簡単な小テストを実施する。	【事前学習】授業に関連する「絵画」について事前に調べておく。また小テストに備え、自分の考えをまとめておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
4	デザイン（1）	教員の自己紹介とグラフィックデザインにおける印刷との関係を解説。	【事前学習】グラフィックの意味を各自が調べる。【事後学習】生活の中グラフィックを探してみる。	30
5	デザイン（2）	「生活をデザインする」とか「人生をデザインする」とよく言われますが、いろいろ形を変えるデザインを考えて行きます。	【事前学習】幅広いデザインの意味を調べておく。【事後学習】興味を持った分野をまとめてみる。	30
6	デザイン（3）	ブランディングとデザインから見えてくる自己表現を考えます。	【事前学習】ブランディングの意味を調べておく。【事後学習】自分の個性を明確にする表現をまとめる。	30
7	CGアート（1）	造形活動とキャリア形成の関係について考察します。コンピュータによる造形表現（デザイン含む）と担当教員のキャリアを話題として、造形活動とキャリアを考える契機とします。	【事前学習】授業に関連する「映像メディア表現」について事前に調べる。（1時間以上） 【事後学習】生活の中の映像メディアについて調べる。（1時間以上）	30
8	CGアート（2）	地域創成学科においてコンピュータによる造形表現を学修する意義について理解を深めます。地域創成学科では、多様な芸術領域を横断して学修します。コンピュータによるデザイン・造形表現における学修と他領域の学修がどのような関わり合いを持ち、成果になり得るのかを過去の学生作品を紹介しながら解説します。	【事前学習】授業に関連する「映像メディア表現」について事前に調べる。（1時間以上） 【事後学習】自分の目標とする進路と映像メディアの関わりについて考察し、レポートにまとめる。（1時間以上）	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	CGアート（3）	映像メディア表現に対する理解を深めます。 映像メディア表現を中心として、メディアアート、デザイン分野の近年の動向を紹介します。	30
10	彫刻（1）	教員自己紹介を兼ねて自分の作品を紹介しながら、彫刻という表現活動が自己形成にどのように関係してきたか解説します。	30
11	彫刻（2）	彫刻という芸術分野が少しでも身近に感じられるよう地域創成学科で彫刻を学習する目的や意義など、これまでの学生の活動や作品を参考にして解説します。また地域創成学科で体験できる彫刻の技法や、制作過程など、具体的に紹介します。	30
12	彫刻（3）	現代の彫刻表現について、どのような時代的変化を経て来たか、これからどのような表現が求められているか、様々な作品を紹介しながら解説します。	30
13	デザイン（4）	教員の自己紹介を交えて生活の中にある身近なデザインについて考えます。	30
14	デザイン（5）	ポケットティッシュ（小型グラフィック）を使った広報活動について	30
15	デザイン（6）	ポケットティッシュ（小型グラフィック）の制作と提出 ※もみじ会で配布します	30

科目名	インターンシップ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員	桑野 聡, 山口 猛, 仲田 佐和子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	この授業では、事前学習として、実習先企業（団体）を調べることやビジネスマナー、プレゼンテーションについて学習します。その後、企業（団体）等において就業体験をします。			
達成目標	1. 将来のキャリアに関連した就業体験で経験を積む。 2. 実際の職場のマナーやルール、働いている方とのコミュニケーションを通し、職業意識を高める。			
受講資格	地域創成学科 2年生	成績評価 方法	事前学習30点、実習状況60点、実習成果報告10点	
教科書	特に指定しない			
参考書	随時配布する			
学生への要望	インターンシップに参加する目的を明確に持ち、積極的に取り組むこと			
オフィスタイト	コーディネーター担当の山口が全体の質問を受け付ける。 月曜日 2・4限、芸術館2階 No.2 生芸科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	インターンシップの内容、心構え、この授業で目指していることを理解する。	インターンシップの目的を理解するために、話の内容をまとめる。	30
2	実習先の概要(1回目)	インターンシップ先の説明とアンケート調査	自分の将来の目標と照らし合わせて、インターンシップ先の特徴を振り返る。	30
3	実習先の概要(2回目)	インターンシップ先の説明とアンケート調査	自分の将来の目標と照らし合わせて、インターンシップ先の特徴を振り返る。	30
4	指導教員の就業経験	指導教員の、実際のこれまでの就業経験（良かったこと、悪かったこと、工夫していることなど）の話聞き、就業意識の理解を深める。	指導教員の発表内容をまとめ、次回のグループワークに備える。	30
5	インターンシップ（就業経験）を理解するためのグループワーク	第4回の内容を踏まえて、自分が将来就業する際に予想される良いこと、悪いこと、工夫したいことを考え、インターンシップに取り組む意義をより深く知る。	グループワークで得られたさまざまな意見を振り返りつつ、自分自身のインターンシップに取り組む意義として意識を持つ。	30
6	事前学習（プレゼンテーション計画）	インターンシップに必要な、意見創出・まとめ・発言・話し方などの能力を身に着けるために、プレゼンテーション実習（PowerPointによるプレゼンテーション）を行う。今回は、発表テーマや発表準備の名が手について説明する。	発表テーマに基づき、内容をまとめる。	60
7	事前学習（プレゼンテーション準備）	インターンシップに必要な、意見創出・まとめ・発言・話し方などの能力を身に着けるために、プレゼンテーション実習（PowerPointによるプレゼンテーション）を行う。今回は、資料作成を行う。	PowerPointの各種機能を理解する。	60
8	事前学習（プレゼンテーション実施）	インターンシップに必要な、意見創出・まとめ・発言・話し方などの能力を身に着けるために、プレゼンテーション実習（PowerPointによるプレゼンテーション）を行う。今回は、プレゼンテーションの実施と相互評価を行う。	プレゼンテーションの相互評価を通して、自分の癖を理解する。	60
9	直前指導	実習ノートの書き方。実習に関する諸注意。	実習ノートの取り扱い方を復習する。	60
10	学外実習 1日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
11	学外実習 2日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
12	学外実習 3日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30
13	学外実習 4日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	学外実習 5日目	実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間を基本とし、1日5コマ分とする。 *実習先によっては、実施期間が変動する可能性もある。	実習ノートの記入を通して、実習内容を振り返り、就業の意義を理解する。
15	まとめと事後の指導	実習のまとめと報告 学内での実習体験発表。グループ討議。学外実習ノートの整理と提出。	実習ノートをまとめる。

科目名	基礎学力トレーニング		対象 単位数 必修	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	浅野 章 桑野 聡 黒沼 令 松田 理香 佐藤 愛未			
開講期	I			
授業概要	学生生活に必要な基礎的能力・資質を獲得し、自身の課題を見つけ、解決する技量、および授業聴講に必要な技量を養い、自学自習の学習習慣を身に付けます。また大学での講義の受け方、ノートの取り方から図書館の使い方、教員とのコミュニケーションの取り方を学ぶことで、大学生生活を有益に活用するための準備を行います。更に小・中・高校で学んできた英国数理社の一般常識的な能力を確認し、大学の専門教育に必要な基礎力を改めて準備すると共に、公務員試験や一般企業への就職活動を進めるための汎用的な能力の確保にも努めます。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を行い、就職活動を想定したSPIや一般常識の対策方法を理解できる 自主学习やグループ学習の習慣を身につける SPI模擬試験を受験する 			
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	授業出席状況・態度、および課題達成状況を総合的に評価する。	
教科書	シューカツワークBook SPI・就職適性試験対策eラーニング「国語カトレーニング講座」 SPI・就職適性試験対策eラーニング「計算カトレーニング講座」			
参考書	なし			
学生への要望	自分の現状を冷静に受け止め、短大生活2年間で成長しようとする主体的な気持ちと姿勢を持つことが大前提となることを自覚できること。			
オフィスタイム	担当教員（アドバイザー）の指示に従ってください。 水曜 Ⅲ・Ⅳ時限			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	授業の目的と進め方を解説及び、実力確認テストの実施。	30
2	自主学习方法を学ぶ①	前回テストの講評を行います。その後、就職試験・公務員試験の特徴を確認し、どのような力が基礎力として求められるのかをSPIを例に解説します。これによって目的に合った学習方法を学ぶ必要性を確認し、就職部企画の有効活用を薦めます。	30
3	自主学习方法を学ぶ②	『書きこみ式「なりたい自分」を目指す シューカツワークBook』『SPI・就職適性試験対策eラーニング「国語カトレーニング講座」「計算カトレーニング講座』を使った学習を解説します。	30
4	自主学习の実践①	シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。	30
5	自主学习の実践②	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）	30
6	自主学习の実践③	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）	30
7	自主学习の実践④	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	自主学習の実践⑤	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）	30
9	グループ学習方法を学ぶ	ラーニングcommons等を使ったグループ学習方法を理解する。	30
10	グループ学習の実践①	「私の望む学生生活」のグループ発表に向けたプレゼンテーションを考える。	30
11	グループ学習の実践②	「私の望む学生生活」のグループ発表を実施する。	30
12	学習方法の計画①	今後の学習について、就職ガイダンスが始まったことを受けて就職部の講座・模擬試験などについて解説し、目標を設定した学習計画の作成を指導する。	30
13	学習方法の計画②	Ⅱ期以降の学習方法を考え、各自の学習プランを作成し提出する。また、目的に応じて学生が協力して運営する勉強会の結成などを検討する。	30
14	確認テスト	授業を総括した実力確認テストの実施。	30
15	まとめ	就職部企画のSPI試験を全員が受験する。前回提出された学習プランを返却し、2年間の計画的で継続的な学習を頑張れるように支援する。	30

平成31年度

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座 I		
担当教員	アドバイザー		
開講期	通年		
対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 0.5単位 必修		
授業概要	<p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものである。高度な芸術に接して感動することをもって、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てる。</p> <p>教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものである。一流の文化人の講演を聴き、個々の人生について深く思慮する力をつける。</p> <p>芸術鑑賞講座として、年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有する。</p> <p>教養講座として、年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴く。</p> <p>芸術鑑賞講座と教養講座併せて予定の7回のほか、「特別教養講座」を行う場合がある。</p>		
達成目標	知的で心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める。		
受講資格	本学の全学生	成績評価 方法	認定科目 感想文の提出による。
教科書	リーフレット、講演資料		
参考書	図書館で関連図書を展示する。		
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動及び考えを文章にすること。		
オフィスタイム	集会時		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	第1回 教養講座 4/22	作家 玄侑宗久氏 講演	三春町の福聚寺の御住職です。「中陰の花」で第125回芥川賞受賞。ほか、数多くの作品を執筆していますので、あらかじめその作品を読んでみて、作家の考えに触れてみましょう。	120
2	第2回 教養講座 5/27	読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏 講演	メディアでおなじみの読売新聞社特別編集委員の橋本五郎氏。記者としての経験から、現在の日本、世界の情勢を鋭く解説していますので、みなさんも少し考えてみてください。	90
3	第205回 芸術鑑賞講座 6/19	「野村万蔵 狂言」	古典芸能である狂言。現在の「お笑い」のご先祖様のような存在です。笑いのなかに様々な教訓が含まれています。狂言の歴史について、少し勉強してみてください。	90
4	第206回 芸術鑑賞講座 7/4	ジャンヌ・ダルク	フランスを救った勇敢な少女・ジャンヌダルク。オルレアン奇跡の解放に成功し「フランスを守る聖女」と呼ばれながら、最後は、19才で火あぶりの刑に処せられた彼女はどんな女性だったのでしょうか。	90
5	第3回 教養講座 9/18	福島県立医科大学 大平哲也教授 講演	福島県いわき市生まれ。福島県立医科大学医学部疫学講座 主任教授。ストレス発散や笑いと健康をテーマに多くの講演に引っ張りだこの先生です。ホームページなどでは先生の講演内容も掲載されているので見てみましょう。	60
6	第207回 芸術鑑賞講座 10/8～10/13	「浮世絵展」	第73回もみじ会展です。江戸時代に成立し、江戸庶民に愛された「浮世絵」。日本を代表する美術作品「浮世絵」。菱川師宣の見返り美人図、歌川広重の東海道五十三次、葛飾北斎の富嶽三十六景、など海外でも高い評価を受けている作品が数多くあります。その歴史を調べてみてください。	60
7	第208回 芸術鑑賞講座 10/25	「ソフィア・ゾリスデン 名曲の花束」	ブルガリアが世界に誇る名門室内合奏団、ソフィア・ゾリスデンがやってきます。国際的に活躍し、数多くの国際音楽祭にも出演していますので、作品を一度聴いてみましょう。	60

平成31年度

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 2年 0.5単位 必修
担当教員	アドバイザー			
開講期	通年			
授業概要	<p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものである。高度な芸術に接して感動することをもって、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てる。</p> <p>教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものである。一流の文化人の講演を聴き、個々の人生について深く思慮する力をつける。</p> <p>芸術鑑賞講座として、年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有する。</p> <p>教養講座として、年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴く。</p> <p>芸術鑑賞講座と教養講座併せて予定の7回のほか、「特別教養講座」を行う場合がある。</p>			
達成目標	知的で心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める。			
受講資格	本学の全学生	成績評価 方法	認定科目 感想文の提出による。	
教科書	リーフレット、講演資料			
参考書	図書館で関連図書を展示する。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動及び考えを文章にすること。			
オフィスタイム	集会時			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	第1回 教養講座 4/22	作家 玄侑宗久氏 講演	三春町の福聚寺の御住職です。「中陰の花」で第125回芥川賞受賞。ほか、数多くの作品を執筆していますのメディアでおなじみの読売新聞社特別編集委員の橋本五郎氏。	120
2	第2回 教養講座 5/27	読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏 講演	記者としての経験から、現在の日本、古典芸能である狂言。現在の「お笑い」のご先祖様のような存在です。笑いのなかに様々な教訓が含まれています。狂言の歴史について、少し勉強	90
3	第205回 芸術鑑賞講座 6/19	「野村万蔵 狂言」	フランスを救った勇敢な少女・ジャンヌダルク。オルレアン奇跡の解放に成功し「フランスを守る聖女」と呼ばれながら、最後は、19才で火あぶりの	90
4	第206回 芸術鑑賞講座 7/4	ジャンヌ・ダルク	福島県いわき市生まれ。福島県立医科大学医学部疫学講座 主任教授。ストレス発散や笑いと健康をテーマに	90
5	第3回 教養講座 9/18	福島県立医科大学 大平哲也教授 講演	第73回もみじ会展です。江戸時代に成立し、江戸庶民に愛された「浮世絵」。日本を代表する美術作品「浮世絵」。	60
6	第207回 芸術鑑賞講座 10/8～10/13	「浮世絵展」	ブルガリアが世界に誇る名門室内合奏団、ソフィア・ゾリスデンがやってきます。国際的に活躍し、数多くの国	60
7	第208回 芸術鑑賞講座 10/25	「ソフィア・ゾリスデン 名曲の花束」		60